

## 第4章 調査結果の分析



## 第4章 データの分析

### 4.1 データの分析

調査結果の一次集計として単純集計と、属性や関連する質問項目間のクロス集計を行い経年変化の分析を行った。各質問項目の該当ページは以下の通り。

問 1	.....	p.	52	問 8	.....	p.	82
問 2	.....	p.	53	問 9	.....	p.	84
問 3	.....	p.	56	問 10	.....	p.	83
問 4	.....	p.	57	問 11-1	.....	p.	90
問 5	.....	p.	59	問 11-2	.....	p.	91
問 6	.....	p.	104	問 12-1	.....	p.	93
問 7-a	.....	p.	62	問 12-2	.....	p.	94
問 7-b	.....	p.	64	問 13	.....	p.	114
問 7-c	.....	p.	71	問 14	.....	p.	116
問 7-d	.....	p.	73	問 15	.....	p.	96
問 7-e	.....	p.	67	問 16	.....	p.	98
問 7-f	.....	p.	68	問 17	.....	p.	117
問 7-g	.....	p.	102	問 18	.....	p.	123
問 7-h	.....	p.	103	問 19	.....	p.	125
問 7-i	.....	p.	106				
問 7-j	.....	p.	108				
問 7-k	.....	p.	110				
問 7-l	.....	p.	112				
問 7-m	.....	p.	65				
問 7-n	.....	p.	69				
問 7-o	.....	p.	86				
問 7-p	.....	p.	75				
問 7-q	.....	p.	77				
問 7-r	.....	p.	120				
問 7-s	.....	p.	122				
問 7-t	.....	p.	79				



---

---

## 世論調査結果

---

---

## 調査概要

---

<2013年12月>

- 調査地域 : 全国
  
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人
  
- サンプリング : 住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
  
- 調査方法 : 個別訪問留置調査
  
- サンプル数 : 1200人
  
- 実査期間 : 2013年11月29日(金)～12月11日(水)

## I 章 回答者の属性

## 1. 性別

	(%)	
	男性	女性
全体(N=1200)	49.3	50.7

## 2. 年代

	(%)						
	10代*	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=1200)	6.0	13.0	16.9	17.1	15.5	18.2	13.3

\*10代は15-19歳

## 3. 居住地

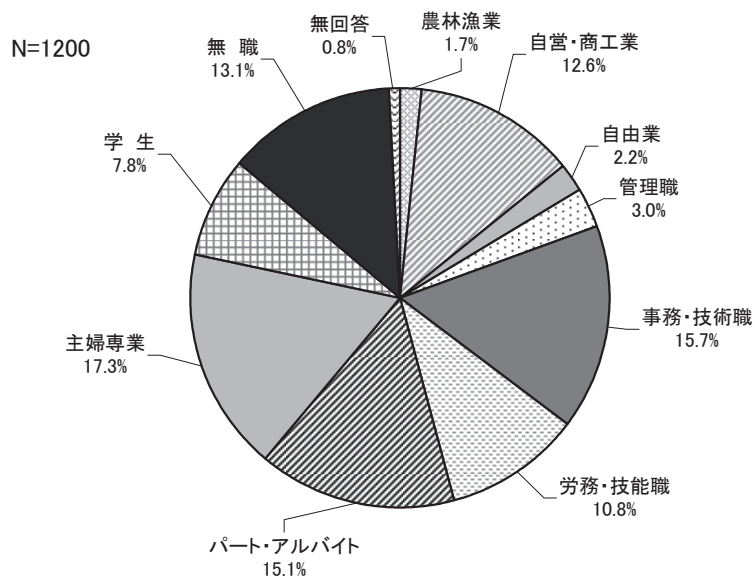
全体(N=1200)			
東日本	北海道	4.5	原発立地県
	青森県	1.5	原発立地県
	岩手県	0.5	非立地県
	宮城県	2.0	原発立地県
	秋田県	1.0	非立地県
	山形県	1.0	非立地県
	福島県	1.5	原発立地県
	茨城県	1.5	原発立地県
	栃木県	2.0	非立地県
	群馬県	1.5	非立地県
	埼玉県	6.5	非立地県
	千葉県	5.0	非立地県
	東京都	10.0	非立地県
	神奈川県	7.0	非立地県
	新潟県	1.5	原発立地県
	富山県	1.0	非立地県
	山梨県	1.0	非立地県
	長野県	1.5	非立地県
静岡県	2.5	原発立地県	

原発立地県	20.0
原発非立地県	80.0

(%)			
西日本	石川県	0.5	原発立地県
	福井県	1.0	原発立地県
	愛知県	6.0	非立地県
	三重県	2.0	非立地県
	岐阜県	1.5	非立地県
	滋賀県	1.0	非立地県
	京都府	2.0	非立地県
	大阪府	7.0	非立地県
	兵庫県	4.0	非立地県
	奈良県	1.5	非立地県
	和歌山県	0.5	非立地県
	鳥取県	0.5	非立地県
	島根県	0.5	原発立地県
	岡山県	2.0	非立地県
	広島県	2.0	非立地県
	山口県	1.0	非立地県
	徳島県	1.0	非立地県
	香川県	0.5	非立地県
	愛媛県	1.0	原発立地県
	高知県	0.5	非立地県
	福岡県	4.0	非立地県
	佐賀県	0.5	原発立地県
	長崎県	1.0	非立地県
	熊本県	1.0	非立地県
	大分県	1.0	非立地県
	宮崎県	1.0	非立地県
	鹿児島県	1.5	原発立地県
	沖縄県	1.0	非立地県



#### 4. 職業



#### 5. 未既婚

(%)

	既婚	未婚	離死別	無回答
全体(N=1200)	70.1	20.4	9.4	0.2

#### 6. 学歴

(%)

	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=1200)	75.8	23.7	0.5

#### 7. 子どもの有無

(%)

	子ども無	子ども有	その他	無回答
全体(N=1200)	29.3	61.0	8.7	1.1



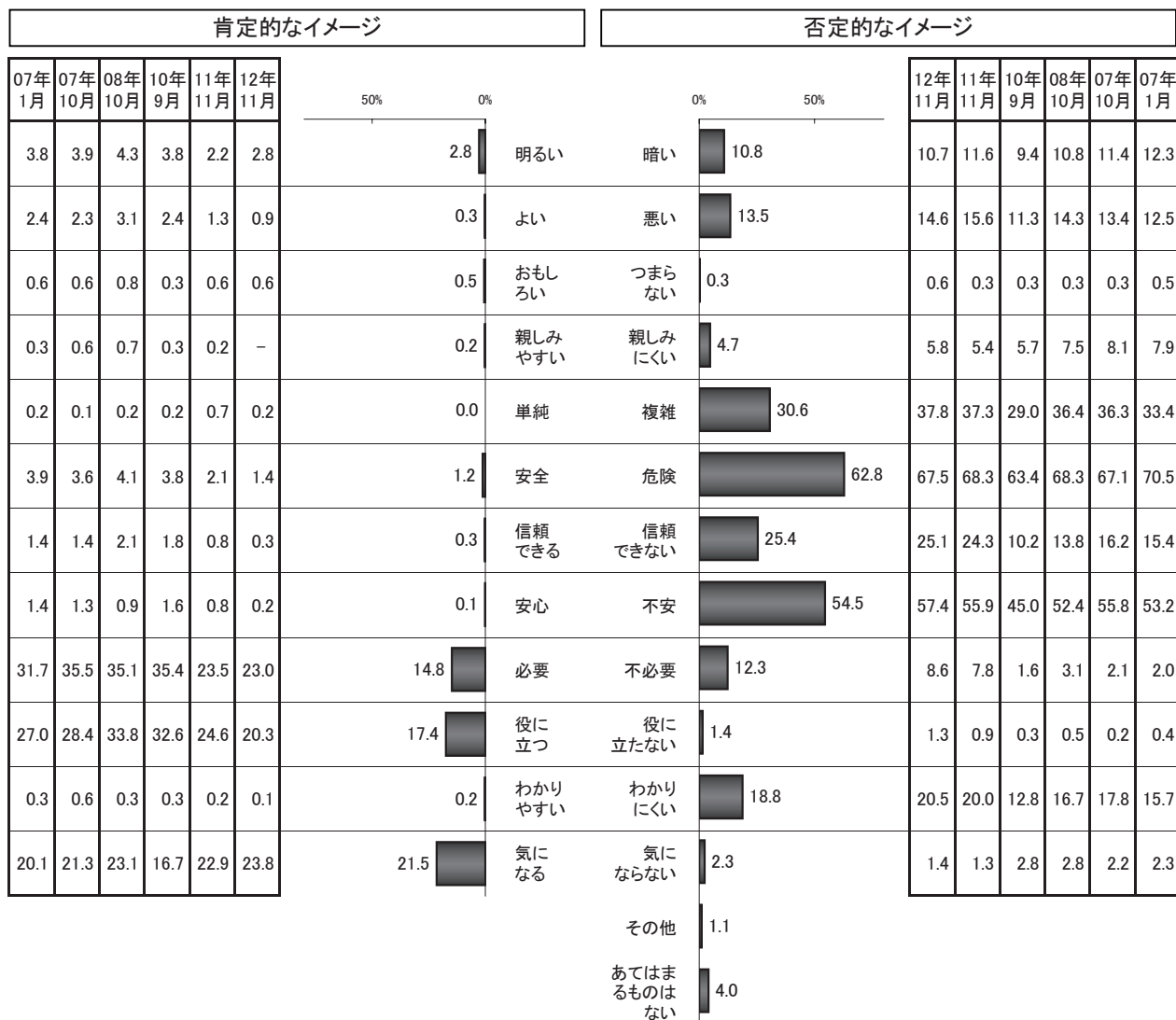
## Ⅱ章 原子力・放射線に対する イメージ

## ●原子力に対するイメージ

「原子力」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージより否定的なイメージの反応が高く、「危険」(62.8%)、「不安」(54.5%)、「複雑」(30.6%)に回答が集中。一方、肯定的なイメージは、「気になる」(21.5%)、「必要」(14.8%)、「役に立つ」(14.8%)という回答が多く、他の項目はきわめて低い反応水準にある。肯定的／否定的イメージとも上位3項目は前回と同様。「必要」「役に立つ」という認識は福島事故後から減少傾向が続く。

問1. あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



●放射線に対するイメージ

「放射線」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージよりも否定的なイメージの反応が圧倒的に高く、「危険」(72.5%)、「不安」(52.9%)という回答が突出している。一方、肯定的なイメージでは「気になる」(17.3%)、「役に立つ」(16.0%)、「必要」(13.6%)という回答が高い。肯定的／否定的イメージともに、前回と同傾向である。

問2. あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

肯定的なイメージ						否定的なイメージ												
07年 1月	07年 10月	08年 10月	10年 9月	11年 11月	12年 11月					12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月			
0.3	1.0	1.1	0.5	0.5	0.2	50%	0%	明るい	暗い	17.5			20.7	20.1	19.0	19.9	18.7	21.3
1.4	1.1	2.3	1.2	0.6	0.8		0%	よい	悪い	24.6			27.2	28.3	21.2	25.0	21.3	22.2
0.3	0.8	0.2	0.3	0.5	0.4		0%	おもしろい	つまらない	0.8			0.9	0.3	0.3	0.4	0.7	0.4
0.3	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1		0%	親しみやすい	親みにくい	3.3			5.4	4.8	5.2	7.7	5.4	6.2
0.3	0.3	0.2	-	0.3	0.3		0%	単純	複雑	20.1			23.2	24.0	21.3	24.9	24.2	21.8
1.7	1.2	2.0	1.3	1.3	0.9		0%	安全	危険	72.5			74.0	73.2	71.9	76.3	71.8	75.6
0.6	1.2	1.7	1.4	0.6	0.8		0%	信頼できる	信頼できない	17.8			17.5	18.3	10.5	14.8	12.9	14.8
1.2	0.9	1.7	0.8	0.8	0.9		0%	安心	不安	52.9			54.8	53.8	46.2	51.7	48.8	51.4
15.6	17.8	19.7	18.8	11.8	10.6		0%	必要	不必要	8.9			10.1	10.8	3.7	4.3	3.4	4.3
22.4	27.2	29.6	28.1	16.3	16.0		0%	役に立つ	役に立たない	2.8			2.3	2.3	1.9	1.3	1.0	1.3
0.3	0.5	0.3	0.1	0.7	0.3		0%	わかりやすい	わかりにくい	13.5			13.8	17.6	10.0	11.8	13.2	12.0
17.6	15.3	17.1	13.7	20.9	17.8		0%	気になる	気にならない	1.0			1.4	1.0	2.0	0.9	1.1	1.7
								その他		2.3								
								あてはまるものはない		4.4								

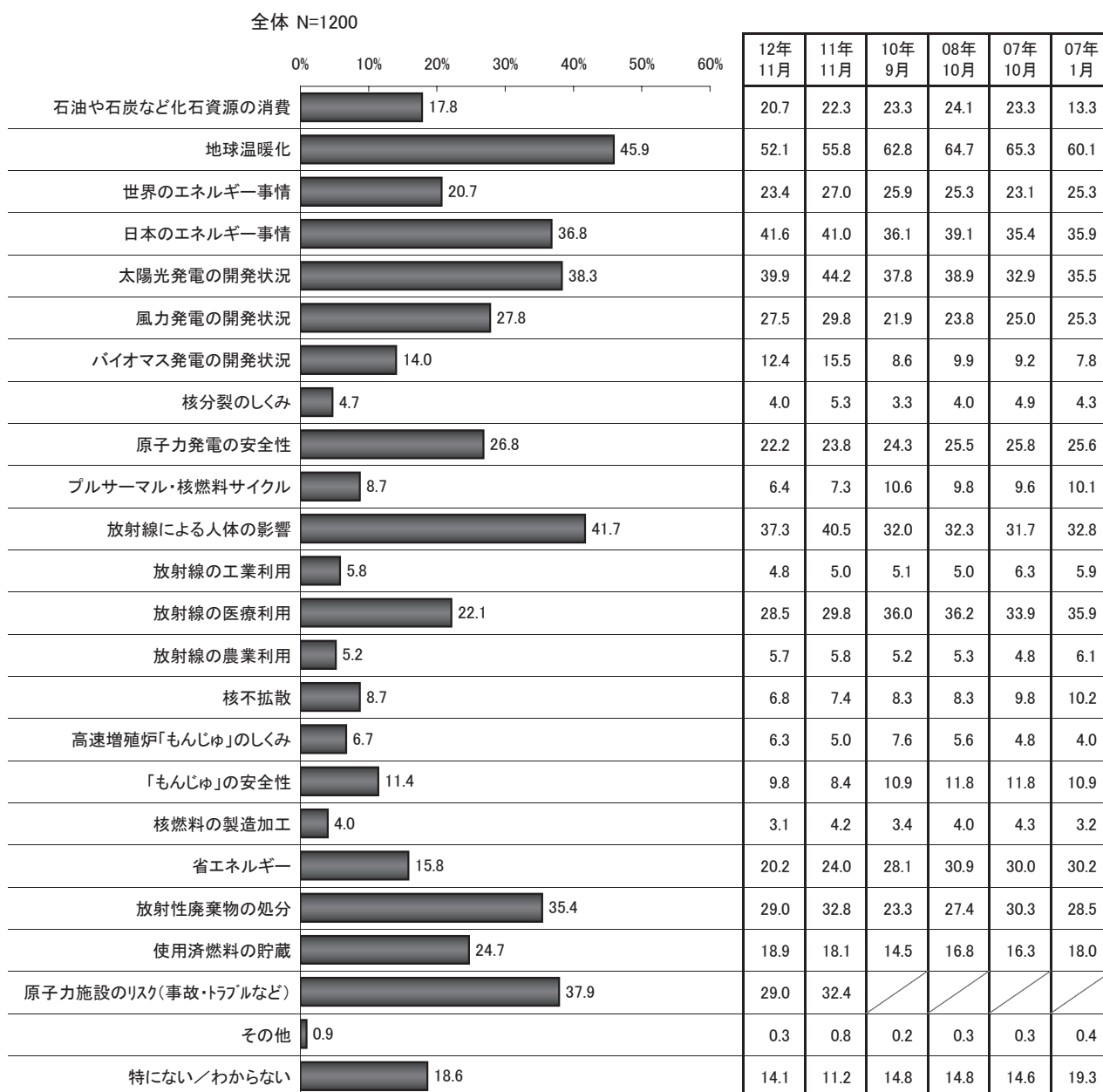


### Ⅲ章 原子力・放射線・エネルギーについての 関心・知識

## ●原子力・放射線・エネルギー分野への関心

原子力やエネルギーの分野について関心のあることを尋ねた。  
 突出して関心が高い項目は「地球温暖化」(45.9%)。次いで「放射線による人体の影響」(41.7%)、「太陽光発電の開発状況」(38.3%)、「原子力施設のリスク」(37.9%)、「日本のエネルギー事情」(36.8%)、「放射性廃棄物の処分」(35.4%)。  
 前回に比べて、「原子力施設のリスク」、「放射性廃棄物の処分」に対する関心が大きく増加した。

問3. 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。  
 次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



\* 07年1月の選択肢は「化石資源の消費」、07年10月は「石油や石炭など化石資源の消費」に変更

\* 07年1月、07年10月の選択肢は「高速増殖炉のしくみ」、08年10月からは「高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ」に変更

\* 「原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)」は、11年11月から追加

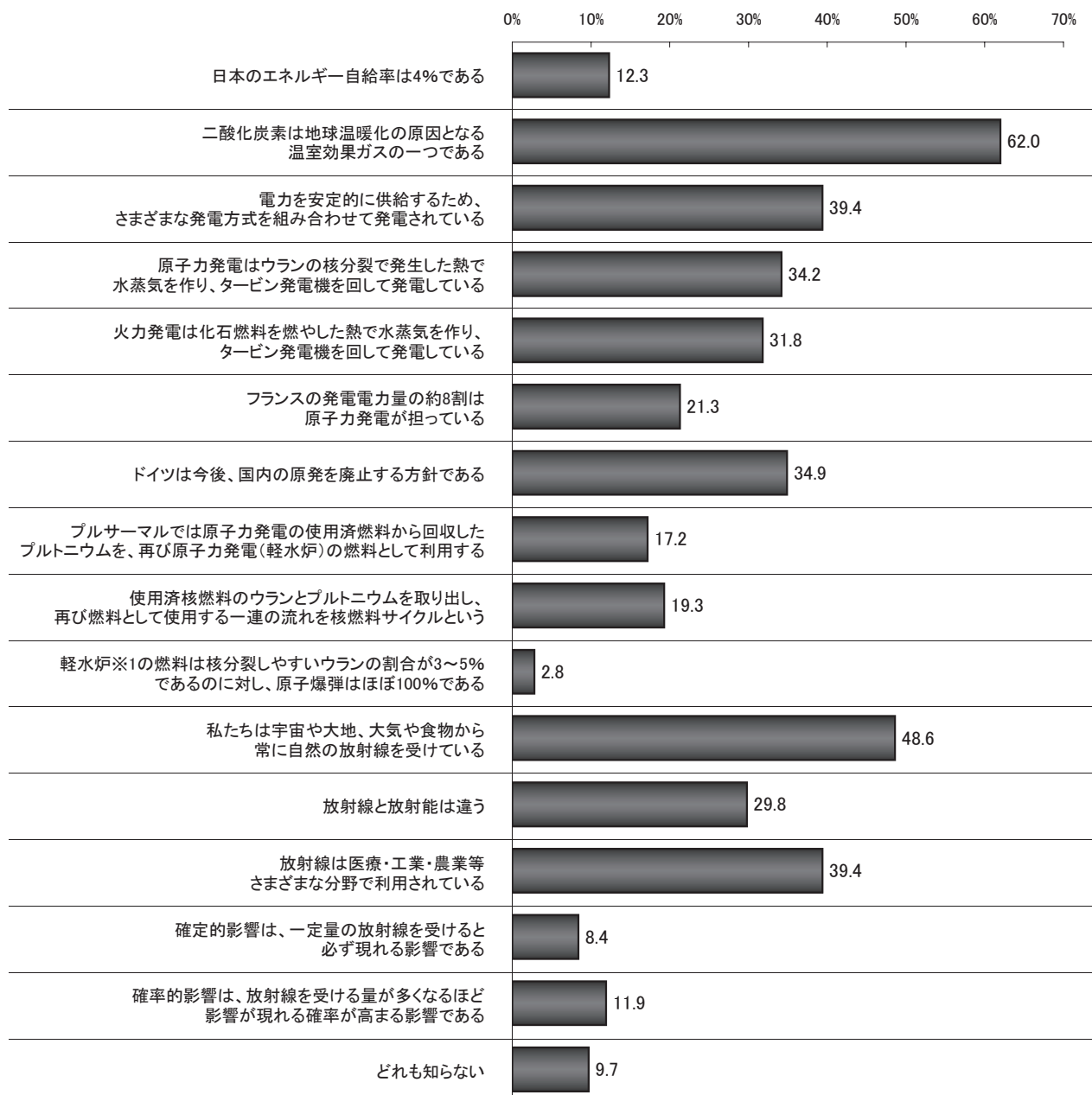


## ●原子力・エネルギー分野に関する知識

原子力やエネルギー分野で認知率が高い項目は、「二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである」(62.0%)、「私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている」(48.6%)。その他、電源のベストミックス、原子力発電の仕組み、火力発電の仕組み、ドイツの原発廃止、放射線利用が知られている。一方で、日本のエネルギー自給率、原発と原爆の違いについては、(正確には)知られていない可能性がある。

問4. 原子力やエネルギーの分野において、あなたをご存知のものはどれですか。  
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



<参考>

問. 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。  
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

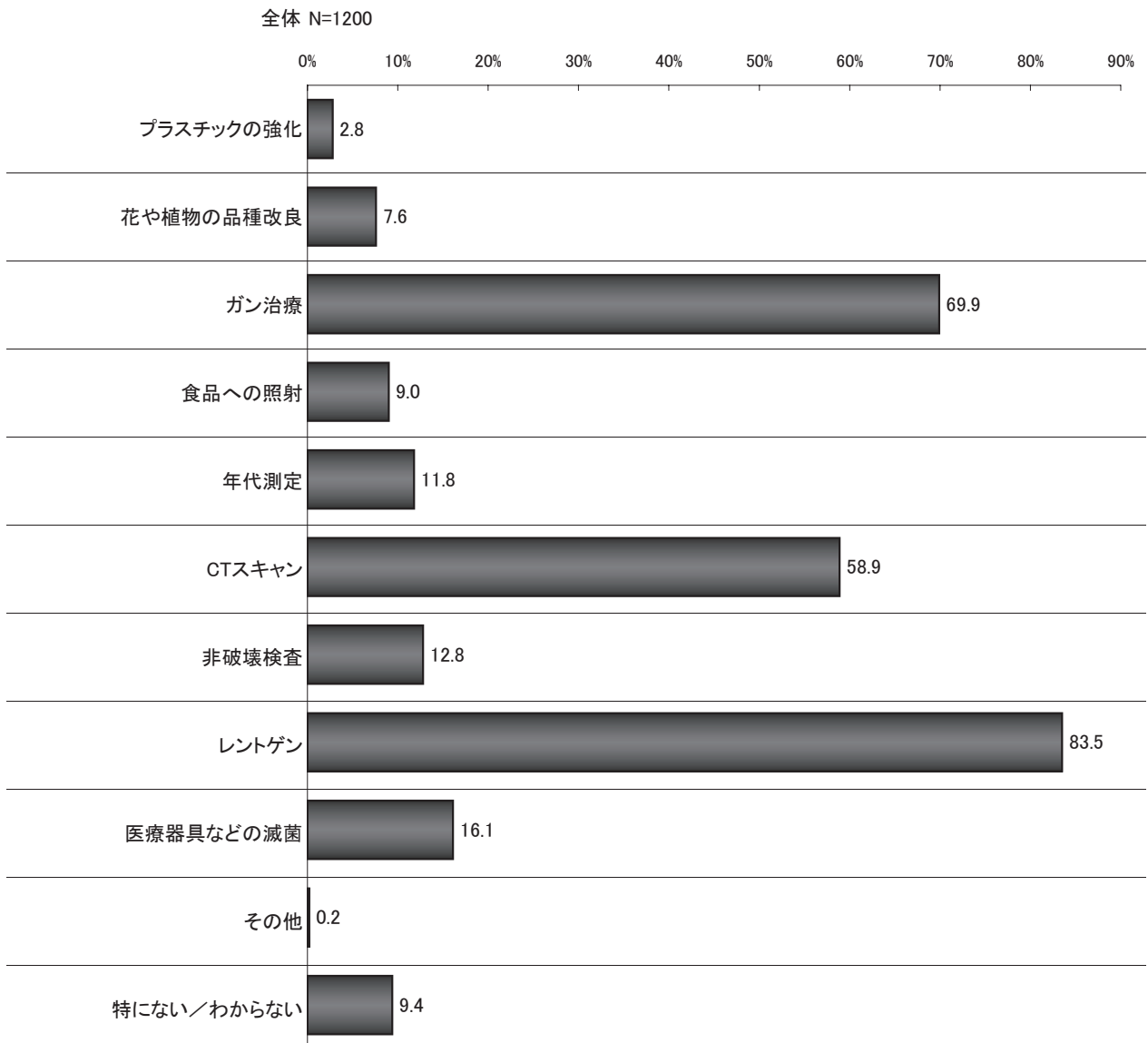
全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
自然界にある放射線について	42.3	41.9	26.9	23.8	25.4	24.1
放射線と放射能の違い	23.3	25.1	17.2	20.3	19.0	17.5
様々な分野での放射線の利用	39.3	41.2	37.6	37.7	36.5	35.0
放射線の量と人体への影響 の関係	39.1	34.9	38.5	36.5	40.4	41.3
原子力発電と原子爆弾の違い	26.3	31.3	28.8	30.3	28.8	27.6
プルサーマルや 核燃料サイクルのしくみ	14.1	14.7	17.5	14.6	14.8	11.9
どれも知らない	26.9	23.7	31.3	33.9	29.7	33.8

●放射線分野に関する知識

放射線利用の分野で認知率の高い項目は、「レントゲン」(83.5%)、「がん治療」(69.9%)、「CTスキャン」(58.9%)。前回までは関心を聞いているが、おおむね前回に関心が高かった項目について、認知度も高い結果となっている。

問5. 放射線利用の分野において、あなたをご存知のものはどれですか。  
ご存知のものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



<参考>

問. 放射線利用の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
プラスチックの強化	3.5	4.9	4.0	4.8	4.8	4.6
花や植物の品種改良	6.0	7.3	7.8	5.4	6.8	7.2
ガン治療	65.3	67.1	73.4	68.8	68.3	64.3
食品への照射	12.2	12.2	8.5	10.4	10.3	10.2
年代測定	7.1	8.3	6.4	6.8	7.3	7.8
CTスキャン	39.9	43.8	45.1	41.5	38.7	40.2
非破壊検査	12.1	13.3	12.2	12.7	11.1	11.7
レントゲン	46.0	47.2	52.0	49.0	48.4	49.3
医療器具などの滅菌	14.2	15.1	15.9	16.0	14.6	14.7
その他	0.3	0.6	-	0.3	0.2	0.2
特になし／わからない	20.7	18.8	16.3	18.8	18.7	23.1

## IV章 原子力・放射線・エネルギーについての ベネフィット認知

●原子力発電のベネフィット認知

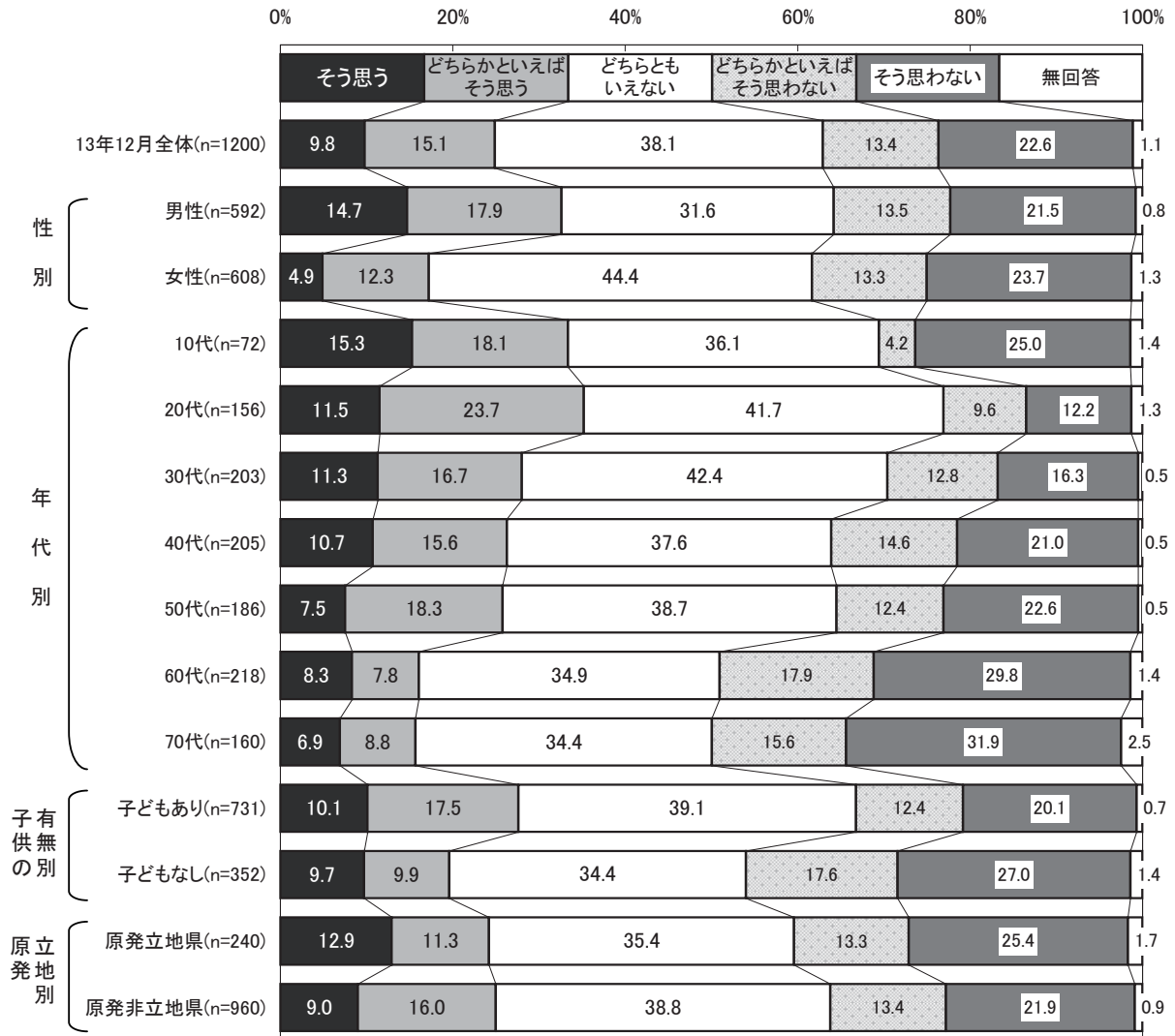
「原子力発電は必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は24.9%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は36.0%。前回の参考データより、否定的な意見に大幅に変化した可能性がある。

性別では、肯定的回答は女性(17.2%)よりも男性(32.6%)で高め。年代別にみると、10~20代で肯定的意見が3割程度と他の年代と比べると高い。一方60~70代では否定的意見が半数近くを占める。

子供の有無別でみると、子どもなし層の方が否定的な回答が高めになっている。

問7-a. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は必要である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【原子力発電】

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	36.1	32.3	23.2	4.3	2.8	1.5
07年10月	1200	37.7	30.3	23.1	3.4	3.8	1.8
08年10月	1200	40.5	31.4	19.9	4.6	2.4	1.2
10年9月	1200	49.1	28.3	16.7	1.5	2.6	1.8
11年11月	1200	15.7	22.0	35.9	12.1	13.1	1.3
12年11月	1200	12.6	23.4	38.1	10.9	13.7	1.3

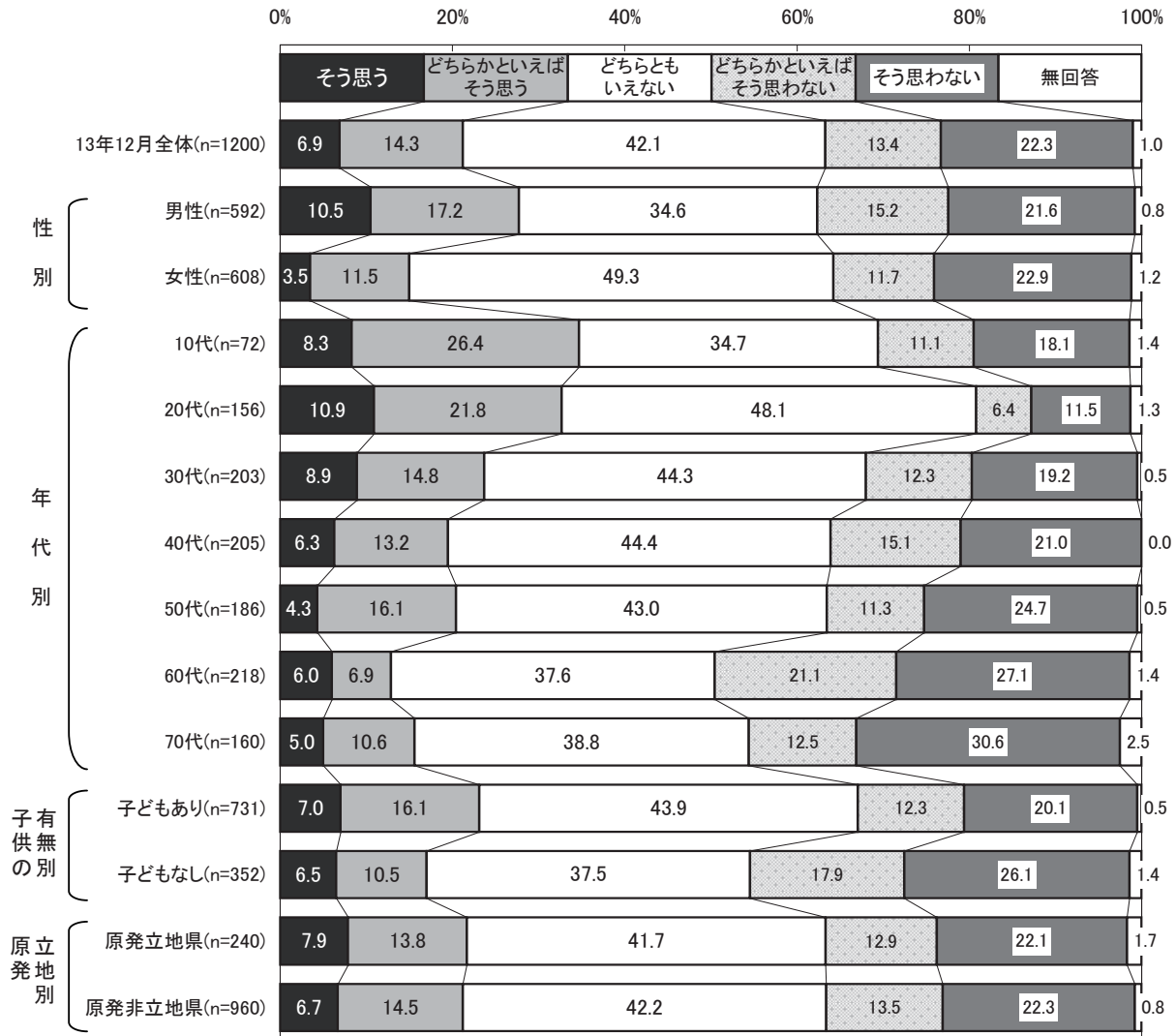
\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力発電のベネフィット認知

「原子力発電は有益である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は21.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は35.7%。前回の参考データより、否定的な意見に大幅に変化した可能性がある。  
性別では、肯定的回答は女性(15.0%)よりも男性(27.7%)で高め。年代別にみると、10~20代で肯定的意見が3割程度と他の年代と比べると高い。一方60~70代では否定的意見が半数近くを占める。

問7-b. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は有益である】

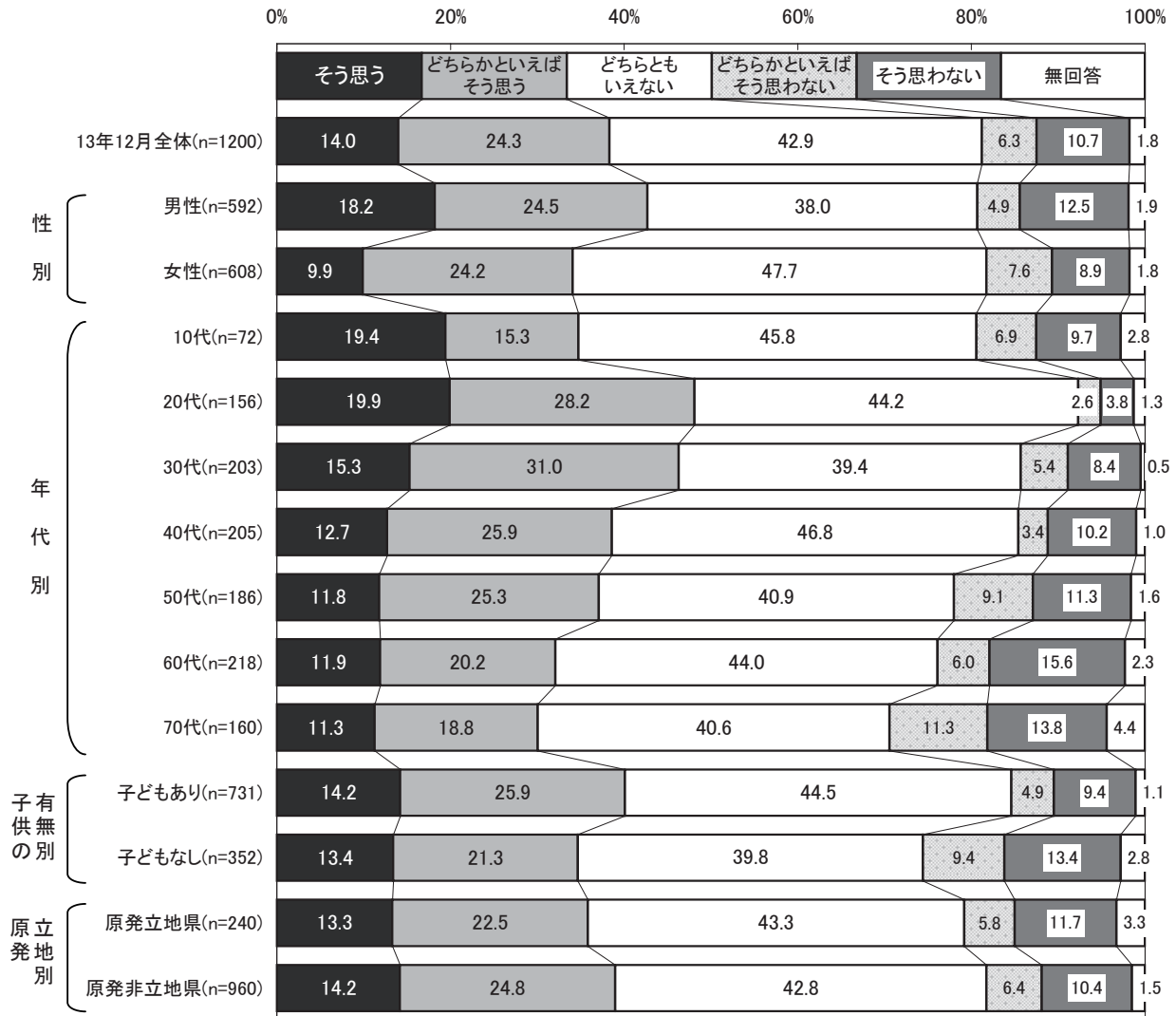




●原子力発電のベネフィット認知

「原子力の利用は暮らしの中で役に立つ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は28.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は17.0%。  
年代別にみると、若い層のほうが肯定的回答が多く、否定的回答が少ない。子供の有無別でみると、子どもなし層の方が否定的な回答が高めになっている。

問7-m. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【原子力の利用は暮らしの中で役に立つ】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【暮らしの中で活用する原子力の平和利用】

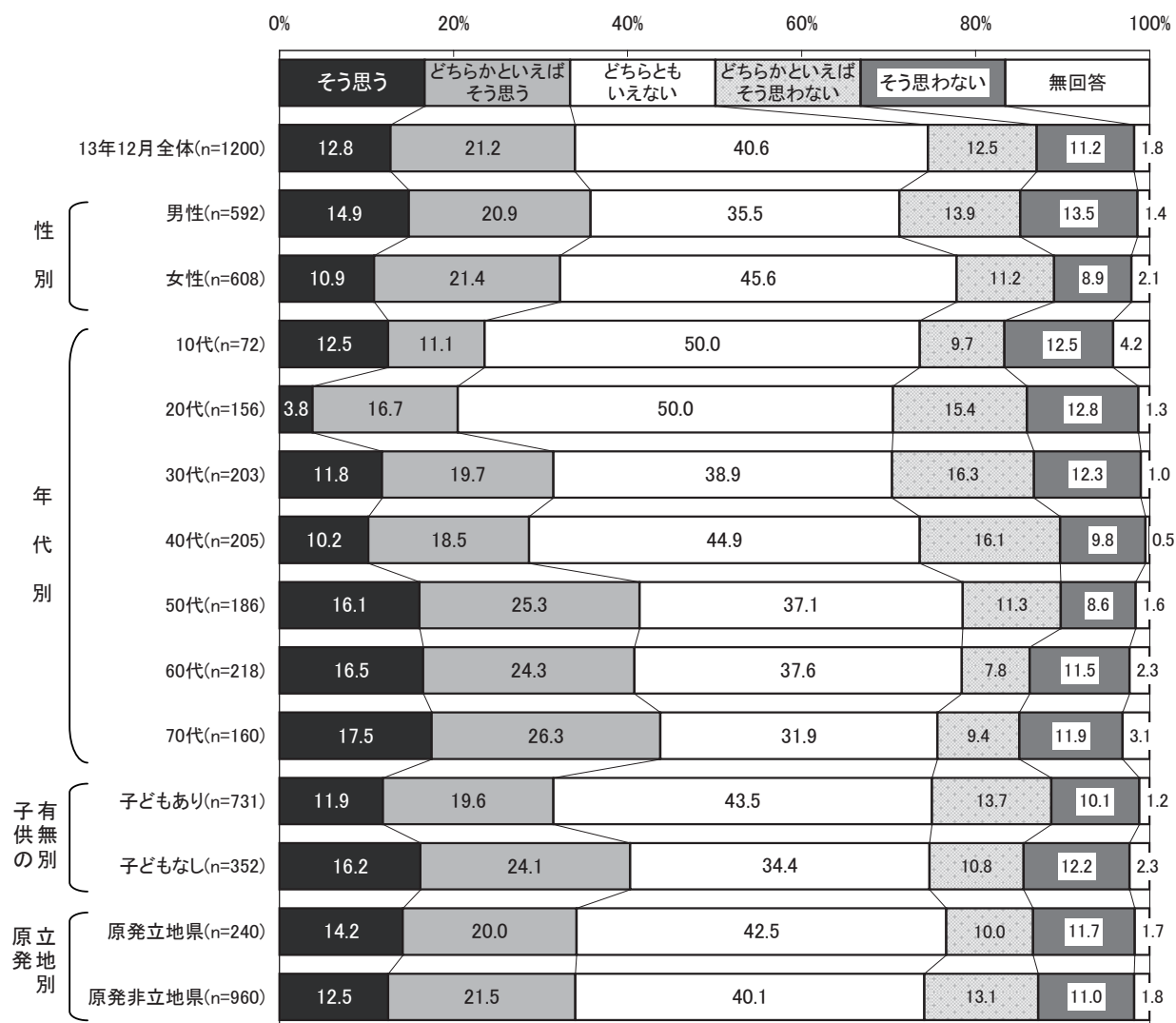
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	39.3	31.1	24.1	2.0	1.4	2.1
07年10月	1200	47.2	26.2	21.5	1.4	1.8	2.0
08年10月	1200	48.3	25.6	20.6	1.8	1.8	1.8
10年9月	1200	51.8	27.8	15.6	1.0	1.4	2.4
11年11月	1200	35.5	25.8	26.8	4.0	5.9	2.1
12年11月	1200	39.5	24.3	26.7	3.1	4.8	1.7

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は34.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は23.7%。(原子力の必要性に関しては、逆転項目であることに注意する。)  
 性別では、「どちらともいえない」層が男性よりも女性のほうがやや多い。年代別にみると、10~20代で「どちらともいえない」層が多い。一方50~70代では肯定的な回答(原子力の必要性について否定的意見)が多い。  
 子供の有無別でみると、子どもなし層の方が肯定的な回答(原子力の必要性について否定的意見)が高めになっている。

問7-e. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

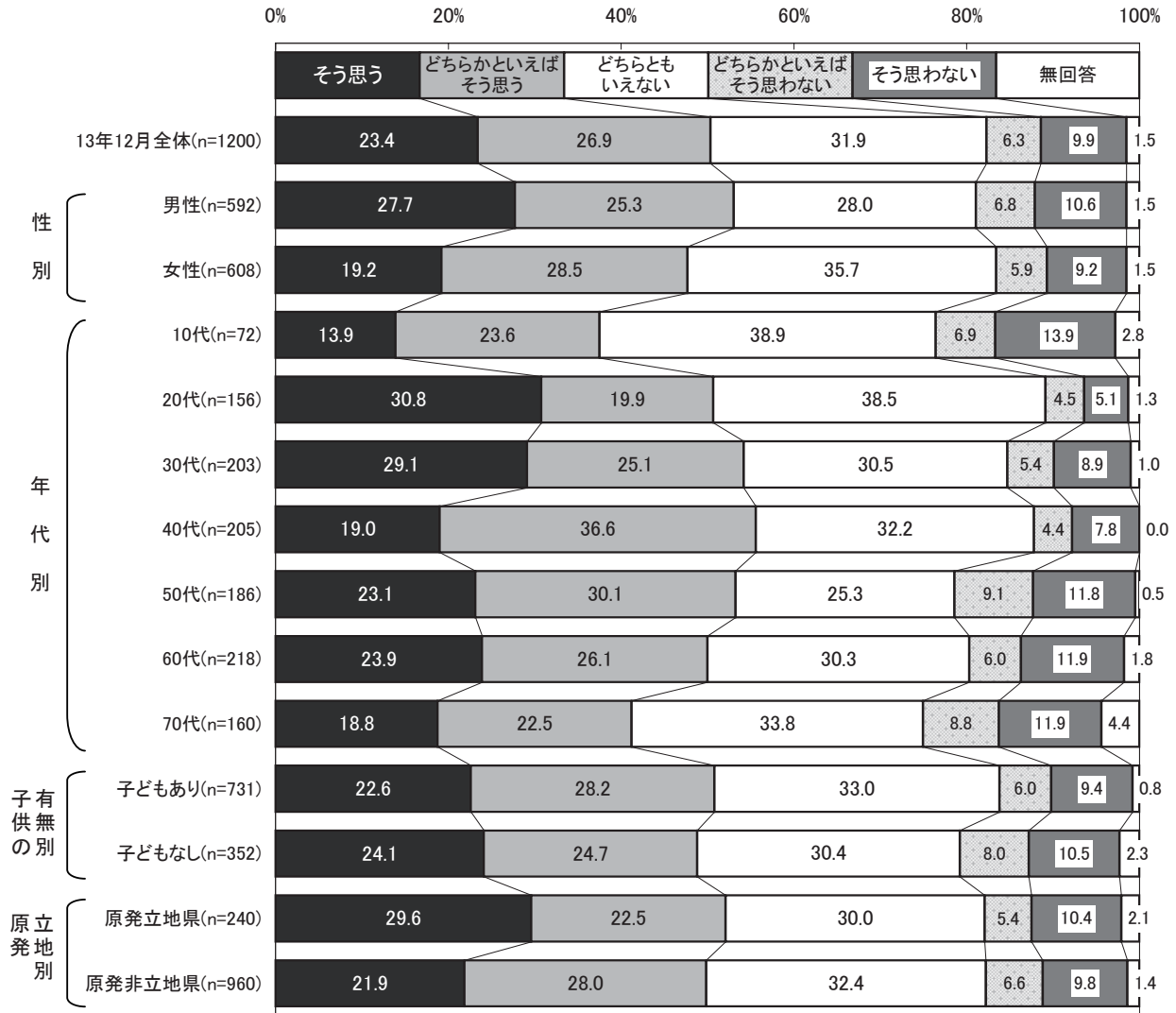


●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がないと、電気料金が上がる」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は50.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は16.2%。  
性別では、「どちらともいえない」という回答が男性よりも女性がやや多い。年代別にみると、20~60代で肯定的回答が多い。

問7-f. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電がないと、電気料金が上がる】

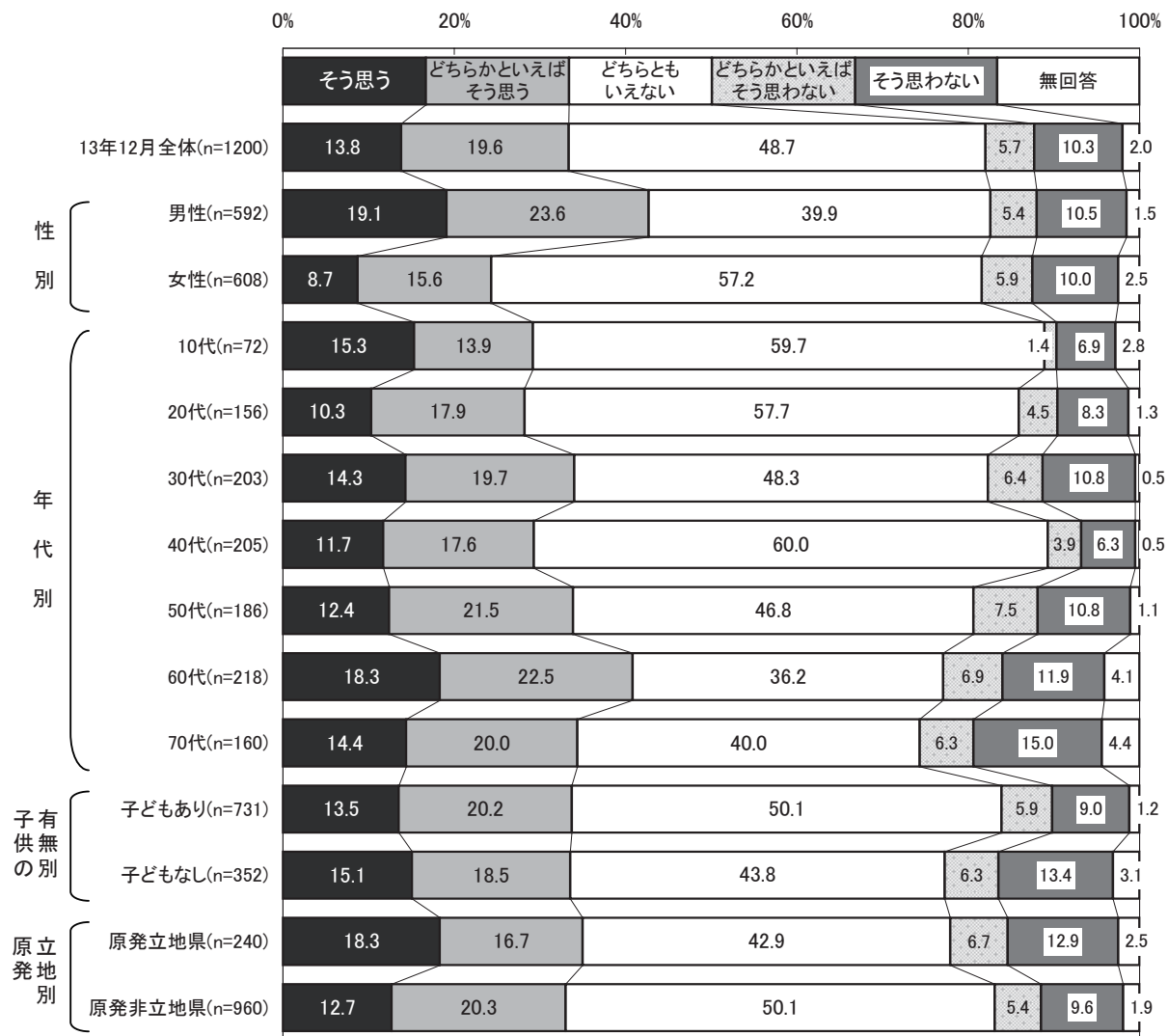


●原子力発電のベネフィット認知(地球温暖化)

「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は33.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は16.0%。前回の参考データとあまり変わらない。  
性別では、肯定的回答は女性よりも男性が多い。年代別に見ると、10代、20代、40代で「どちらともいえない」の回答が多い。子供の有無別で見ると、子どもなし層の方が否定的な回答がやや多い。

問7-n. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること】

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	20.6	18.9	48.6	5.4	3.9	2.6
07年10月	1200	36.3	24.4	31.4	2.0	3.9	1.9
08年10月	1200	38.7	25.8	27.8	3.2	2.8	1.8
10年9月	1200	41.6	27.7	23.8	1.8	2.8	2.4
11年11月	1200	16.9	19.4	42.3	8.7	11.0	1.7
12年11月	1200	19.2	16.8	44.9	5.8	11.8	1.5

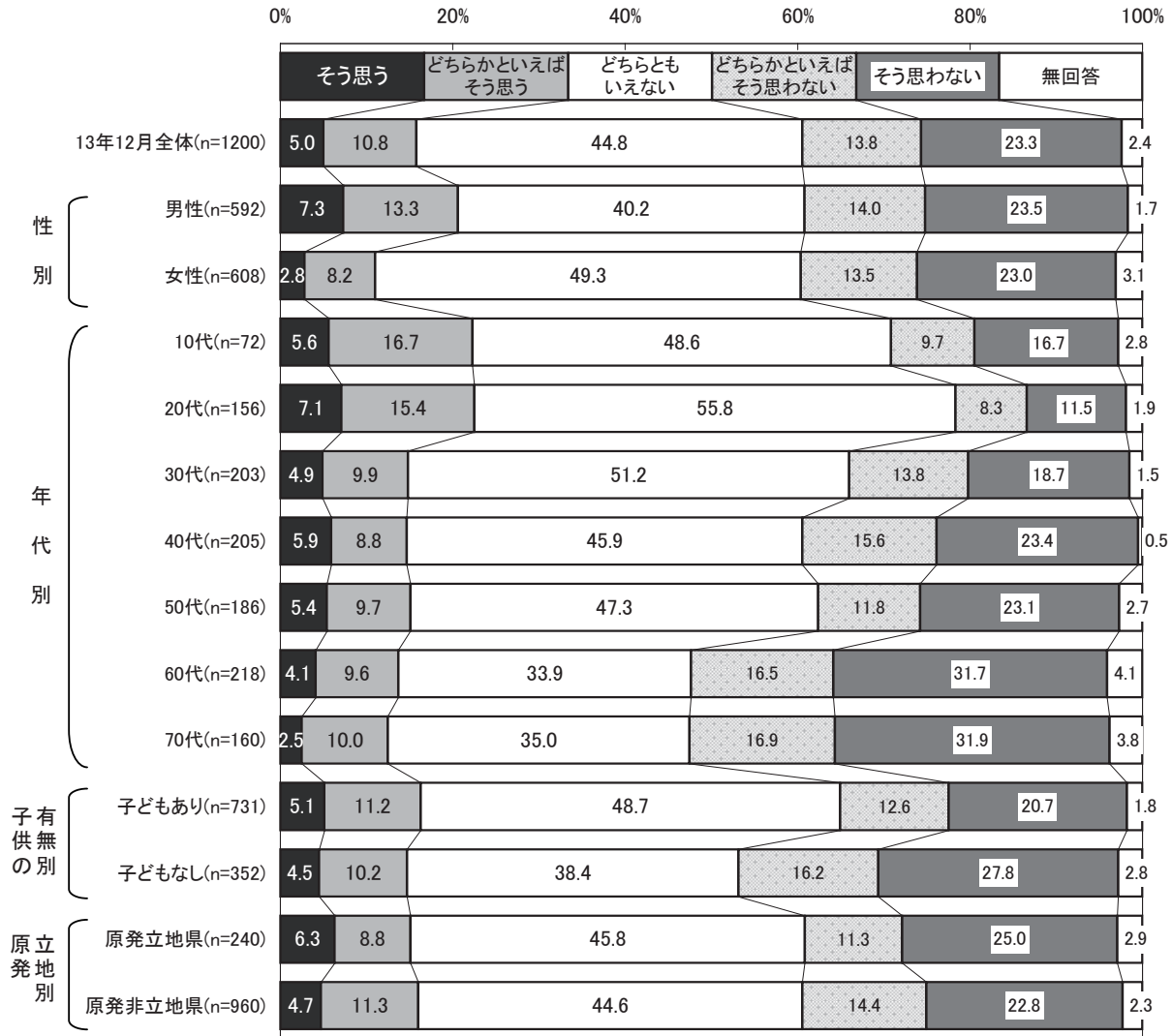
\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●核燃料サイクルのベネフィット認知

「核燃料サイクルは有益である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は15.8%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は37.1%。前回の参考データより、否定的な意見に変化した可能性がある。  
性別、年代別ともに、原子力発電の必要性、有用性の認識の傾向と類似している。また、子供の有無の別では、子供ありの方が、子供なしの場合と比べて、否定的な回答が少ない。

問7-c. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【核燃料サイクルは有益である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【核燃料サイクル】

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	24.8	26.0	34.3	4.5	7.2	3.3
07年10月	1200	20.4	20.1	42.8	6.3	6.9	3.5
08年10月	1200	21.9	21.6	40.0	7.0	6.8	2.7
10年9月	1200	29.4	23.0	36.0	3.5	5.3	2.8
11年11月	1200	10.2	13.7	46.8	11.4	15.1	2.8
12年11月	1200	9.9	13.1	48.4	10.5	16.3	1.8

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

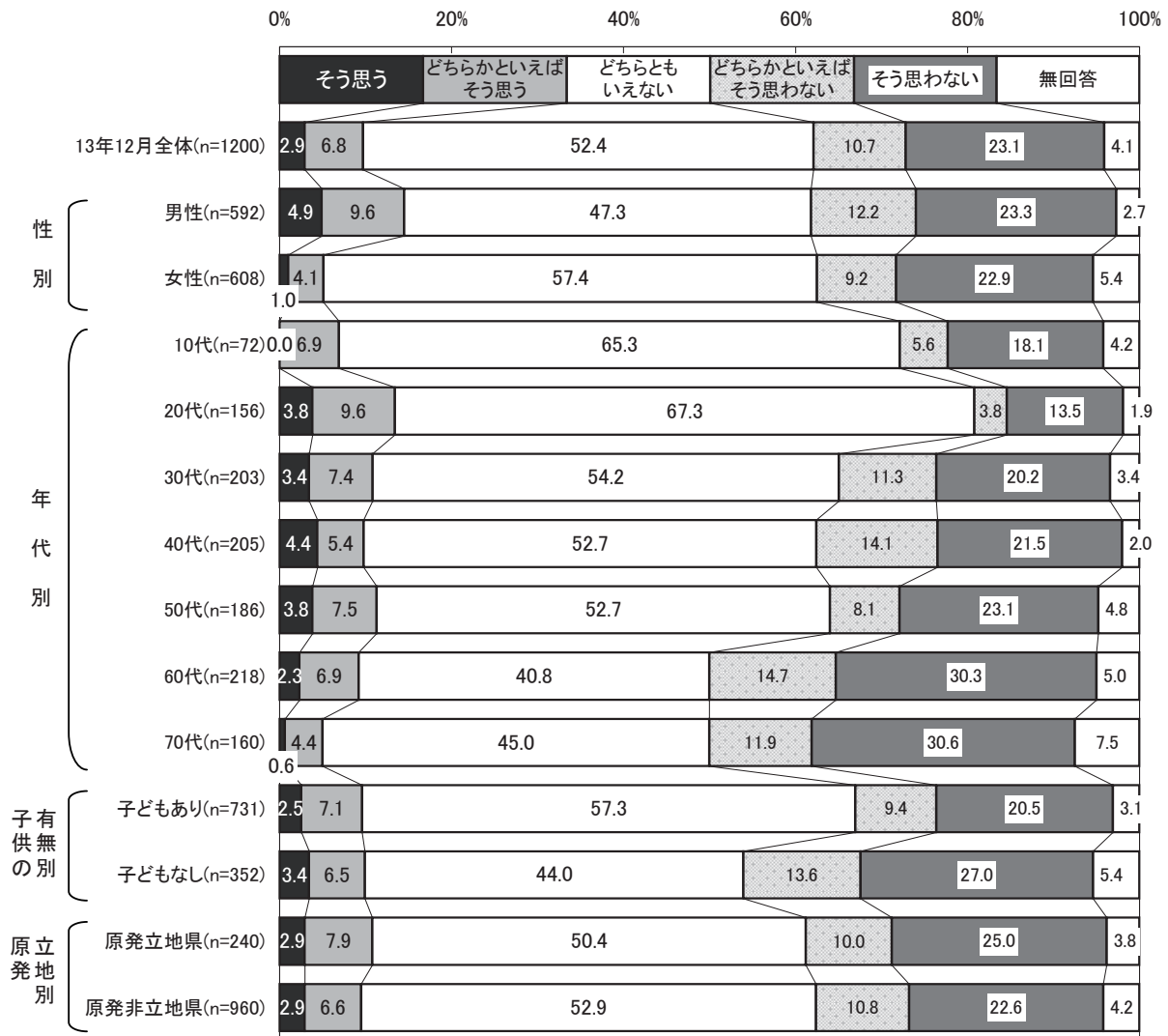


●プルサーマルのベネフィット認知

「プルサーマルは有益である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は9.7%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は33.8%。前回の参考データより、否定的な意見に変化した可能性がある。  
性別では、男性に比べて女性の方が、有益性の認識が低い。年齢別では、60～70代の回答者で否定的な回答が多い。また、子供の有無の別では、子供ありの方が、子供なしの場合と比べて、否定的な回答が少ない。

問7-d. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【プルサーマルは有益である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【プルサーマル】

	回答者数	必要である	どちらかといえば 必要である	どちらとも いえない	どちらかといえば 必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	21.4	23.5	39.6	4.0	5.8	5.8
07年10月	1200	17.7	19.3	46.1	4.8	6.5	5.7
08年10月	1200	18.8	21.8	44.8	5.4	4.9	4.3
10年9月	1200	25.5	20.3	41.3	3.6	4.6	4.8
11年11月	1200	8.9	12.0	50.1	9.8	14.3	4.9
12年11月	1200	8.3	12.3	50.7	10.2	14.8	3.8

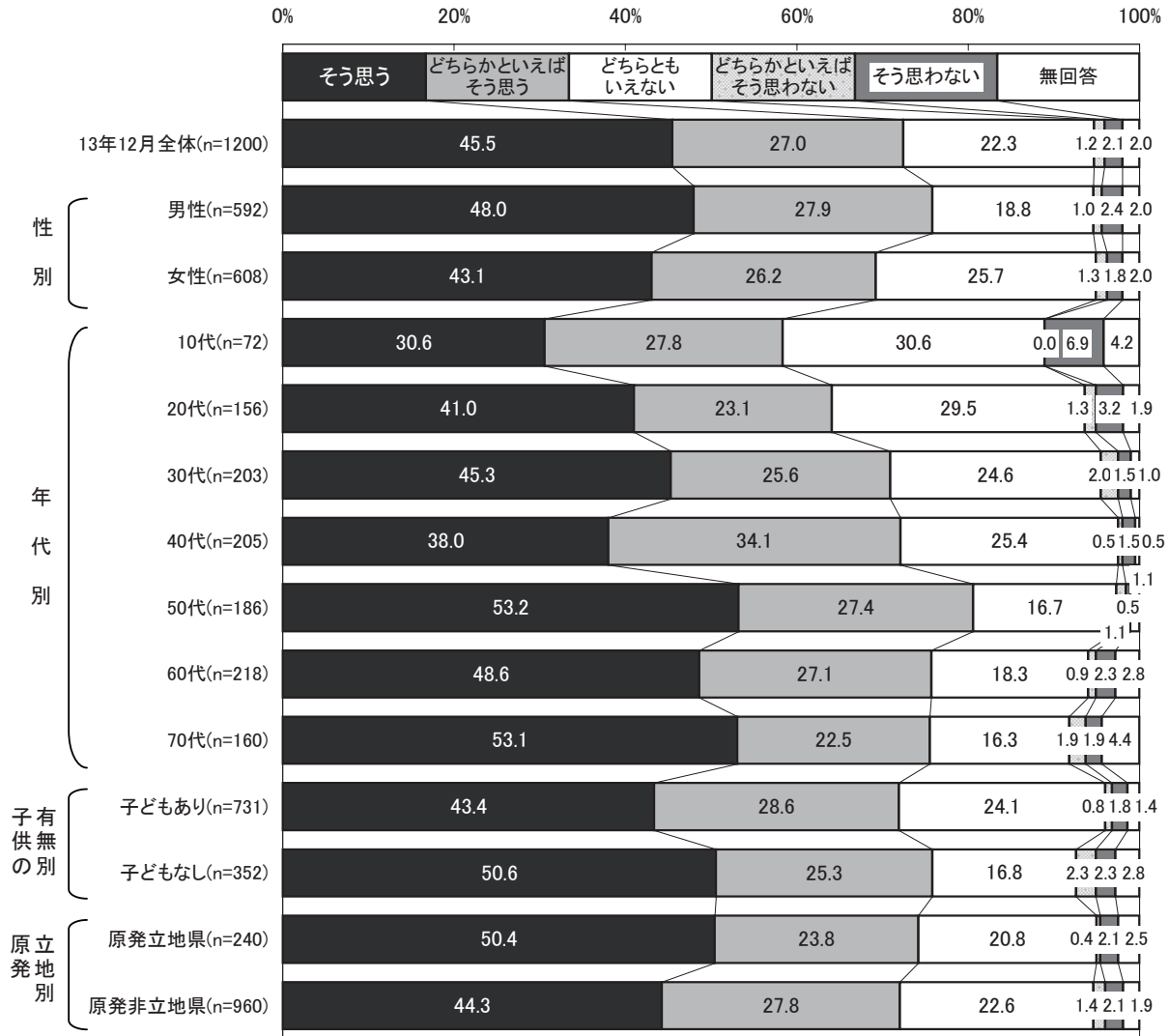
\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●エネルギー供給

「エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は72.5%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は3.3%。年代別にみると、10～20代は他の年代と比べて肯定的な回答がやや少ない。

問7-p. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること】

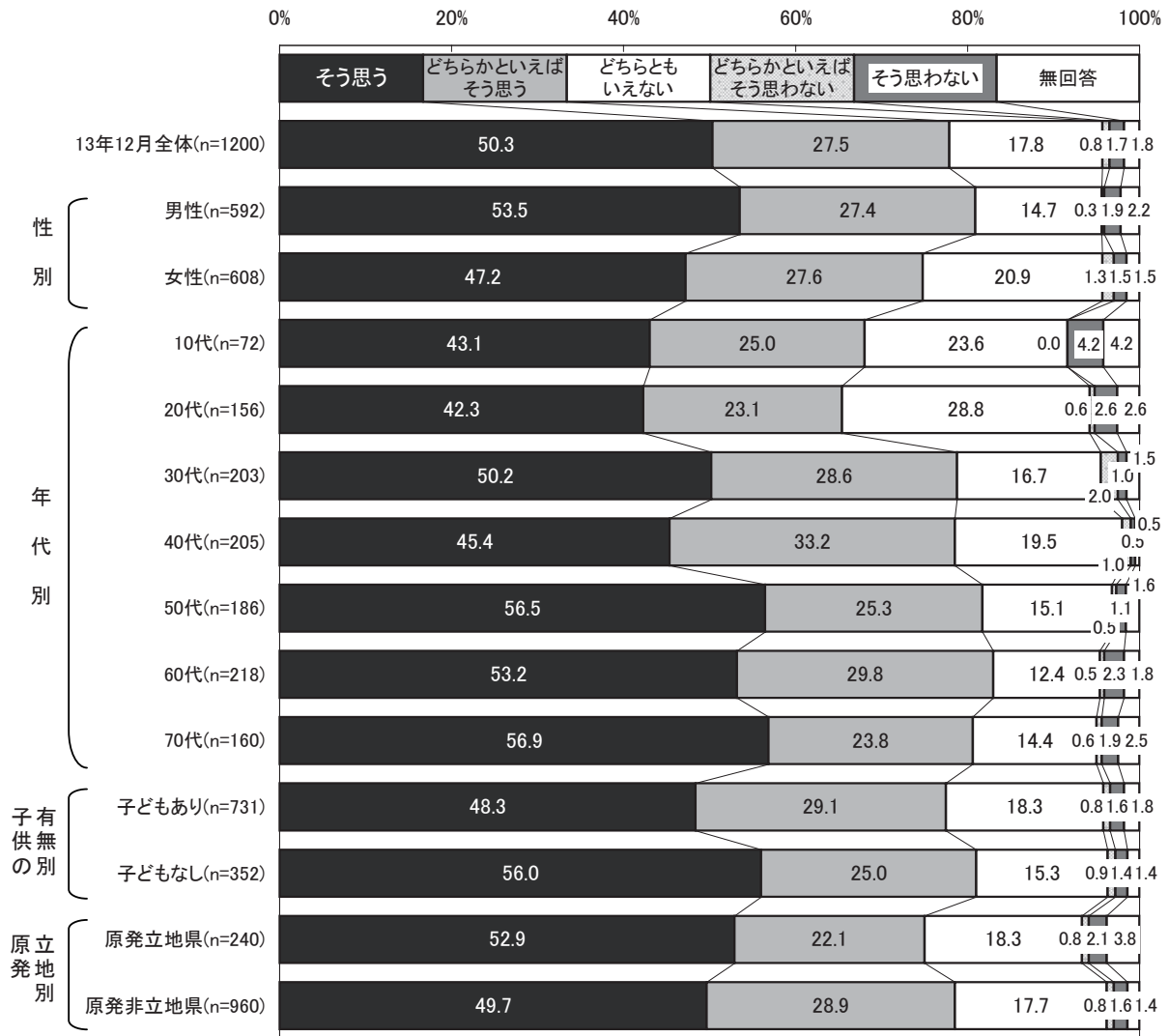
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	29.7	30.0	32.2	3.3	3.2	1.8
07年10月	1200	26.8	29.8	35.3	2.9	3.6	1.6
08年10月	1200	34.1	26.5	32.1	3.1	2.8	1.5
10年9月	1200	34.3	30.4	28.9	2.2	2.3	1.8
11年11月	1200	13.1	19.4	44.7	9.2	12.1	1.6
12年11月	1200	13.1	18.9	46.8	6.7	13.6	1.0

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●エネルギー供給

「国産のエネルギーを増やすことは重要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は77.8%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は2.5%。年代別にみると、10～20代は他の年代と比べて肯定的な回答がやや少ない。

問7-q. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【国産のエネルギーを増やすことは重要である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること】

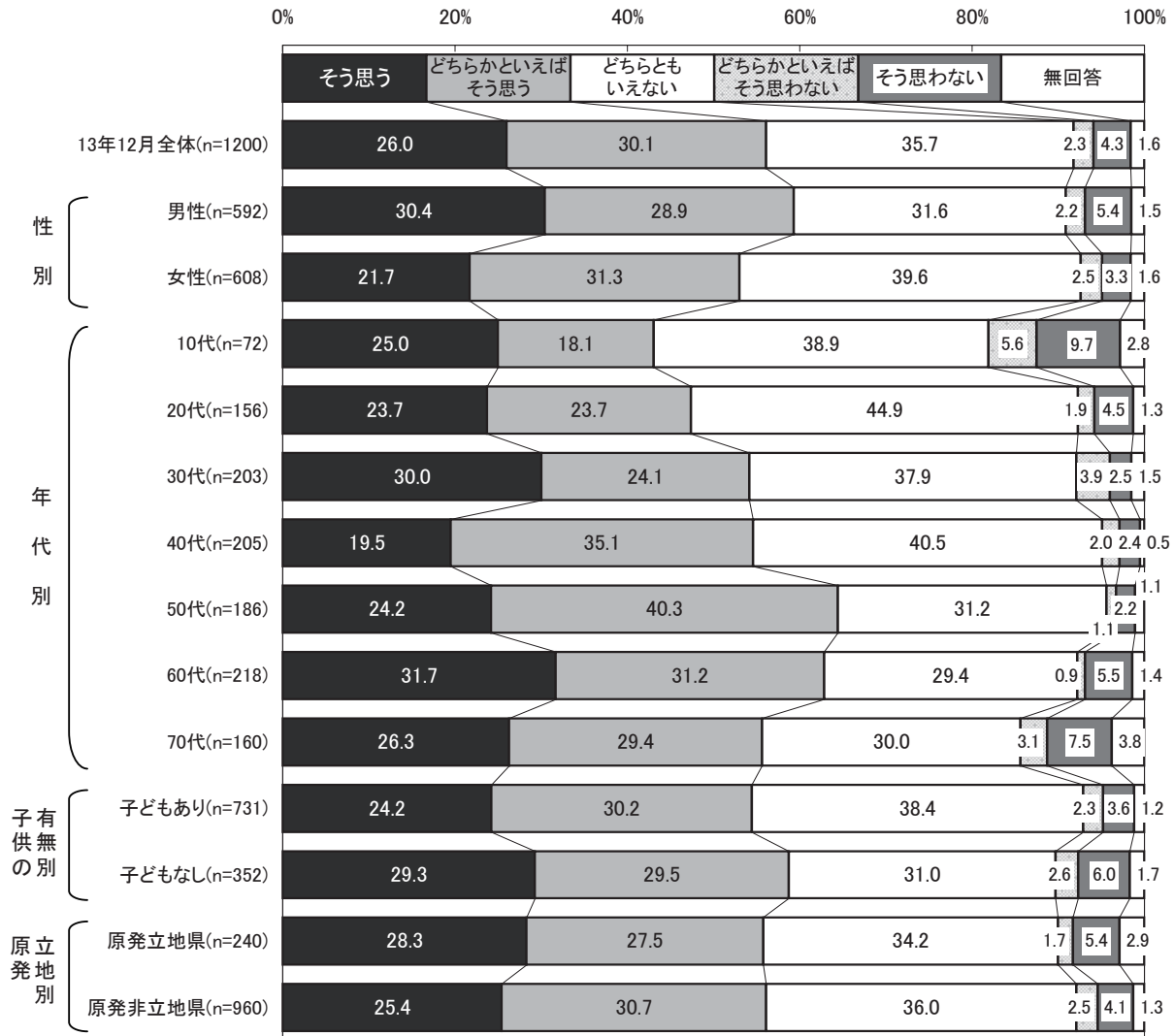
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	29.7	30.0	32.2	3.3	3.2	1.8
07年10月	1200	26.8	29.8	35.3	2.9	3.6	1.6
08年10月	1200	34.1	26.5	32.1	3.1	2.8	1.5
10年9月	1200	34.3	30.4	28.9	2.2	2.3	1.8
11年11月	1200	13.1	19.4	44.7	9.2	12.1	1.6
12年11月	1200	13.1	18.9	46.8	6.7	13.6	1.0

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●放射線利用のベネフィット認知

「医療、工業、農業等における放射線利用は必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は56.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は6.7%。前回の参考データと比べると、「どちらともいえない」層が多くなっている。  
年代別にみると、10～20代で肯定的な回答が他の年齢層と比べてやや少なく、50～60代ではやや多い。

問7-t. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【医療、工業、農業等における放射線利用】

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	40.5	31.8	22.0	1.6	2.6	1.5
07年10月	1200	46.2	28.8	20.3	1.3	2.1	1.4
08年10月	1200	46.6	29.1	20.3	0.8	1.6	1.7
10年9月	1200	56.1	24.4	15.3	1.1	1.1	2.1
11年11月	1200	47.2	28.3	19.6	1.7	2.0	1.3
12年11月	1200	45.9	31.3	18.6	1.3	2.2	0.8

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」



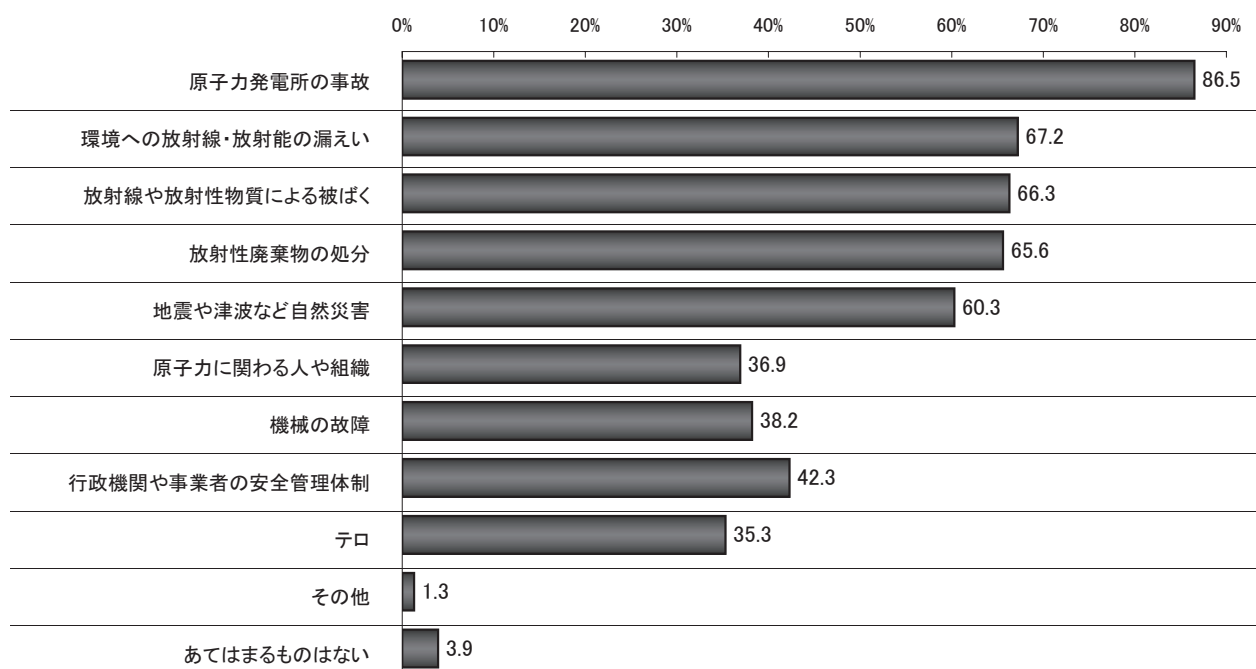
V章 原子力・放射線・エネルギーについての  
リスク認知

## ●原子力発電のリスク認知

原子力発電について不安と感ずる事柄は、「原子力発電所の事故」であり、次いで「環境への放射線・放射能の漏えい」「放射線や放射性物質による被ばく」「放射性廃棄物の処分」「地震や津波など自然災害」と続く。その他の項目も不安と捉えられており、「当てはまるものがない」という回答は3.9%に過ぎない。

問8. あなたが、原子力発電について不安と感ずる事柄についてお伺いします。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

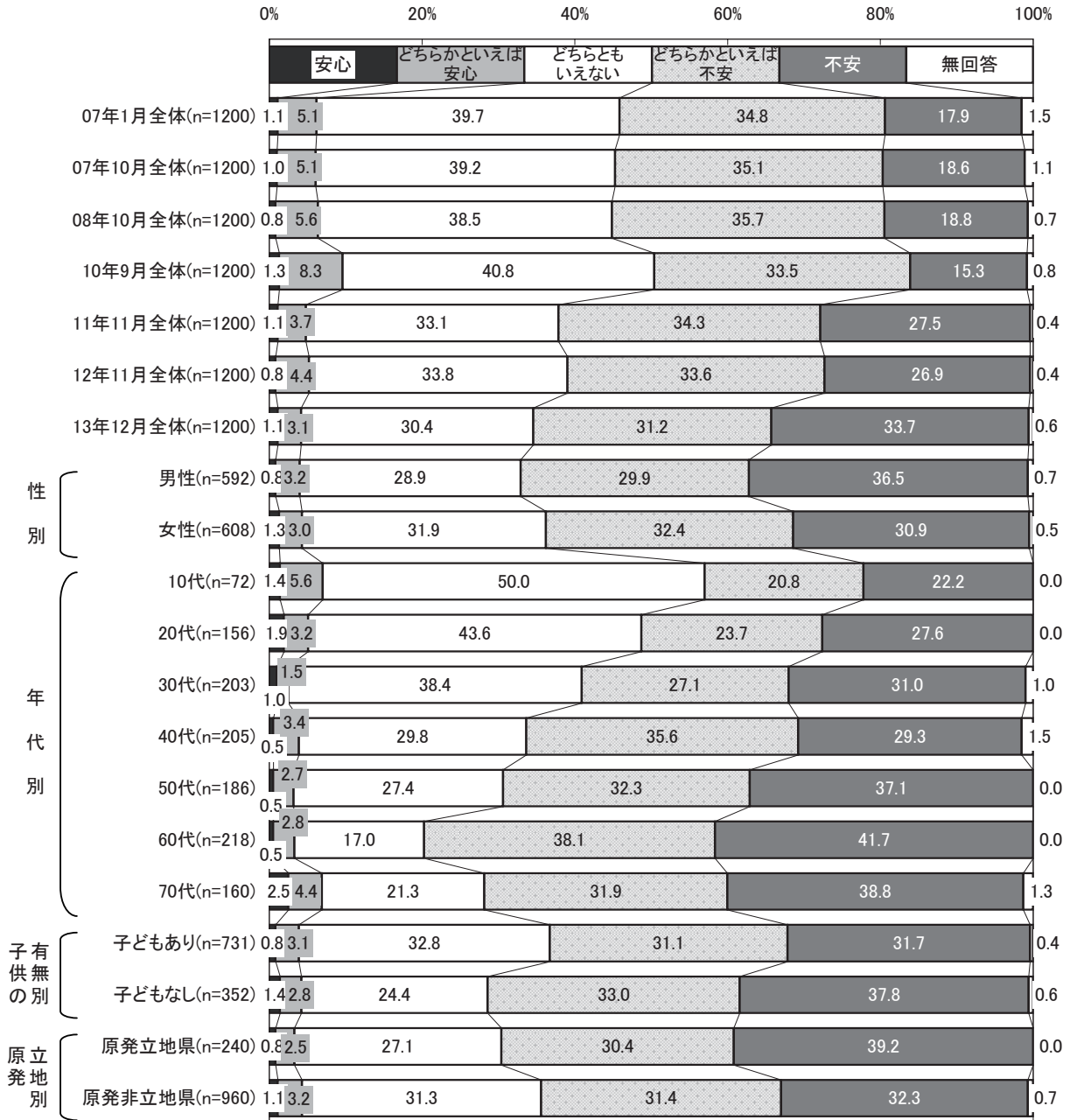
全体 N=1200



●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

放射性廃棄物処分の検討について、安心(「安心」+「どちらかといえば安心」という回答は4.2%であるのに対し、不安(「不安」+「どちらかといえば不安」という回答は64.9%と、不安層が圧倒的に多い。前回とほぼ変わらない。年代別にみると、10代から60代まで年代が上がるごとに不安回答が増えており、60代では8割近くが不安と回答している。

問10. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてのどのように感じますか。(○は1つだけ)

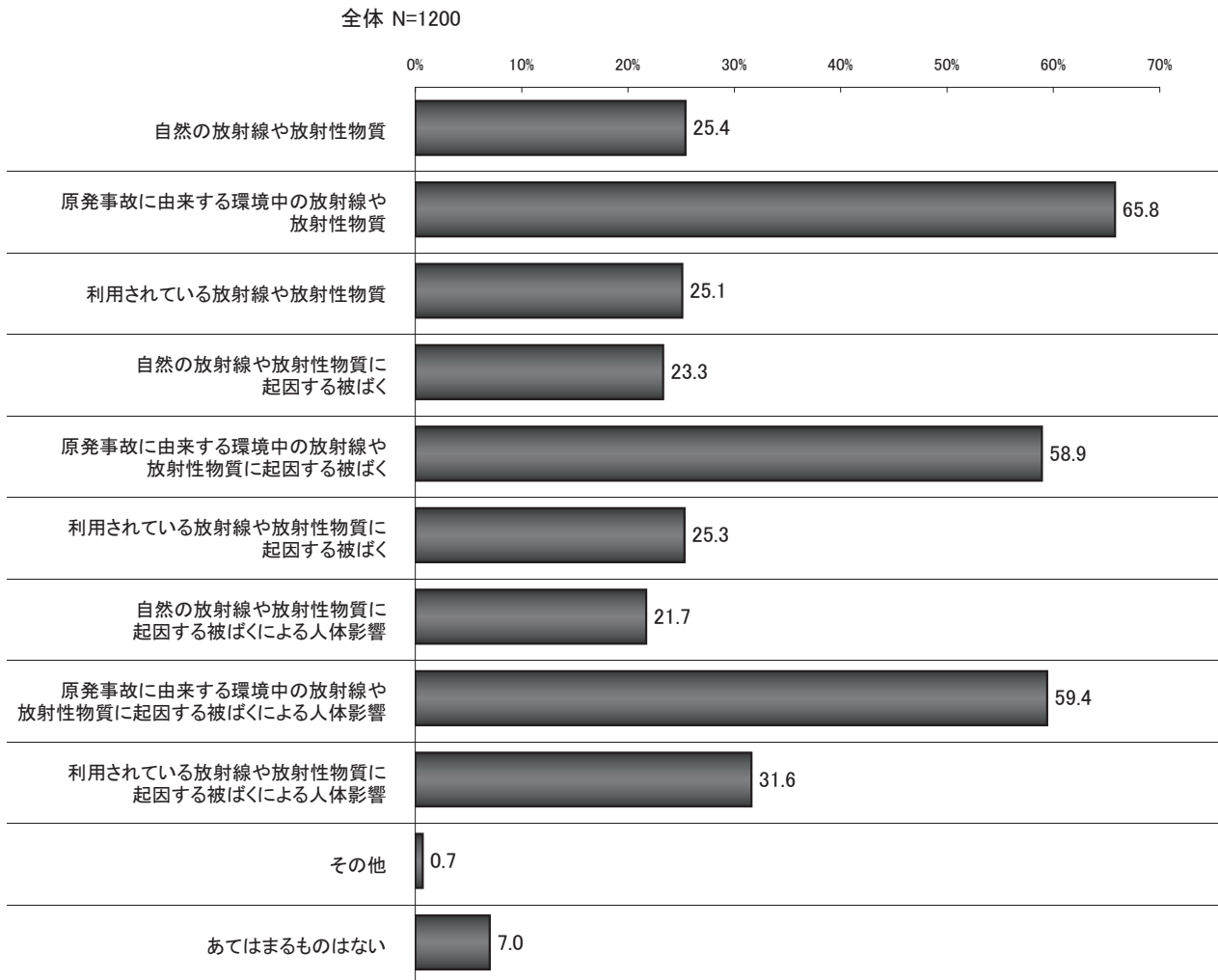


\*11年11月までの質問文は、「放射性廃棄物」として聴取

## ●放射線のリスク認知

放射線について不安とを感じる事柄について、「原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質」「原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響」「原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばく」の回答が多い。原発事故に関連する影響について不安が高いことがわかる。

問9. あなたが、放射線について不安とを感じる事柄についてお伺いします。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



<参考>

問. あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。  
次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
大地からの放射線	21.3	21.4	17.2	16.8	21.1	22.1
宇宙からの放射線	15.9	14.6	20.6	19.3	17.0	16.1
食物からの放射線	38.3	40.9	21.8	23.2	27.8	26.9
空気中のラドンからの放射線	14.9	15.7	11.8	14.2		
医療で受ける放射線	21.8	21.2	35.3	36.3	34.8	33.6
原子力関連施設周辺の放射線	61.2	64.7	56.8	61.8	64.7	64.5
その他	0.5	1.1	0.3	0.5	0.6	0.7
あてはまるものはない	5.7	4.6	7.9	11.8	12.5	14.3
不安はない	3.7	4.7	5.2			

\* 07年1月、07年10月の選択肢は「地上からの放射能」、08年10月は「大地からの放射能」に変更

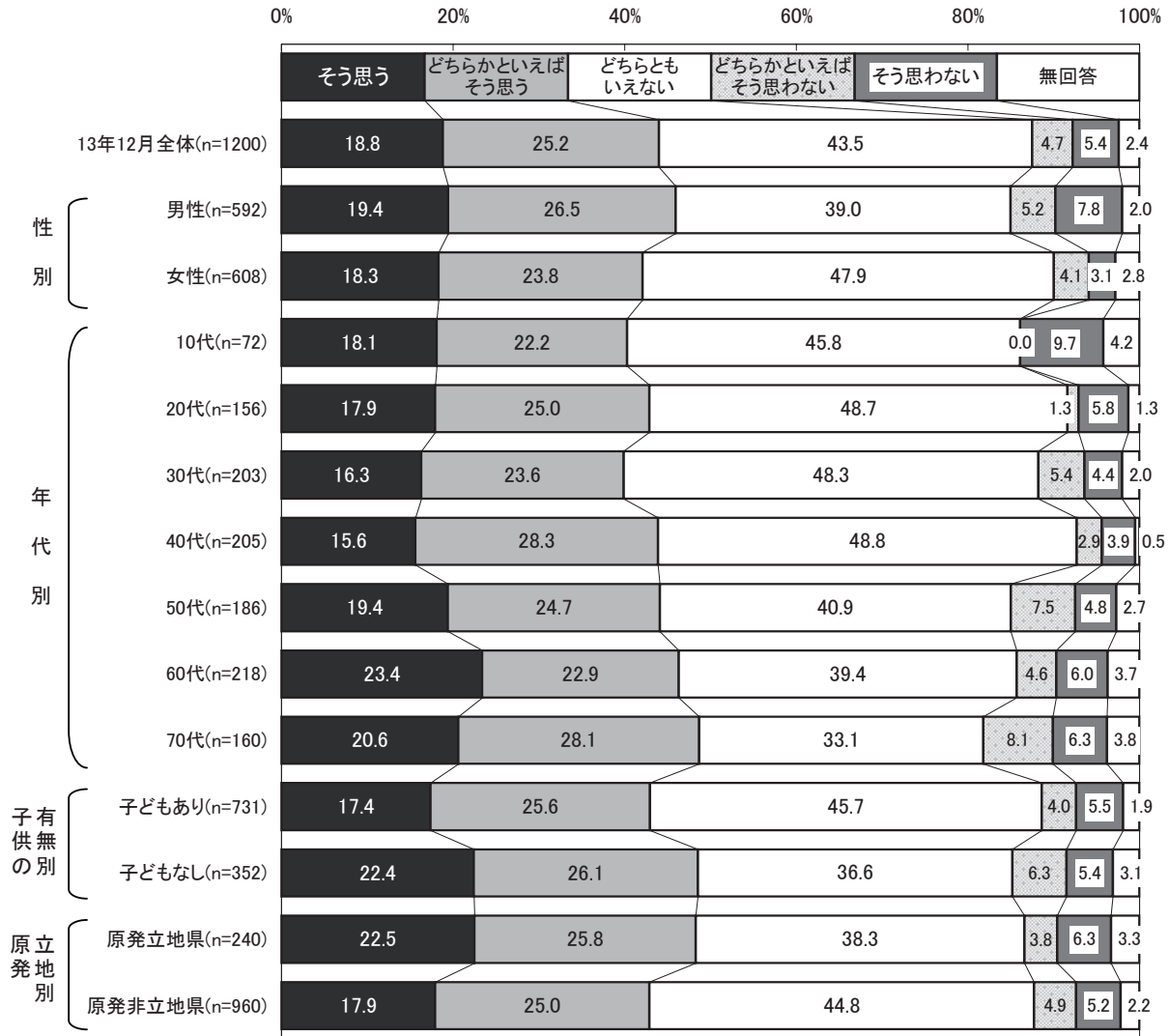
\* 「空気中のラドンからの放射線」は08年10月から追加

\* 「不安はない」は10年9月から追加

●エネルギー供給のリスク認知

「化石資源を使い切ることやオイルショックが心配である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は44.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は10.1%。  
性別、年代別、子供の有無別、居住地別でも同様の傾向である。

問7-ο. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【化石資源を使い切ることやオイルショックが心配である】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること】

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	21.3	25.8	43.7	3.9	3.3	2.0
07年10月	1200	25.7	27.5	38.1	3.2	3.5	2.1
08年10月	1200	30.7	26.3	35.2	3.8	2.4	1.7
10年9月	1200	31.1	31.3	31.2	2.2	2.3	2.0
11年11月	1200	12.7	18.3	47.4	8.3	11.6	1.8
12年11月	1200	12.4	18.9	48.1	6.8	12.4	1.3

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」



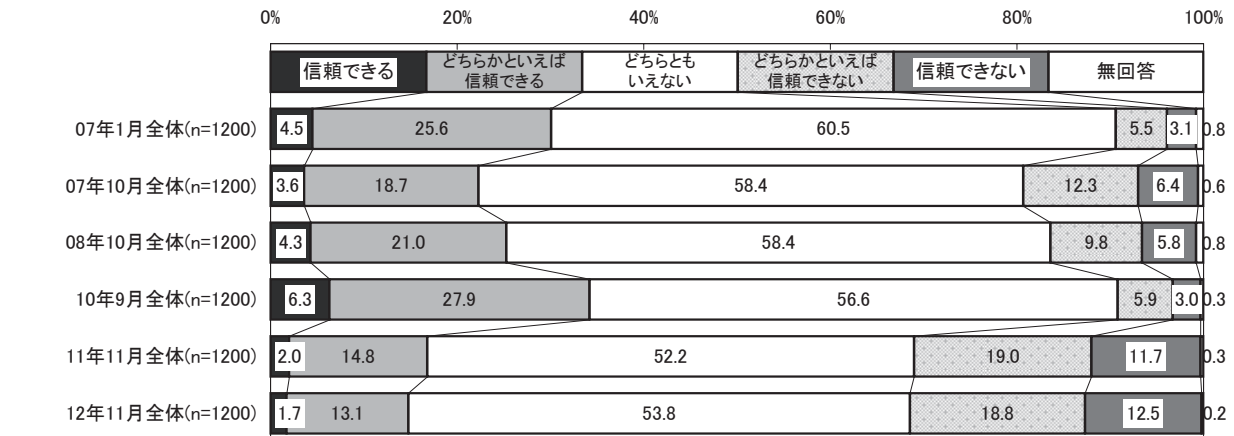


## VI章 原子力に対する信頼について

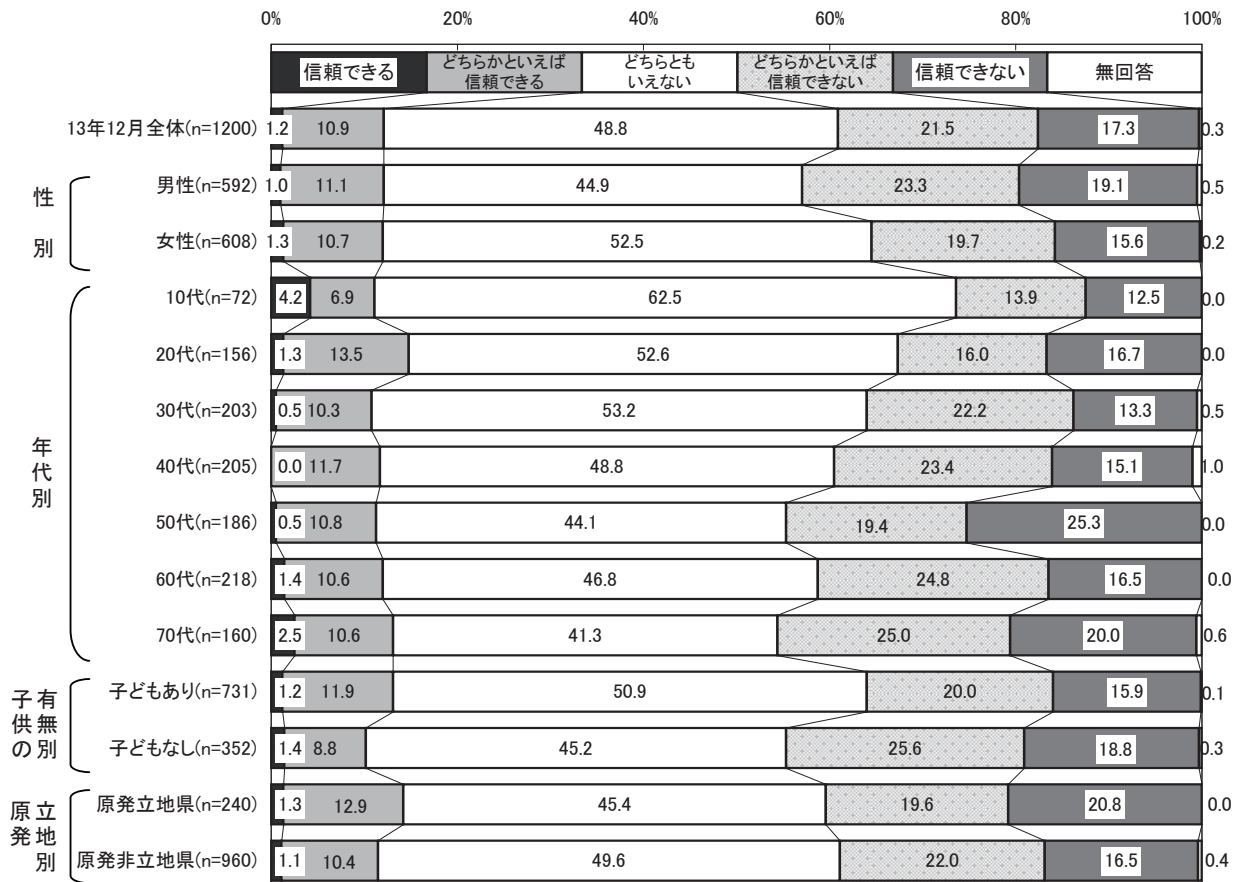
●原子力に対する信頼(専門家・原子力関係者)

原子力について、専門家や原子力関係者の信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」)という回答は12.1%であるのに対し、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」)という回答は38.8%。「どちらともいえない」という回答が48.8%と多数を占めている。前回までの参考データと比べて、大きな変動はない(やや信頼できない側に変化しているようにも見えるが、文言が変わっているため正確な比較は難しい)。年代別にみると、10代を中心として若い年代では、信頼できないとする回答がやや少なく、「どちらともいえない」という回答が多い。

問11-1. 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



\* 12年11月までの質問文は「あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。」



●原子力に対する信頼(専門家・原子力関係者)

信頼できるか、できないかに関する理由について聞いている。  
 「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」が突出して多く、次いで「信頼したいから」「熱意をもって、原子力に携わっているから」と続く。  
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」が多く、「私たちのことには配慮していないから」「偏った見方をしているから」「熱意が感じられないから」と続く。  
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」のポイントが高く、「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いことがわかる。

問11-2. あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
 (○はいくつでも)

N→	全体 1200	専門家を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 145	どちらとも いえない 585	信頼 できない 466
専門的な知識を持っているから	16.0	84.8	10.1	2.1
専門的な知識が不足しているから	17.0	3.4	19.3	18.5
偏った見方をしているから	19.8	2.8	16.8	29.2
公平な見方をしているから	2.7	9.0	2.2	1.3
正直に話しているから	2.3	9.7	1.7	0.6
正直には話していないから	37.0	-	27.4	60.9
私たちのことを配慮しているから	3.1	11.0	3.2	0.4
私たちのことには配慮していないから	17.3	0.7	10.1	31.8
私たちと考え方が似ているから	0.7	2.8	0.5	0.2
私たちとは考え方が違うから	10.7	-	9.4	15.7
熱意をもって、原子力に携わっているから	4.8	24.8	3.4	0.2
熱意が感じられないから	13.4	0.7	9.2	22.7
管理体制や安全対策ができていないから	1.8	8.3	1.0	0.6
管理体制や安全対策が不足しているから	40.8	2.8	34.2	61.4
情報公開ができていないから	1.5	4.8	1.5	0.4
情報公開が不足しているから	52.4	4.8	49.4	71.5
信頼したいから	8.3	37.9	5.3	3.0
信頼したくないから	7.9	-	4.8	14.4
その他	4.5	2.8	6.0	3.2

<参考>

問. あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも)

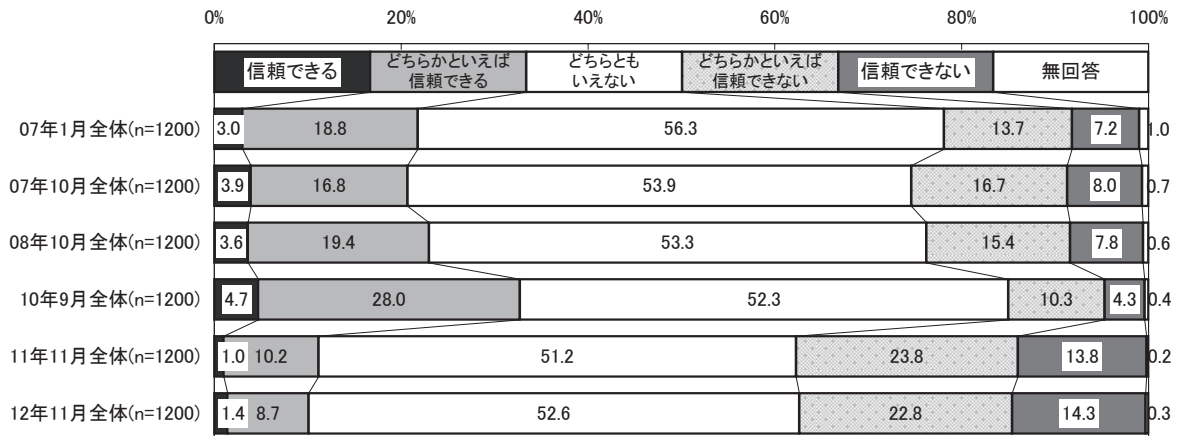
N→	12年11月			11年11月			10年9月		
	専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	177	646	375	202	626	368	410	679	107
情報公開が十分されているから	7.9	1.5	0.8	8.4	1.0	2.4	13.2	1.8	0.8
情報公開が十分されていないから	7.9	53.4	76.0	9.4	59.4	74.5	8.0	47.9	57.0
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	36.2	3.3	1.1	30.2	1.9	0.8			
大きな事故が起きたから	15.8	40.9	46.7	14.4	37.7	44.6			
管理体制や安全対策が十分だから	3.4	0.3	0.3	4.0	1.3	0.5	14.6	1.2	-
管理体制や安全対策が不十分だから	7.9	36.7	57.3	6.4	39.0	60.1	3.9	21.2	44.9
専門的な知識を持っている人だから	59.9	4.2	0.3	67.3	3.7	0.3	45.9	2.1	1.9
専門家にも間違いはあるから	13.0	27.6	33.1	5.4	31.9	32.1	8.3	26.2	31.8
信頼したいから	34.5	5.4	0.3	42.1	4.5	1.1	50.2	5.2	-
信頼できないから	1.1	17.5	56.5	1.0	17.4	57.9	-	11.3	49.5
その他	1.1	3.3	2.9	1.5	4.0	7.1	0.7	4.9	4.7

\*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加

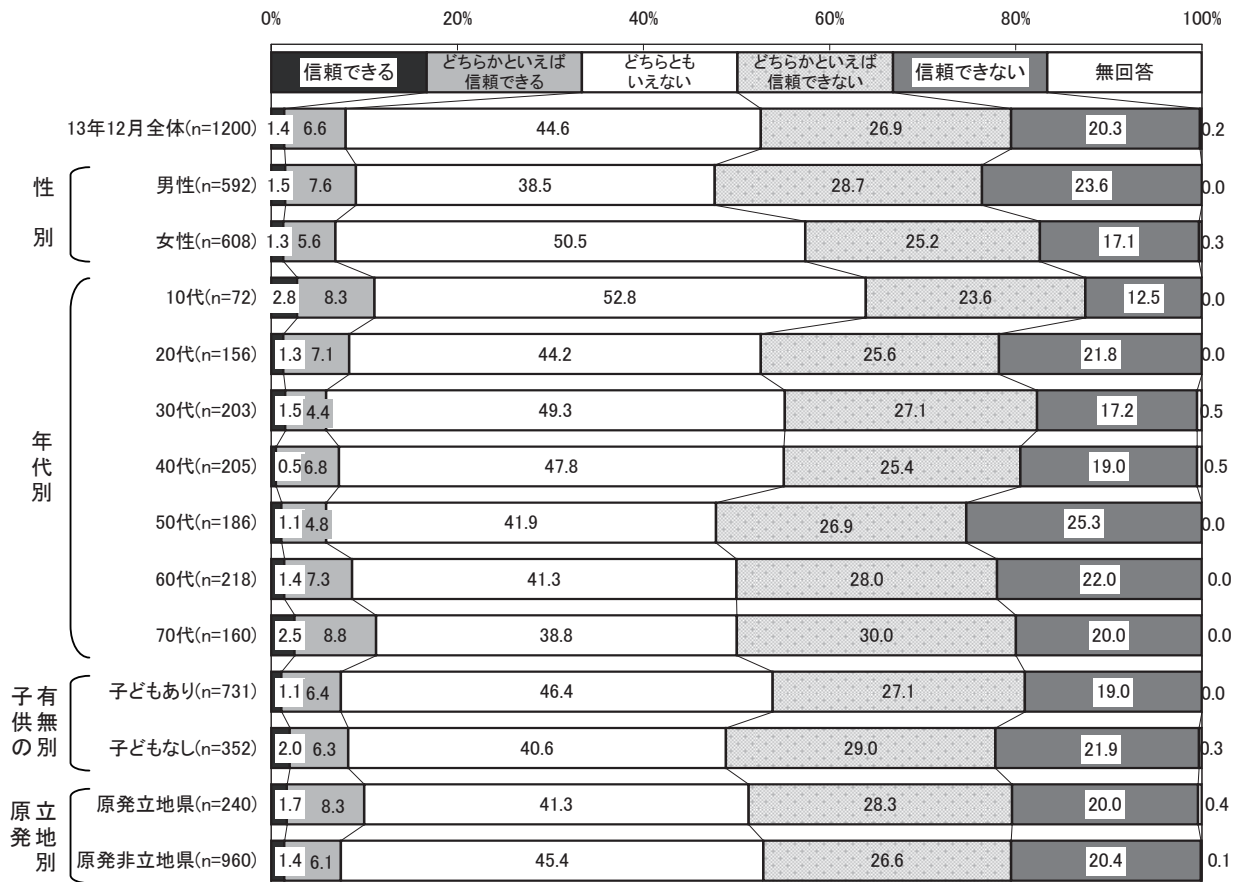
●原子力に対する信頼(国・自治体)

原子力について、国や自治体の信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」)という回答は8.0%であるのに対し、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」)という回答は47.2%。また、「どちらともいえない」という回答が44.6%。前回までの参考データと比べて、大きな変動はない(やや信頼できない側に変化しているようにも見えるが、文言が変わっているため正確な比較は難しい)。年代別にみると、10代では信頼できないとする回答がやや少ない。

問12-1. 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



\* 12年11月までの質問文は「原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか。」



●原子力に対する信頼(国・自治体)

信頼できるか、できないかに関する理由について聞いている。  
 「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」「信頼したいから」が多く、「熱意をもって、原子力に携わっているから」「私たちのことを配慮しているから」と続く。  
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」が多く、「自分たちの利益優先に感じるから」「私たちのことには配慮していないから」「偏った見方をしているから」「専門的な知識が不足しているから」「熱意が感じられないから」と続く。  
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」「専門的な知識が不足しているから」のポイントが高く、「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いことがわかる。

問12-2. あなたが、問12-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
 (○はいくつでも)

N→	全体 1200	国や自治体を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 96	どちらとも いえない 535	信頼 できない 567
専門的な知識を持っているから	6.8	56.3	4.3	0.7
専門的な知識が不足しているから	22.4	4.2	20.0	27.9
偏った見方をしているから	19.1	2.1	10.8	29.6
公平な見方をしているから	3.0	18.8	1.9	1.4
正直に話しているから	1.7	10.4	1.1	0.7
正直には話していないから	41.2	2.1	27.1	61.2
私たちのことを配慮しているから	3.3	24.0	2.8	0.2
私たちのことには配慮していないから	21.0	1.0	11.2	33.7
私たちと考え方が似ているから	0.5	3.1	0.2	0.4
私たちとは考え方が違うから	11.3	-	9.2	15.2
熱意をもって、原子力に携わっているから	3.1	30.2	0.9	0.5
熱意が感じられないから	16.5	-	11.0	24.5
管理体制や安全対策ができていないから	2.0	16.7	0.7	0.7
管理体制や安全対策が不足しているから	43.7	1.0	33.6	60.5
情報公開ができていないから	1.5	8.3	1.3	0.5
情報公開が不足しているから	56.3	5.2	49.9	71.1
信頼したいから	6.8	53.1	4.7	0.9
信頼したくないから	5.8	-	2.6	9.7
国や自治体は営利目的ではないから	2.6	9.4	2.1	1.9
自分たちの利益優先に感じるから	25.7	-	13.8	41.3
その他	3.0	2.1	4.7	1.6

<参考>

問. あなたが、問12-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも)

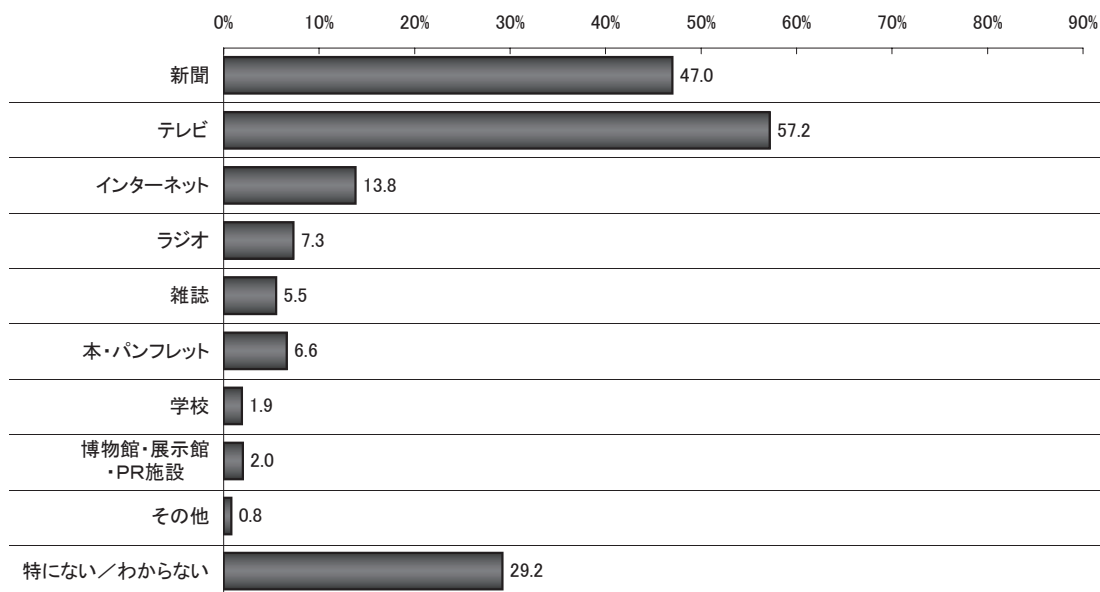
N→	12年11月			11年11月			10年9月		
	国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	121	631	445	134	614	450	392	628	175
情報公開が十分されているから	14.0	1.1	0.4	11.9	1.1	1.6	15.8	2.9	1.7
情報公開が十分されていないから	5.8	55.6	76.2	6.0	63.4	71.1	7.7	54.1	62.9
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	38.8	3.3	1.1	34.3	2.3	0.4			
大きな事故が起きたから	21.5	38.4	44.0	11.9	37.5	42.2			
管理体制や安全対策が十分だから	5.8	0.6	0.2	6.7	0.2	1.3	16.3	1.1	1.7
管理体制や安全対策が不十分だから	5.8	37.7	58.9	5.2	42.2	61.1	3.6	20.1	37.1
専門的な知識を持っている人だから	34.7	1.7	-	28.4	1.8	0.7	28.6	1.1	0.6
専門家にも間違いはあるから	9.9	22.0	25.6	5.2	21.5	24.4	6.1	22.1	27.4
信頼したいから	51.2	6.0	1.1	52.2	5.7	0.2	55.9	5.7	1.7
信頼できないから	-	16.5	51.2	0.7	16.0	50.0	0.8	11.6	48.0
国や公的機関は営利目的ではないから	14.0	2.9	1.8	13.4	2.8	1.3	17.6	2.2	4.0
自分達の利益優先に感じるから	3.3	17.0	44.9	1.5	21.2	51.6	2.8	15.4	34.9
その他	-	2.7	2.2	3.0	2.0	3.1	0.3	2.5	2.3

\*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加

●原子力に対する信頼(メディア)

情報源(メディア)の信頼としては、「テレビ」(57.2%)「新聞」(47.0%)が高い。「特にない／わからない」という回答(29.2%)も多い。  
「新聞」に対する信頼は、10代～20代で低い。

問15. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報源(メディア)として、何を信頼しますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



		新聞	テレビ	インターネット	ラジオ	雑誌	本・パンフレット	学校	博物館・展示館・PR施設	その他	特にない／わからない
全体 (N=1200)		47.0	57.2	13.8	7.3	5.5	6.6	1.9	2.0	0.8	29.2
性別	男性 (n=592)	48.1	54.6	19.4	8.4	7.1	7.6	1.5	1.2	0.3	28.7
	女性 (n=608)	45.9	59.7	8.2	6.3	3.9	5.6	2.3	2.8	1.2	29.6
年齢別	10代 (n=72)	26.4	50.0	12.5	4.2	4.2	5.6	13.9	-	-	27.8
	20代 (n=156)	19.9	40.4	17.3	1.3	-	7.1	3.8	1.3	0.6	43.6
	30代 (n=203)	39.4	59.6	22.2	5.9	5.4	5.9	1.5	2.0	0.5	26.1
	40代 (n=205)	47.8	50.2	15.1	7.8	5.9	4.9	2.0	2.0	0.5	36.6
	50代 (n=186)	49.5	59.7	12.9	6.5	5.9	4.8	-	0.5	0.5	31.7
	60代 (n=218)	62.4	66.5	11.0	10.1	6.4	7.8	-	2.3	0.5	18.8
	70代 (n=160)	67.5	66.9	3.1	13.1	9.4	10.0	-	5.0	2.5	21.3
子供有無別	子どもあり (n=731)	42.7	56.5	17.0	6.4	4.7	5.9	2.7	1.5	0.5	30.2
	子どもなし (n=352)	56.0	60.2	8.2	10.2	7.7	8.0	0.6	2.8	0.9	25.9
原発別	原発立地県 (n=240)	47.9	57.9	10.0	7.9	6.3	7.5	1.3	1.7	1.3	27.9
	原発非立地県 (n=960)	46.8	57.0	14.7	7.2	5.3	6.4	2.1	2.1	0.6	29.5

\* 網掛けは全体値より5ポイント以上高いセグメントを示す



<参考>

問. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月
新聞広告・記事	33.8	35.3	34.0	41.5
テレビCM・番組	45.3	44.5	51.2	53.0
インターネット	28.3	32.3	17.7	17.5
ラジオCM・番組	6.5	7.1		
書籍	24.8	27.3	21.3	17.8
パンフレット	11.3	13.4	15.9	18.0
学校の授業	11.8	9.7		
—				
その他	0.3	0.7	0.4	0.5
あてはまるものはない	14.1	14.9	18.6	16.2
ビデオ・DVD	15.8	16.1	15.4	19.5
メール配信	2.1	2.5	1.9	2.5

\*「インターネット」は、10年9月まで「ホームページ」として聴取

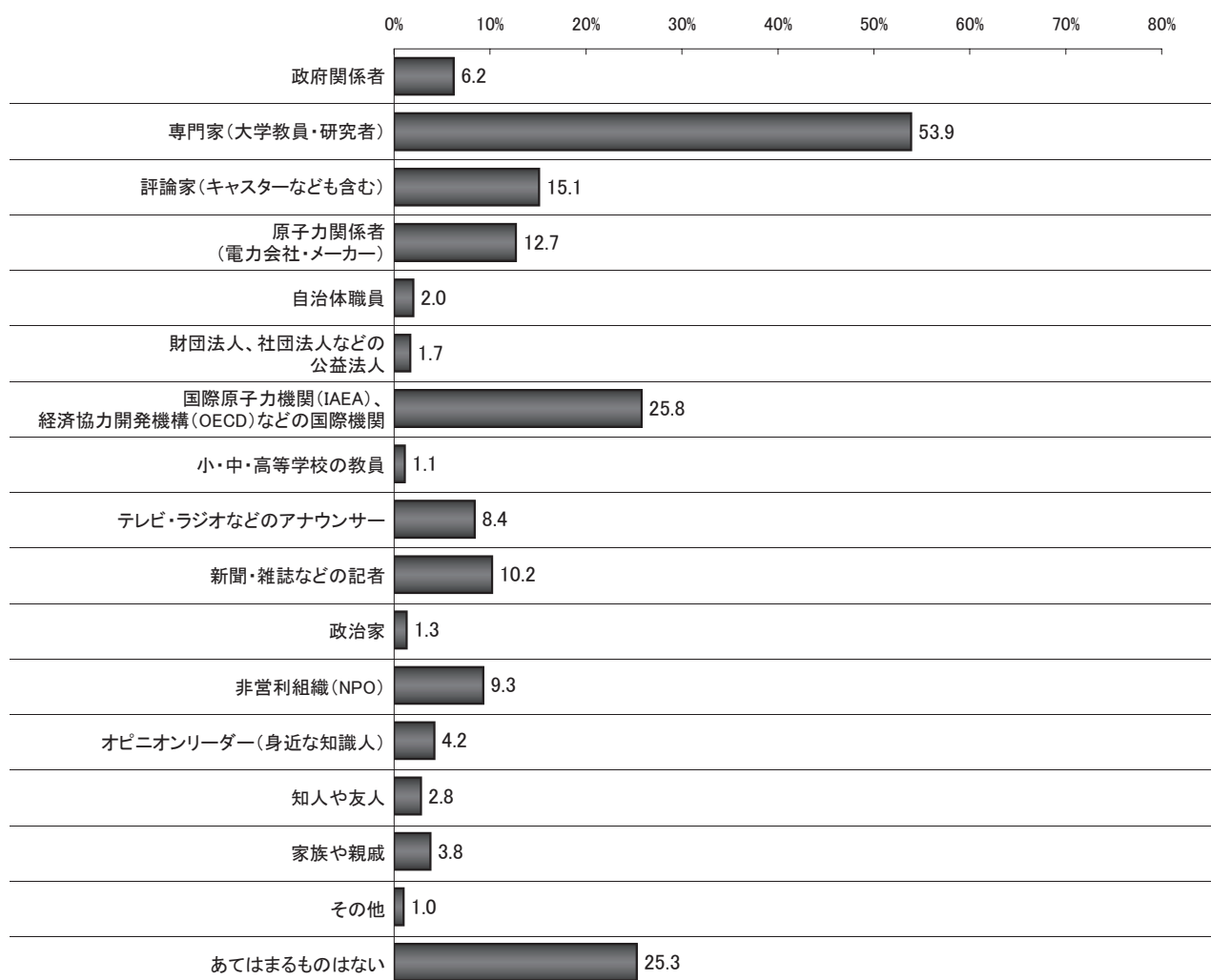
\*「ラジオCM・番組」「学校の授業」は、11年11月から追加

## ●原子力に対する信頼(情報発信者)

情報源の信頼としては、「専門家(大学教員・研究者)」(53.9%)が突出して多く、次いで「国際原子力機関、経済協力開発機構などの国際機関」(25.8%)である。「あてはまるものはない」という回答も25.3%ある。

問16. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200



<参考>

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

全体 N=1200	有益性に関する情報					事故やトラブルなどに関する情報				
	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月
政府関係者	18.8	23.3	5.8	5.1	8.8	25.4	36.0	3.3	4.1	8.7
専門家 (大学教員・研究者)	36.6	43.5	16.8	13.0	19.3	38.0	46.3	11.4	11.2	17.5
評論家 (キャスターなども含む)	43.0	45.2	23.1	20.3	20.8	54.0	55.8	23.7	24.8	28.3
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.8	21.1	9.8	9.4	10.9	20.9	31.1	3.8	4.1	6.8
自治体職員	0.9	1.0	0.6	0.8	1.1	1.8	1.9	0.4	0.6	1.1
小・中・高等学校の教員	2.6	2.0	1.8	1.8	2.2	2.3	2.1	2.0	1.8	2.3
テレビ・ラジオなどの アナウンサー	57.1	53.8	44.9	43.4	42.3	73.8	75.8	54.2	59.3	64.5
新聞・雑誌などの記者	27.5	29.1	20.0	21.9	25.8	35.6	40.6	25.1	30.3	35.8
政治家	9.7	8.9	1.8	3.1	5.3	10.8	13.2	2.3	2.8	5.0
オピニオンリーダー (身近な知識人)	1.8	3.1	1.9	2.3	3.1	1.8	2.9	1.3	2.4	2.7
知人や友人	7.9	8.5				9.9	11.8			
家族や親戚	7.3	8.2				8.2	10.8			
その他	0.6	0.7	1.5	1.3	0.8	0.4	0.7	0.9	0.6	0.5
あてはまるものはない/この 1年間に情報は得ていない	12.8	11.4	34.0	35.9	34.1	5.0	2.8	29.9	25.8	18.0

\* 07年10月は、全ての選択肢に「の発言」を付けた表記で聴取

\* 07年10月は、「テレビ」は「TV」の表記で聴取

\* 「知人や友人」「家族や親戚」は11年11月から追加

\* 10年9月までの質問文は、「原子力やエネルギーに関する「よい情報(安全性、有益性に関する情報)」を～」「原子力やエネルギーに関する「悪い情報(トラブルなどに関する情報)」を～」として聴取

<参考>

問. 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。  
次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
国	50.7	50.6	53.9	52.0	53.5	48.8
自治体	26.5	24.2	53.9	52.0	53.5	48.8
電力会社などの事業者	29.9	33.0	42.7	46.5	44.8	41.1
大学や研究所	41.6	43.9	45.8	53.9	44.8	51.8
財団法人、社団法人などの 公益法人	5.8	6.1	6.5	7.3	6.3	8.0
非営利組織(NPO)	18.5	19.6	15.8	24.9	23.3	21.5
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	37.5	42.9	41.8			
その他	1.8	2.2	0.9	1.0	0.8	1.1
あてはまるものはない	12.3	12.3	10.8	12.3	14.5	15.8

\* 08年10月までの選択肢は「公益法人(財団法人、社団法人)」、10年9月は「財団法人、社団法人などの公益法人」に変更

\* 08年10月までの選択肢は「NPO(非営利組織)」、10年9月は「非営利組織(NPO)」に変更

\* 「国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関」は10年9月から追加

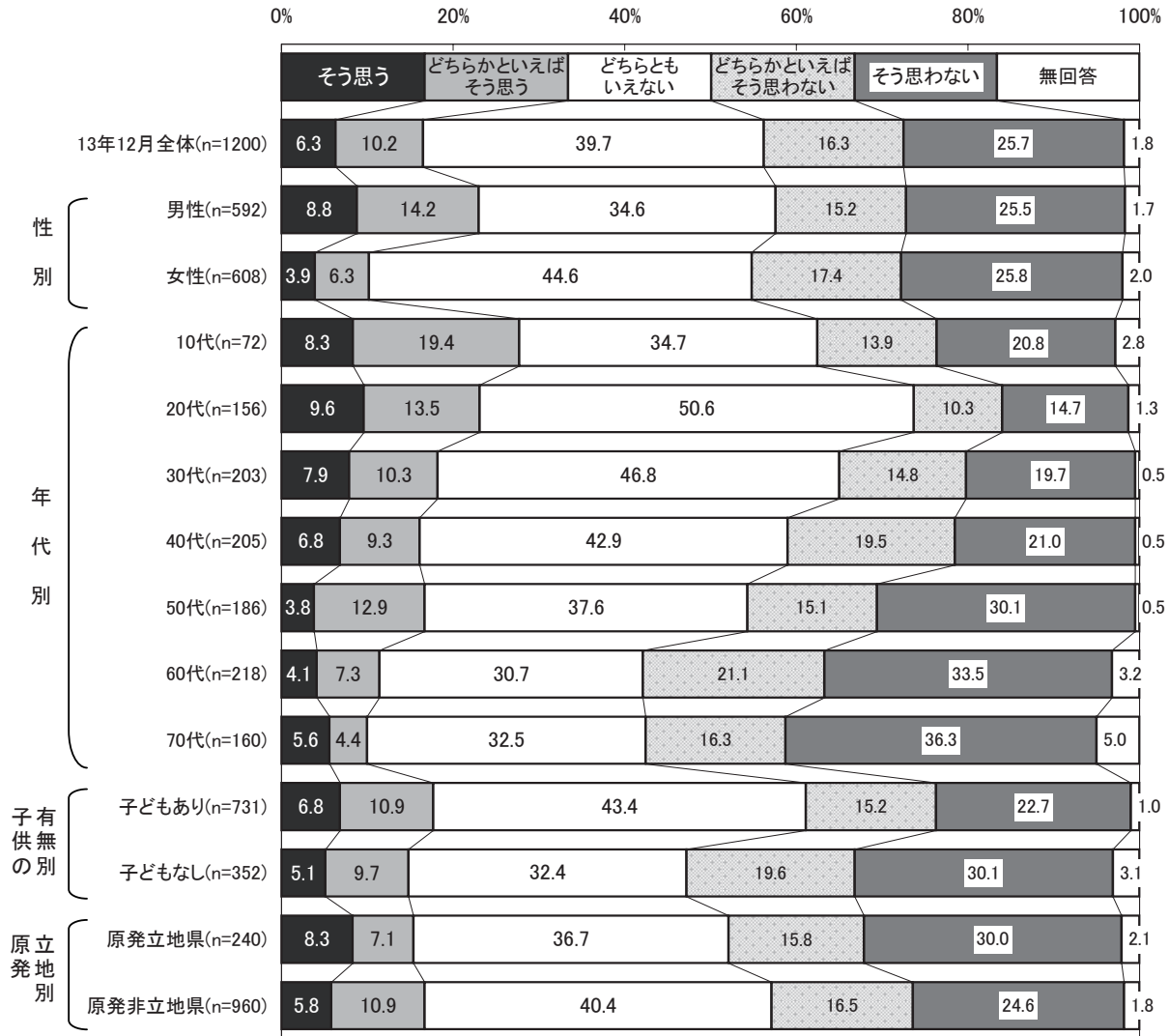
\* 「国」「自治体」は、10年9月まで「国や自治体」として聴取。「国」「自治体」の10年9月までの数値は、参考として「国や自治体」の数値を掲載。

## Ⅶ章 原子力・エネルギーに対する態度

●原子力に対する態度

「今後、原子力発電を利用していきべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は16.5%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は42.0%。  
 性別では、肯定的な回答は女性(10.2%)よりも男性(23.0%)が多い。また、「どちらともいえない」層は女性の方が多  
 い。年代別にみると、肯定的回答は若い層の方がやや多い。また、「どちらともいえない」層も若い層が多い。一  
 方、60~70代では否定的回答が6割近くを占める。  
 子供の有無別で見ると、子どもなし層の方が否定的な回答が高めになっている。

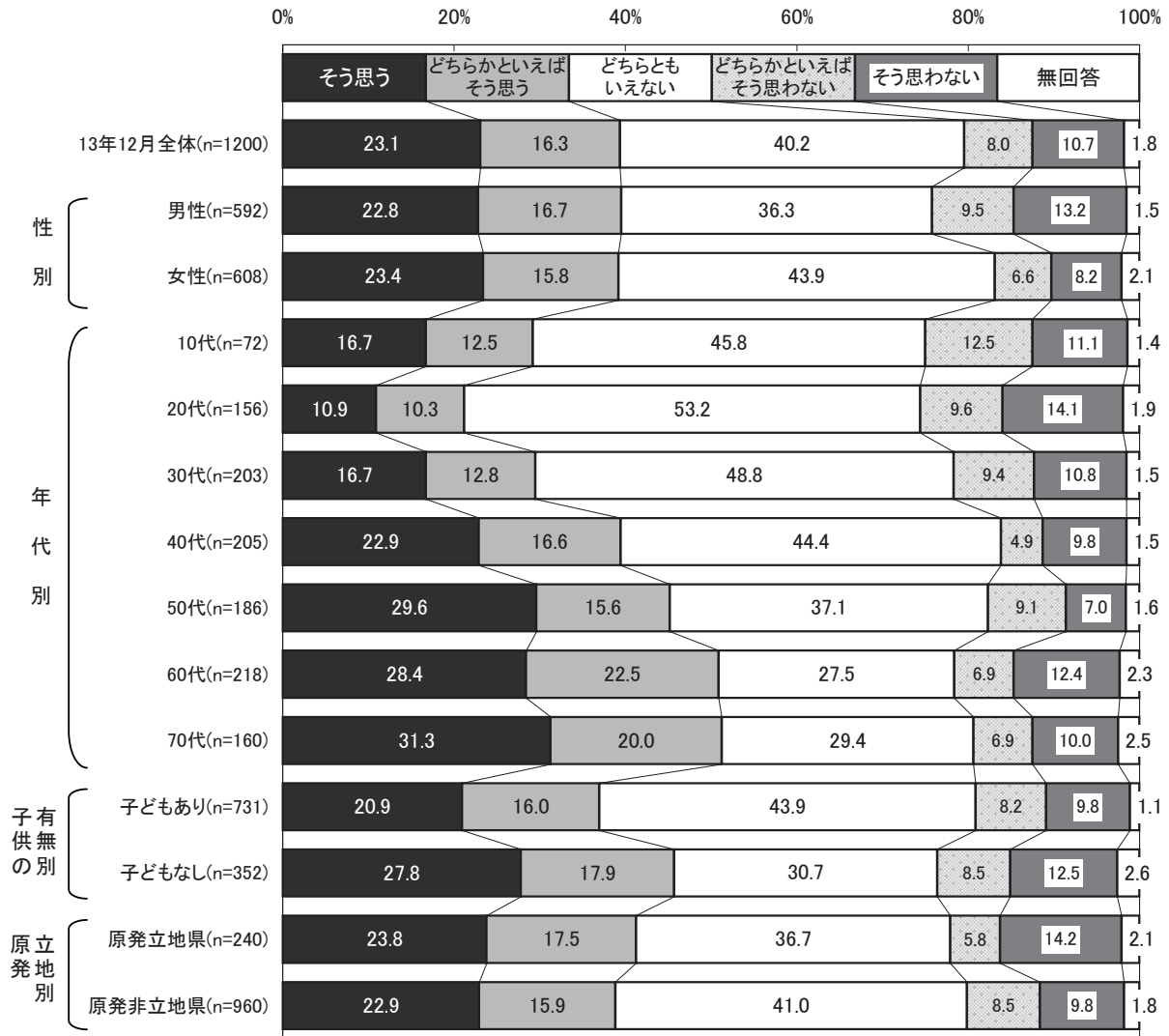
問7-g. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【今後、原子力発電を利用していきべきである】



●原子力に対する態度

「今後、原子力発電を廃止すべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は39.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は18.7%。原子力発電の受容という観点からは逆転項目になっていることに注意。  
性別では、「どちらともいえない」という回答は男性よりも女性がやや多い。年代別にみると、60~70代では肯定的回答が半数近くを占める。「どちらともいえない」層は若い方に多い。子供の有無では、子供ありの方が「どちらともいえない」層が多い。

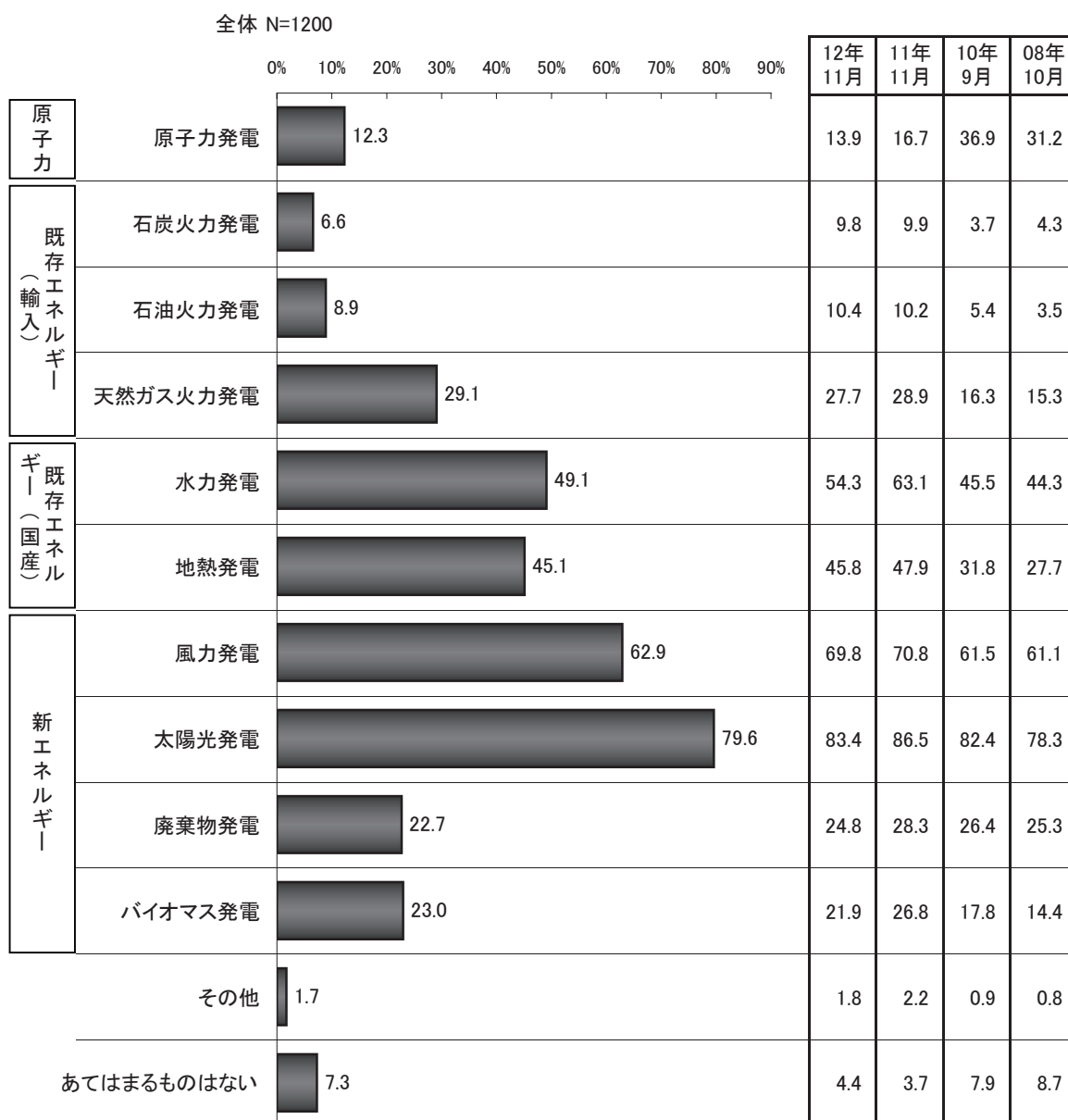
問7-h. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【今後、原子力発電を廃止すべきである】



## ●エネルギーに対する態度

今後わが国が利用・活用していくべきと思うエネルギーを尋ねたところ、「太陽光発電」(79.6%)、「風力発電」(62.9%)、「水力発電」(49.1%)、「地熱発電」(45.1%)と続く。この傾向は前回までと変わらない。一方、石炭火力、石油火力は経年的にも低いポイントである。原子力発電も福島事故後から低いポイントであり、回復する兆しは見えない。

問6. 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。  
以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)



\* 08年10月までの質問文は「今後わが国は～」、10年9月から「今後日本は～」に変更

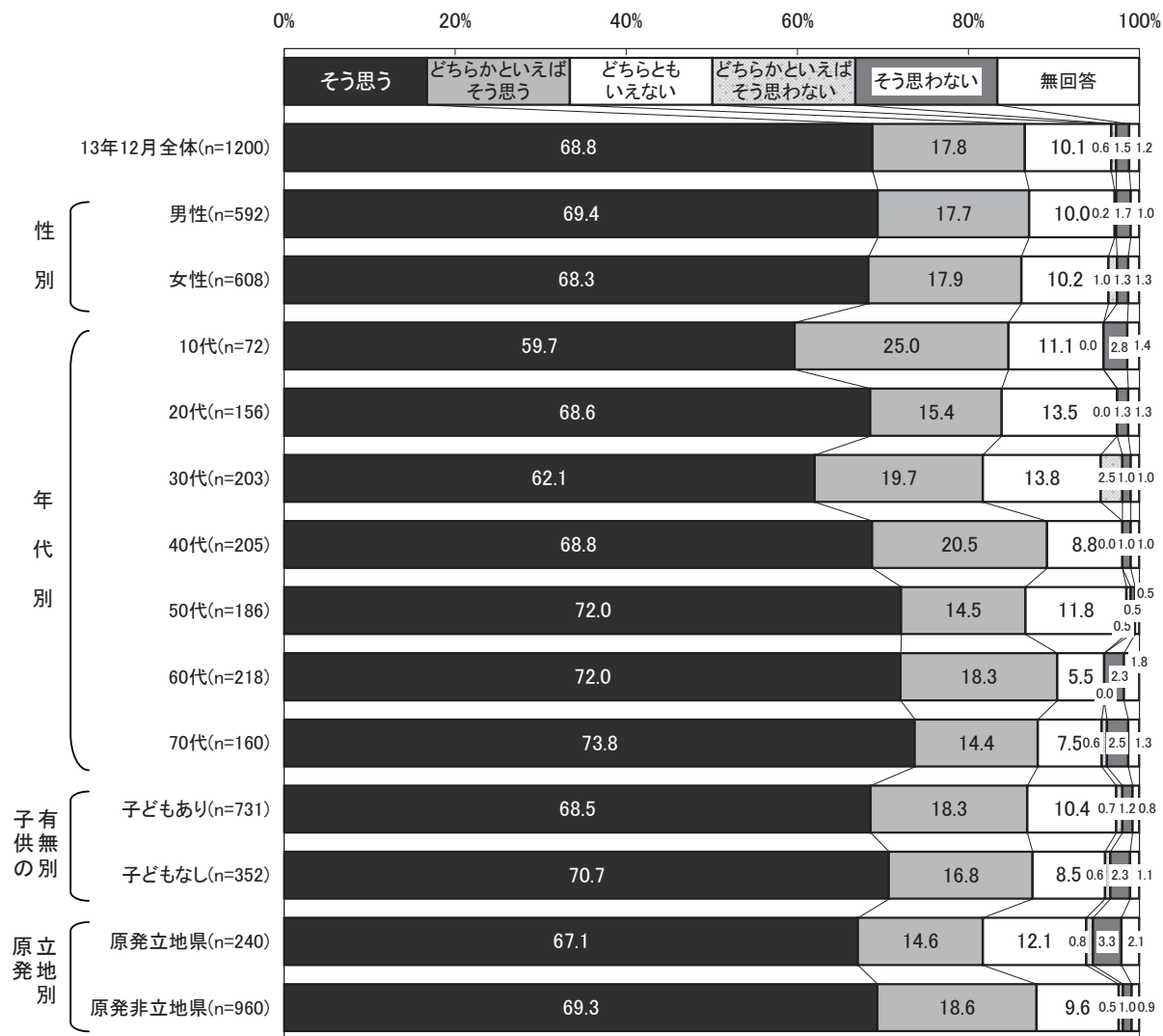


Ⅷ章 原子力・放射線・エネルギーについての  
広聴・広報

●原子力についての広聴・広報

「できるだけたくさんの方が国民に届くようにすべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は86.6%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は2.1%。圧倒的に肯定的回答が多く、前回の参考データとあまり変わらない。  
性別、年代別、子供の有無別、居住地別でも同様の傾向である。

問7-i. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【できるだけたくさんの方が国民に届くようにすべきである】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【できるだけくさんの情報が国民に届くようにすること】

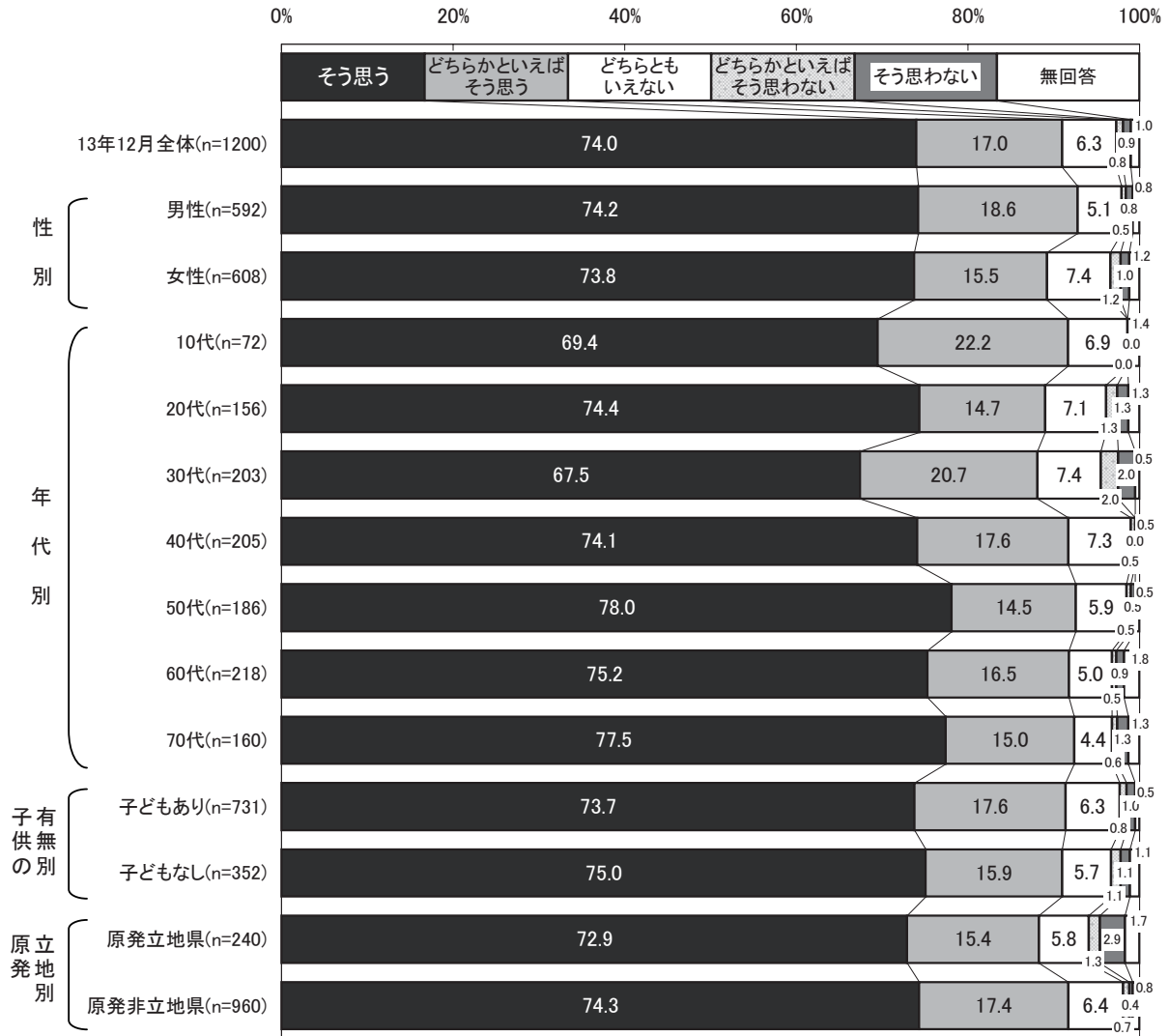
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	69.5	19.3	8.9	0.2	0.7	1.5
07年10月	1200	72.3	16.7	8.0	0.4	0.8	1.8
08年10月	1200	69.6	18.4	9.3	0.7	0.4	1.6
10年9月	1200	66.1	22.3	8.3	0.7	1.0	1.6
11年11月	1200	73.3	17.9	6.6	0.4	0.7	1.2
12年11月	1200	69.7	19.7	8.4	0.7	0.8	0.8

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力についての広聴・広報

「わかりやすく情報を伝えるべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は91.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は1.7%。圧倒的に肯定的回答が多く、前回の参考データとあまり変わらない。  
性別、年代別、子供の有無別、居住地別でも同様の傾向である。

問7-j. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【わかりやすく情報を伝えるべきである】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【わかりやすく情報を伝えること】

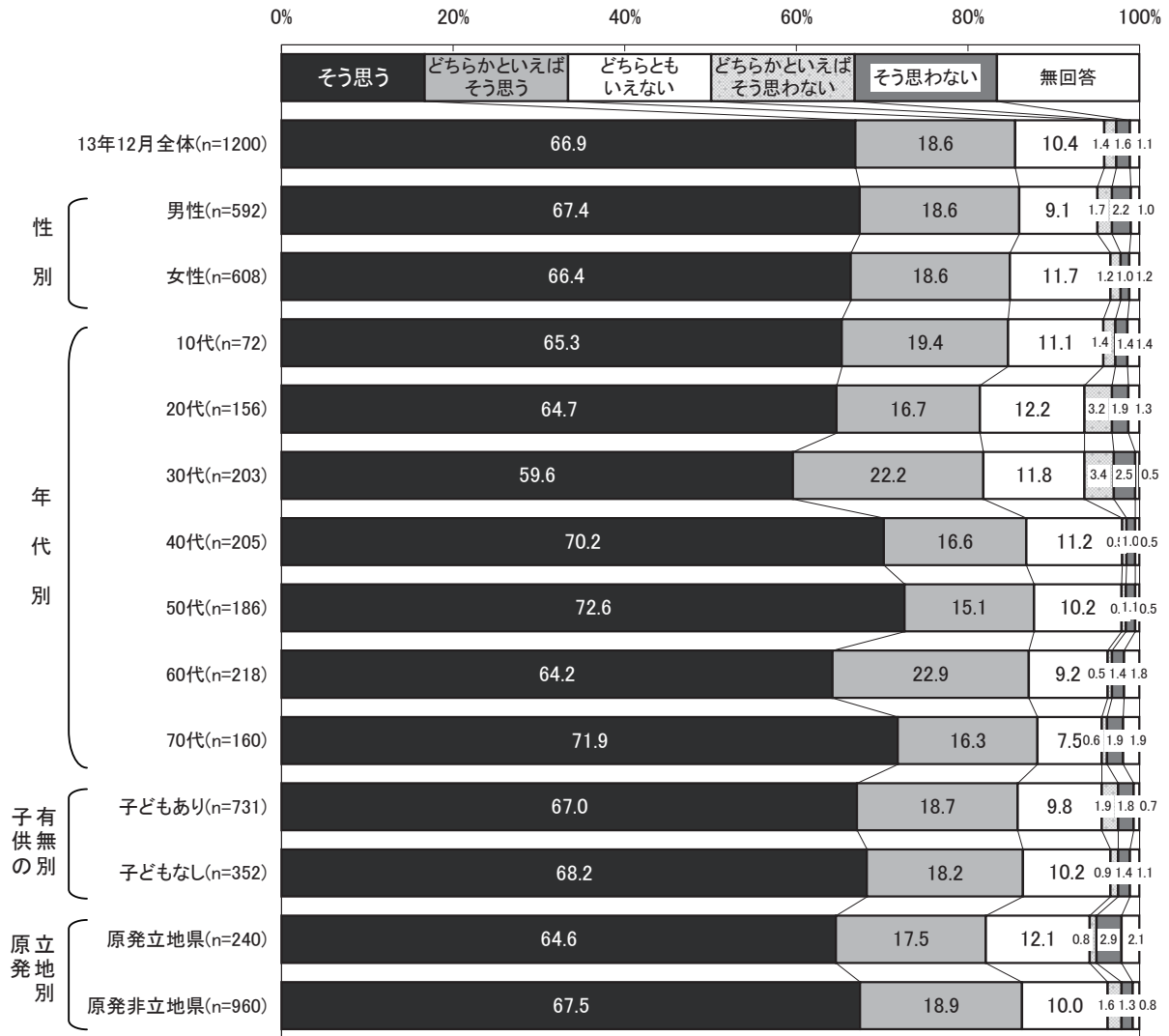
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	75.8	15.2	6.6	0.3	0.6	1.6
07年10月	1200	76.8	14.7	6.0	0.4	0.7	1.4
08年10月	1200	76.5	15.9	6.0	0.1	0.6	0.9
10年9月	1200	73.7	18.0	5.3	0.3	1.0	1.8
11年11月	1200	80.3	13.6	4.3	0.1	0.8	1.0
12年11月	1200	77.3	15.5	5.5	0.3	0.4	0.9

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力についての広聴・広報

「些細なことでも隠さず伝えるべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は85.5%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は3.2%。圧倒的に肯定的回答が多く、前回の参考データとあまり変わらない。  
性別、年代別、子供の有無別、居住地別でも同様の傾向である。

問7-k. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【些細なことでも隠さず伝えるべきである】



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【些細なことでも隠さず伝えること】

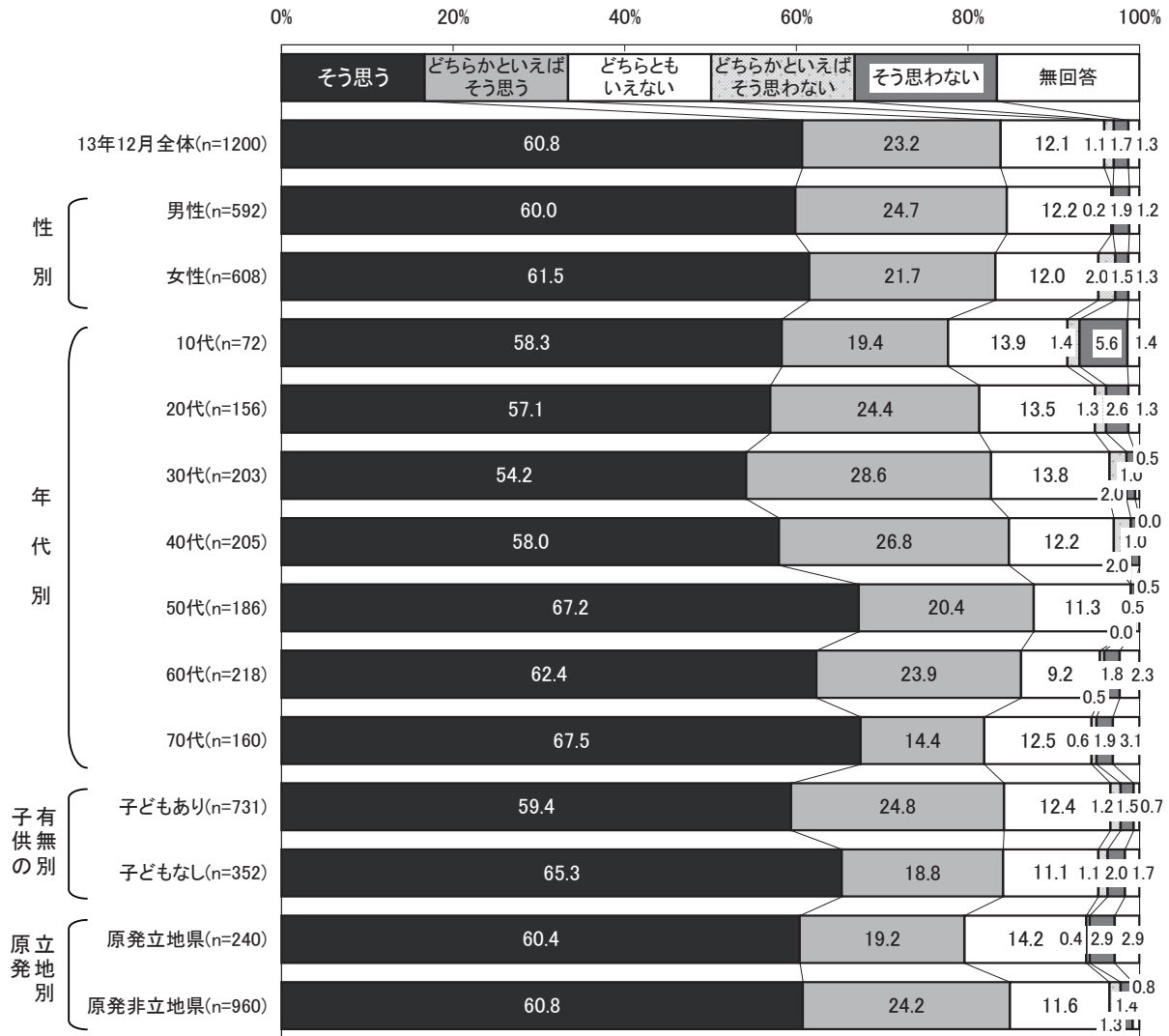
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	64.4	20.3	11.8	1.1	0.6	1.8
07年10月	1200	67.3	18.4	11.2	0.7	0.8	1.6
08年10月	1200	66.3	19.4	11.4	1.0	0.6	1.3
10年9月	1200	64.3	20.5	11.8	0.4	1.1	1.9
11年11月	1200	68.8	17.7	9.6	0.8	1.2	2.0
12年11月	1200	69.1	17.8	10.7	0.9	0.7	0.8

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力についての広聴・広報

「学校の授業で教えるべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は84.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は2.8%。圧倒的に肯定的回答が多く、前回の参考データとあまり変わらない。  
性別、年代別、子供の有無別、居住地別でも同様の傾向である。

問7-1. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【学校の授業で教えるべきである】





<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【学校の授業で教えること】

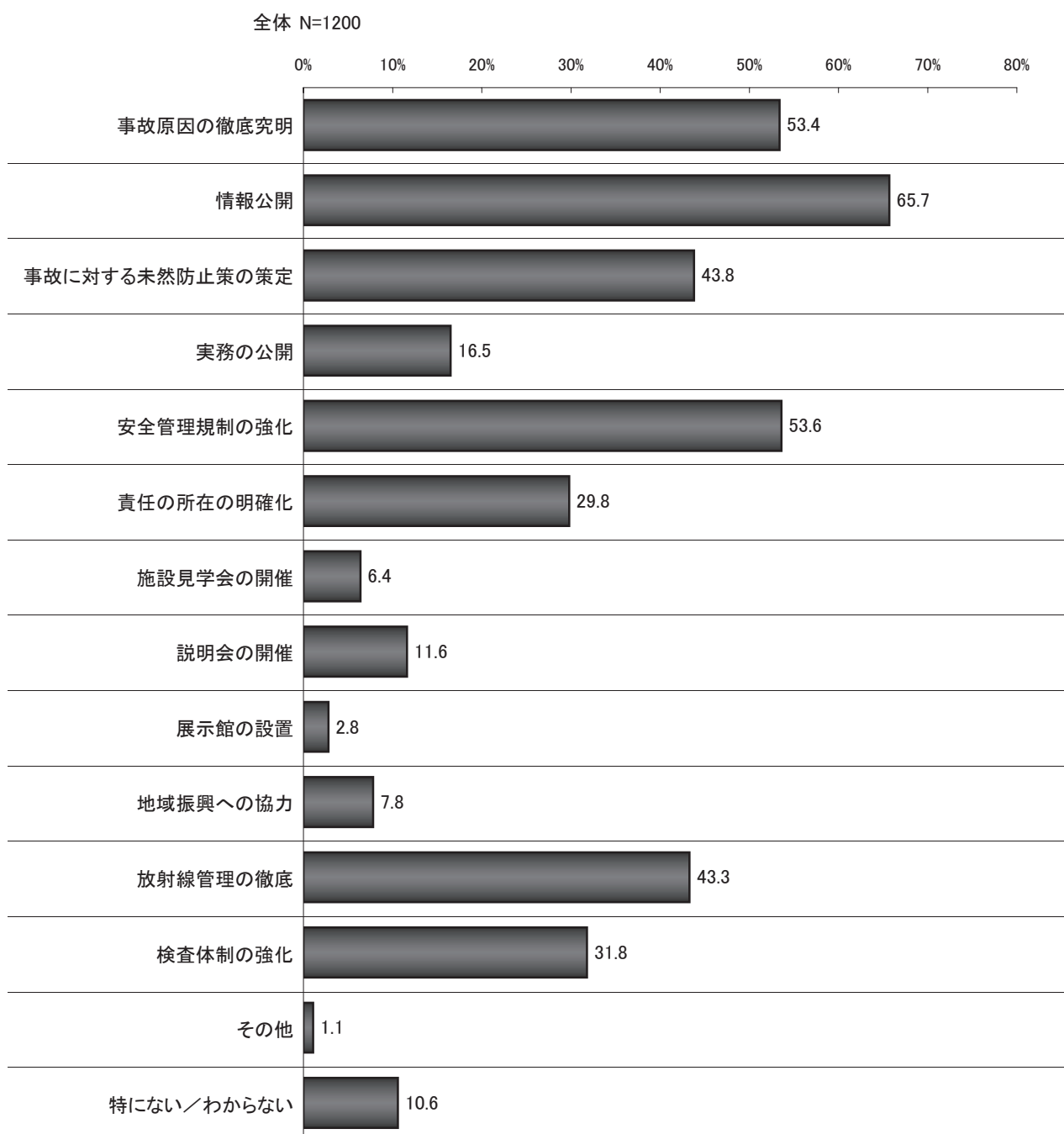
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	58.9	23.1	14.3	0.8	1.0	1.8
07年10月	1200	56.4	25.2	14.6	1.3	0.8	1.8
08年10月	1200	57.2	26.9	13.0	0.4	0.5	2.0
10年9月	1200	59.3	27.8	9.1	0.8	1.0	2.1
11年11月	1200	59.6	24.8	12.4	0.8	0.8	1.7
12年11月	1200	60.5	24.5	12.6	0.7	0.7	1.1

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

## ●原子力についての広聴・広報

原子力について、国や自治体に望む取り組みは、「情報公開」(65.7%)がもっとも多く、次いで「安全管理規制の強化」(53.6%)「事故原因の徹底究明」(53.4%)、ややポイントを落として「事故に対する未然防止策の策定」(43.8%)「放射線管理の徹底」(43.3%)「検査体制の強化」(31.8%)と続く。信頼できない理由として挙げられていた項目に関連する取り組みが望まれていることがわかる。

問13. 原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



<参考>

問. 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

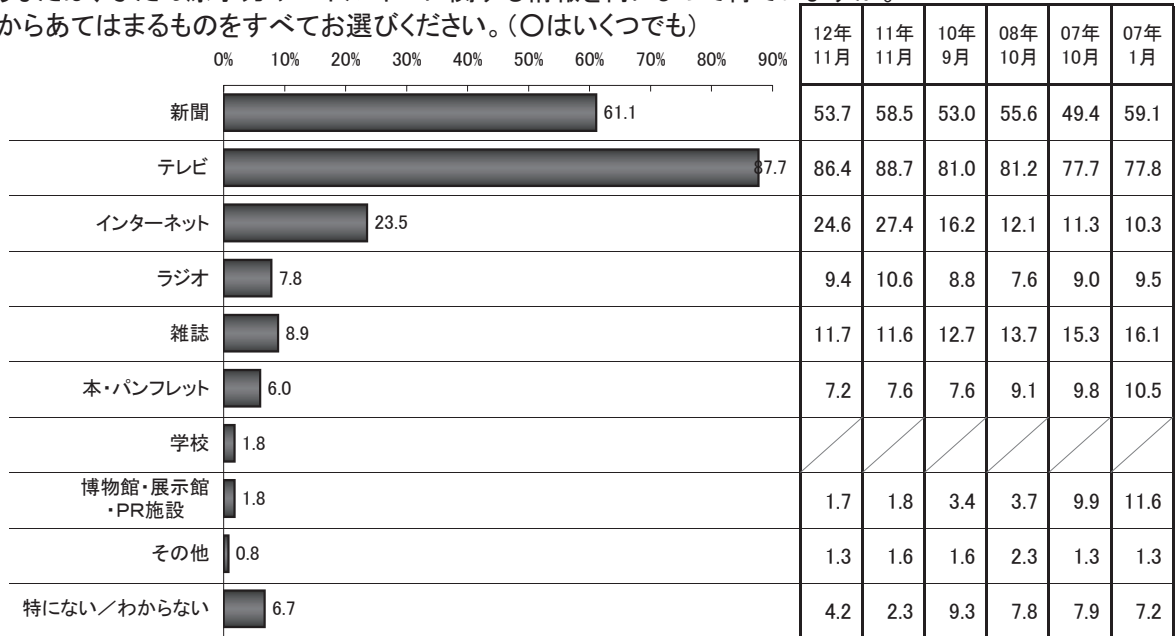
	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
事故原因の徹底究明	68.6	70.1	61.5	71.8	68.2	65.8
情報公開	71.0	70.7	69.6	71.8	68.8	67.4
事故に対する未然防止策	49.5	50.9	48.6	55.1	55.5	55.3
実務の公開	19.3	18.3	17.2	23.2	20.1	24.8
安全管理規制の強化	54.2	56.3	50.5	56.5	55.4	58.0
責任の所在の明確化	37.4	36.6	34.8	43.7	37.3	40.6
見学会や説明会の開催	10.6	9.9	16.7	19.4	19.3	18.1
展示館の設置	2.8	3.0	4.5	6.3	6.2	6.8
地域振興	4.8	5.3	5.8	7.8	7.0	7.3
放射線管理の徹底	40.7	44.8	40.0	50.3	48.8	46.3
検査体制の強化	32.8	36.3	31.5	44.3	41.4	41.6
その他	1.2	2.5	0.5	0.9	1.4	0.7
特になし／わからない	7.8	7.1	10.3	9.0	10.9	12.8
職員の姿勢	29.3	28.4	30.5	41.2	38.3	39.3

●原子力・エネルギーについての広聴・広報

原子力やエネルギーに関する日頃の情報源を訪ねたところ、「テレビ」(87.7%)、「新聞」(61.1%)が主な情報源。前回と同様の傾向(やや新聞のポイントが向上している)。年代別で見ると、「新聞」「テレビ」は50～70代が多く、「インターネット」は男性と20～40代の年代が多い。

問14. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



	新聞	テレビ	インターネット	ラジオ	雑誌	本・パンフレット	学校	博物館・展示館・PR施設	その他	特にない／わからない	
全体 (N=1200)	61.1	87.7	23.5	7.8	8.9	6.0	1.8	1.8	0.8	6.7	
性別	男性 (n=592)	62.3	85.6	31.3	9.8	9.8	4.9	2.0	1.5	0.8	6.3
	女性 (n=608)	59.9	89.6	16.0	5.9	8.1	7.1	1.6	2.1	0.8	7.1
年代別	10代 (n=72)	27.8	73.6	19.4	-	-	-	18.1	-	1.4	20.8
	20代 (n=156)	30.8	77.6	37.8	2.6	2.6	5.1	4.5	1.3	1.3	14.1
	30代 (n=203)	51.2	87.7	38.4	5.4	6.9	4.9	0.5	1.0	0.5	5.4
	40代 (n=205)	61.5	87.8	28.8	8.3	7.8	3.9	-	2.9	0.5	5.9
	50代 (n=186)	73.7	94.1	20.4	7.5	8.6	7.0	0.5	1.1	1.1	1.1
	60代 (n=218)	78.0	91.3	11.5	11.5	14.7	9.6	-	1.4	0.5	3.7
	70代 (n=160)	80.0	91.3	5.6	14.4	15.6	7.5	-	4.4	1.3	6.3
子供有無別	子どもあり (n=731)	56.9	86.9	28.5	7.3	7.1	4.5	2.5	1.5	1.0	6.8
	子どもなし (n=352)	71.6	90.9	15.1	9.9	13.4	8.8	0.6	2.6	0.3	5.4
立地別	原発立地県 (n=240)	63.8	87.1	20.0	8.8	10.4	5.4	1.3	2.5	0.4	7.1
	原発非立地県 (n=960)	60.4	87.8	24.4	7.6	8.5	6.1	2.0	1.7	0.9	6.6

\* 網掛けは全体値より5ポイント以上高いセグメントを示す

\* 07年10月までの選択肢は「国や電力会社などのPR施設」、08年10月からは「博物館・展示館・PR施設」に変更

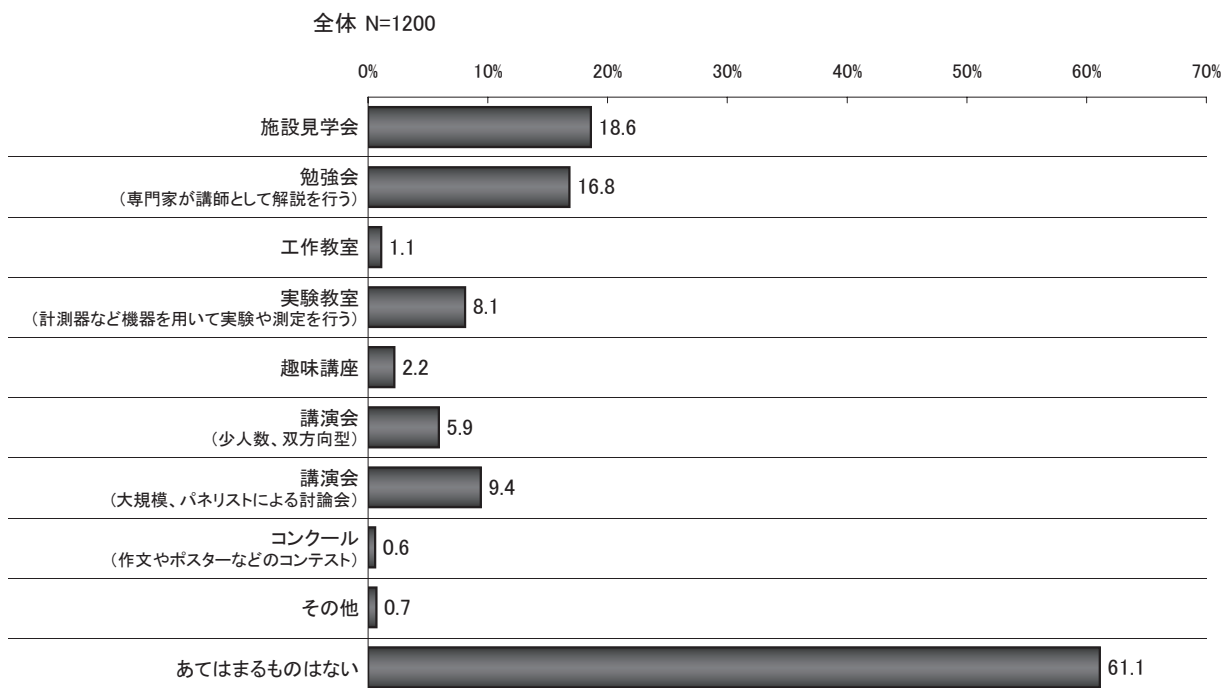
\* 12年11月までの選択肢は「あてはまるものはない」、13年12月からは「特にない／わからない」に変更

\* 「学校」は13年12月から追加

●原子力・エネルギーについての広聴・広報

原子力やエネルギーに関するイベント・施設の中で参加してみたいものとして、「施設見学会」(18.6%)、「勉強会」(16.8%)がやや高い。なお、「あてはまるものはない」がもっとも多く、61.1%を占める。

問17. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



<参考>

問. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月
施設見学会	36.2	32.0	43.8	37.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	18.2	21.8	11.4	14.8
工作教室	4.0	4.0	4.6	6.3
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	16.5	18.3	14.4	15.9
趣味講座	7.1	7.3	6.6	9.4
講演会 (少人数、双方向型)	7.8	9.0	5.2	5.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	9.9	12.3	7.5	8.8
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	2.2	1.3	1.9	2.3
その他	0.3	0.7	0.4	0.5
あてはまるものはない	14.1	14.9	18.6	16.2

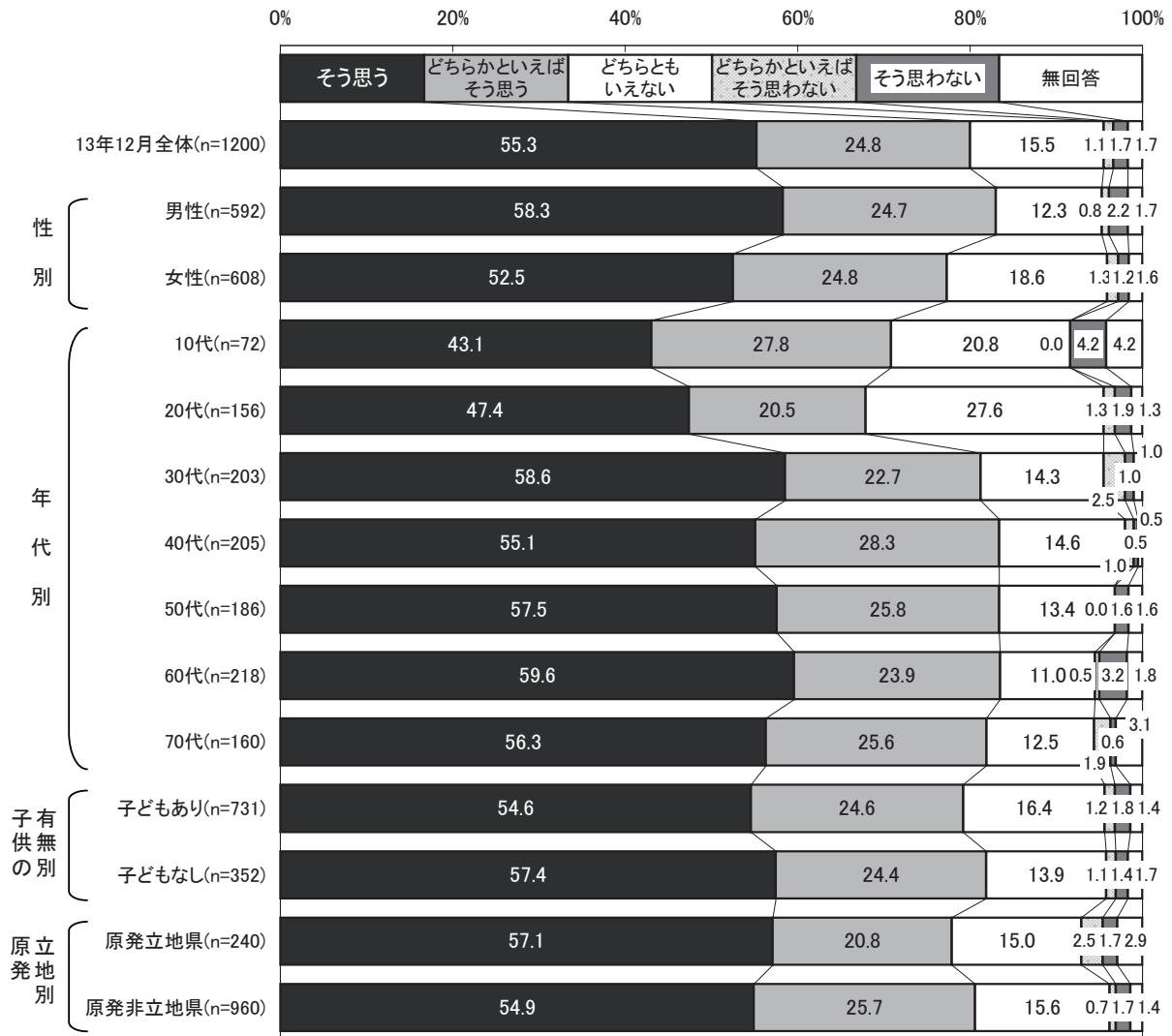
区章 科学技術・環境・エネルギー・社会に対する  
価値観

●エネルギー観

「日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は80.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえば思わない」)の割合は2.8%。  
年代別にみると、10～20代は他の年代と比べて肯定的意見がやや少ない。

問7-r. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである】





<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること】

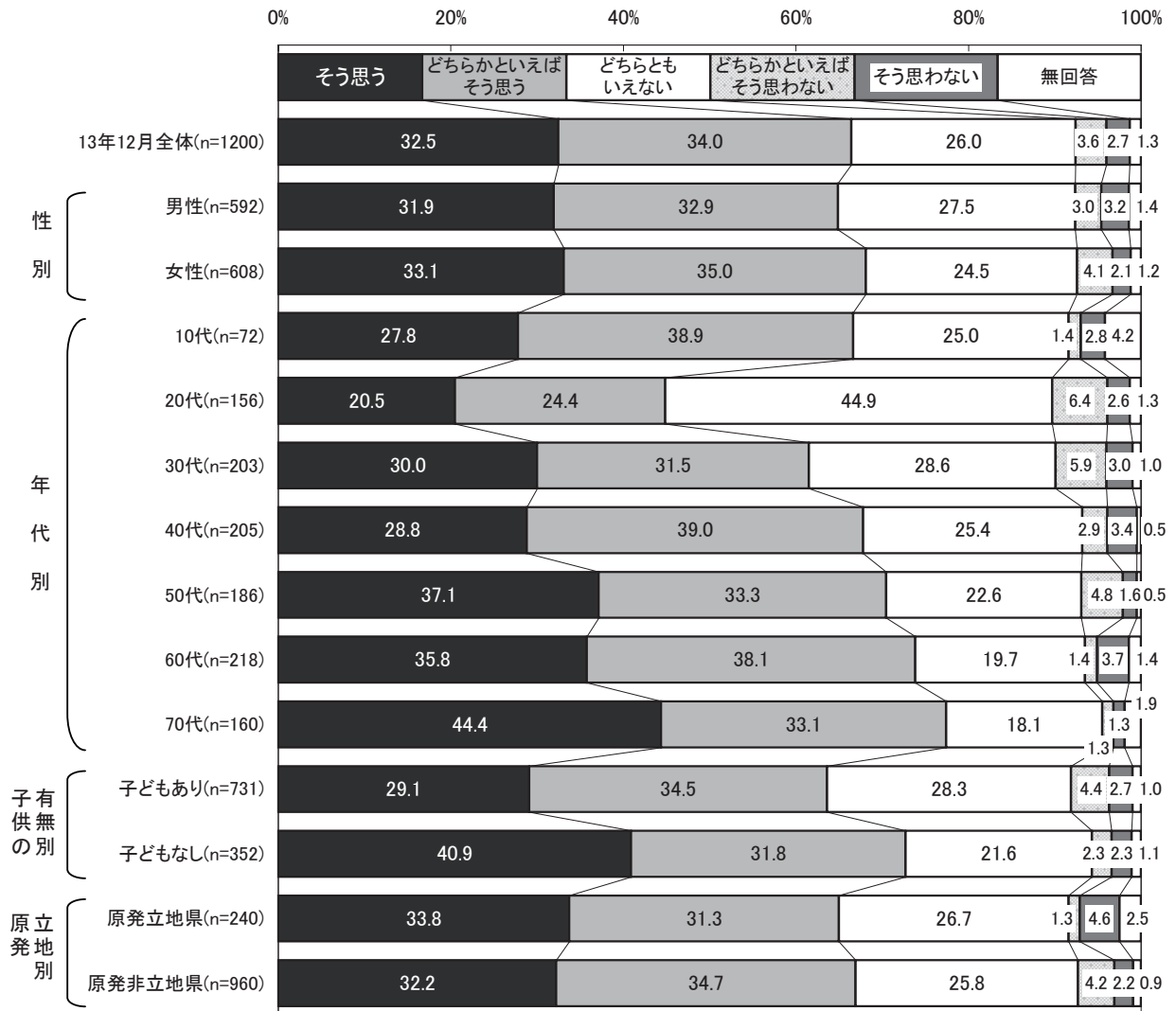
	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば必要でない	必要でない	無回答
07年1月	1200	29.7	30.0	32.2	3.3	3.2	1.8
07年10月	1200	26.8	29.8	35.3	2.9	3.6	1.6
08年10月	1200	34.1	26.5	32.1	3.1	2.8	1.5
10年9月	1200	34.3	30.4	28.9	2.2	2.3	1.8
11年11月	1200	13.1	19.4	44.7	9.2	12.1	1.6
12年11月	1200	13.1	18.9	46.8	6.7	13.6	1.0

\*07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●エネルギー観

「少くらしい生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は67.5%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は6.3%。年代別にみると、20代で肯定的回答が少なく、年代が上がるごとに肯定的回答が増えている。子供の有無別でみると、子どもなし層の方が肯定的回答がやや少ない。

問7-s. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【少くらしい生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである】

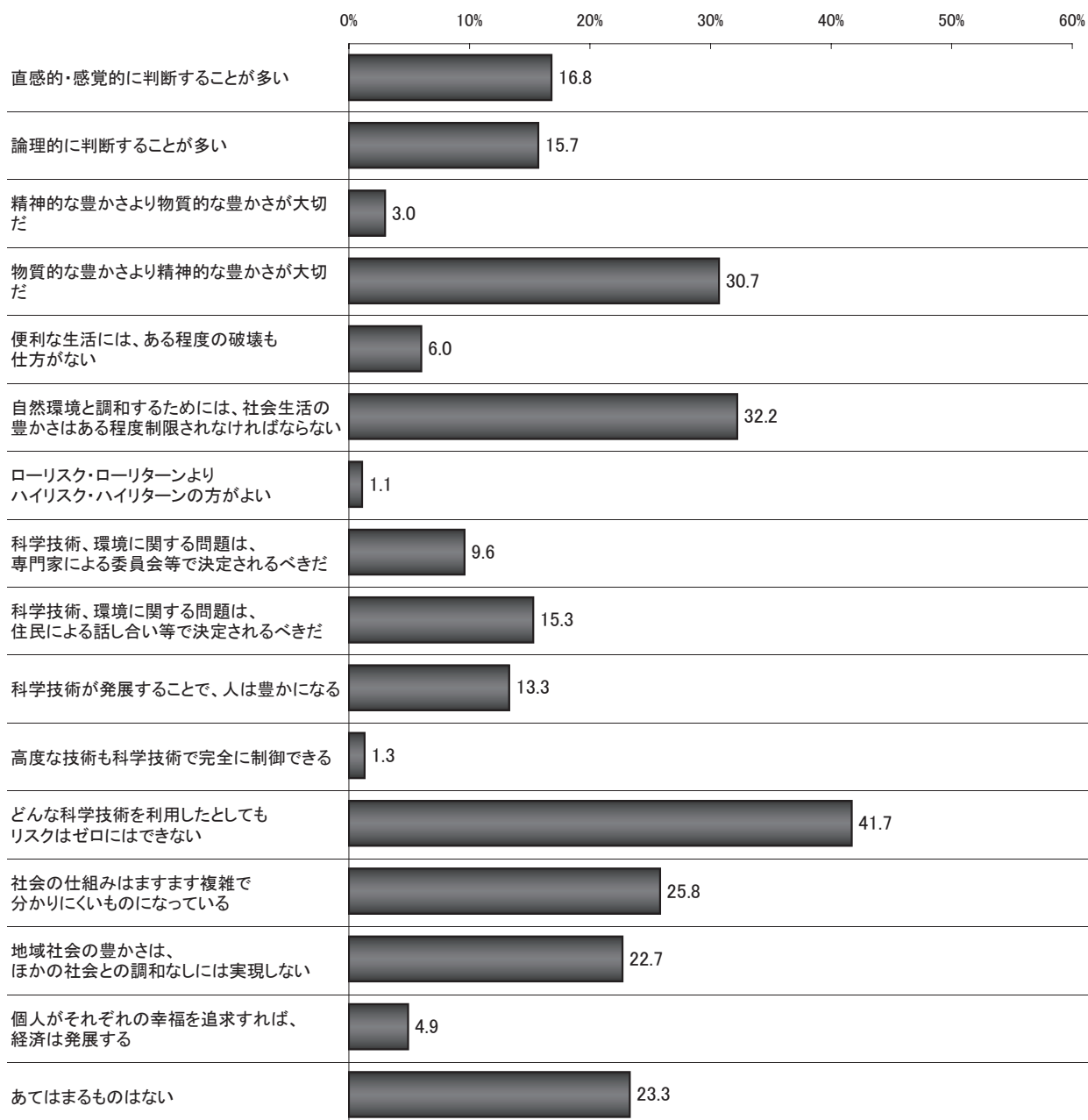


## ●科学技術・環境・社会に対する価値観

科学技術や環境などに対する考え方について聞いている。  
 「直感的・感覚的」⇔「論理的」ではほぼ同じポイント。「物質的豊かさ」⇔「精神的豊かさ」では、精神的豊かさの方が多  
 い。便利な生活と自然環境との関係では、社会生活の制限を受け入れる回答が多い。ハイリスク・ハイリターンは望ま  
 れていない。  
 科学技術の考え方としては、リスクはゼロにできないという回答が多い。問題解決には、専門家委員会よりは住民参加  
 の方がやや望ましいと考える回答者が多い。  
 社会の考え方としては、複雑になっており、他の社会との調査が大切であるという回答が多くなっている。

問18. 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。  
 次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



<参考>

問. 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
物事の判断は直感的・感覚的だ	9.5	9.8	10.1	8.5	8.5	8.4
—						
—						
精神的な豊かさの方が物質的豊かさより大切	31.3	34.4	32.4	34.1	34.5	32.5
便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない	8.9	9.3	8.9	5.9	6.5	6.1
—						
ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい	1.4	1.5	1.4	2.0	2.0	2.3
ゴミ処理や原子力発電などの問題は専門家による委員会決定されるべき	10.8	13.5	13.1	13.8	11.4	14.0
住民にとって重要な選択をするときは住民投票で決定されるべき	36.5	37.0	36.3	41.4	41.3	40.2
科学技術が発展することで、人は豊かになる	13.8	13.1	14.3	11.4	10.0	10.7
高度な技術も科学技術で完全に制御できる	2.6	2.8	2.5	3.1	2.0	3.0
どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない	51.1	51.8	45.5	47.4	47.8	45.7
—						
—						
—						
あてはまるものはない	10.3	9.0	13.3	12.4	11.8	14.8

## X章 自由記述

## ●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
本。(男性, 16歳, 大 阪)
このままで良い。(男性, 16歳, 広 島)
学校で教えてほしい。(男性, 17歳, 大 阪)
テレビが一番だと思うが、よく吟味して放送してほしい。(男性, 17歳, 山 形)
一人一人どんな手段でもいいから、様々な人に言い伝えるべきである。(男性, 18歳, 栃 木)
経済の発展が何より重要。環境破壊は結果として経済発展を害するから、環境への配慮が必要なだけであり、先々で取り返しのつくものがあれば、人も金も環境も切り捨てるべき。つまり原子力問題もそれに伴う情報統制も、一時的な損失であり、後々に富をもたらす結果であれば構わずに行う方が良く考える。(男性, 19歳, 東 京)
もっと真剣に取り組み！(男性, 19歳, 沖 縄)
福島原発事故では国民への情報公開が徹底されておらず、余計に反感や不快感を感じる事が多くありました。国民一人ひとりの意見や考えを行政や関係者がきちんと受け止め、前向きに取り組んでほしいと強く思います。(男性, 20歳, 東 京)
専門家しか情報源として信頼できない。(男性, 21歳, 神奈川)
現場の声が聴きたい。責任者(政治家等)の会見ではなく、現場作業員が現状を伝えるべき。(男性, 21歳, 宮 城)
今の政治家は悪いことを隠して我々に知らされる時は事態が悪くなった時なので、TV関係の人々がしっかりと情報をながしてもらいたい。(男性, 21歳, 東 京)
情報公開を、しっかりすべき。(男性, 22歳, 千 葉)
情報開示する必要はない。国の人間が最善策を考えている為。現在、原子力に代替できるエネルギーが発達していない為。それまでは使用する必要がある。(男性, 23歳, 大 阪)
「ただちに影響はない」の意味がわからない。(男性, 23歳, 岡 山)
人や組織によって主張が異なるので、判断することが難しい。(男性, 24歳, 神奈川)
きちんとした情報公開をして頂きたい。(男性, 25歳, 徳 島)
まだ原子力は必要だと思うし、いずれは0に近づけていけば良いかな。(男性, 25歳, 青 森)
現時点では、原子力に依存するのは仕方ないと思います。(男性, 26歳, 東 京)
論理的、客観的な根拠に基づく情報源が必要。(男性, 28歳, 東 京)
もっとわかりやすく！！説明の理解に時間がかかる(現状)。(男性, 29歳, 千 葉)
偏った報道が多いように思う。リスクの情報は必要だが、むやみに不安をあおるのではなく、公平中立の視点から発信してほしいと思う。(男性, 31歳, 兵 庫)
原発が動くことで電気代は安くなるが、その分危険がともない廃炉もやむを得ない。(男性, 33歳, 大 阪)
原子力エネルギーは0にして欲しい。(男性, 33歳, 長 野)
ネット、テレビ。(男性, 34歳, 神奈川)
正しい情報を流す。正確な知識を専門家、政府関係者が持つ。知識を身につけた教員が、学校で子供達に正しい情報と有用性、危険性を教える。→大人が知らないから、子供達が知らないまま育っていく。(男性, 34歳, 鹿児島)
密室で全てが決定されることに恐怖を感じる。(男性, 35歳, 兵 庫)
既存メディアは嘘をついている。報道の自由をはき違えている。(男性, 36歳, 神奈川)
情報の信頼性を評価する仕組みがないor不足している。(男性, 36歳, 愛 知)
原子力反対派は具体的に案を出さずに反対とさげんしている。(男性, 37歳, 埼 玉)
偏りが強い。公平に。日本の戦略を元にエネルギーのあり方を述べるべき。世界規模で長期的な視点で物事を考えるべき。(男性, 37歳, 北海道)
反対派の意見は取り上げられやすいが、原子力エネルギーがない生活はどんなものになるのか、もっと知りたいし、みんな知った方がいいと思う。(男性, 38歳, 兵 庫)
私はテレビも新聞も見ません。しかしインターネットの記事等はあまり信用できない。(男性, 38歳, 兵 庫)
慎重に考え、是非を決めてほしい。(男性, 38歳, 岐 阜)
専門用語が理解できず、情報がつかみきれない。(男性, 38歳, 愛 媛)
情報はたくさんあるので、それを選べる頭が大事だと思います。(男性, 39歳, 東 京)
原子力を利用しなければ、現状、他の国にあらゆる面で遅れをとることになり、最終的に日本は後進国化、他国に経済的に支配されてしまうので、原子力の利用は不可避である。(男性, 39歳, 滋 賀)
原子力発電を今すぐやめなければ、日本の経済に影響が出ると思われる。しかしながら、太陽光発電、地熱発電、風力発電など、原子力に依存しないエネルギーの確保を迅速に行う必要がある。いずれは原子力発電をゼロにしても安定したエネルギー供給ができる世の中にならなければならないと私は思う。今までそれに取り組んでこなかったのは、政府の怠慢であると思う。(男性, 39歳, 東 京)
安全性と危険性の明確化。(男性, 39歳, 山 梨)

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
原発は増やさず現状維持で、30～50年で廃炉。放射能をエネルギーにかえる研究。無理だと思いが…。情報発信は、政府は無理。やめた方が良く、国民をあおらず、専門家が発信するべき。隠すだろうけど…。(男性、40歳、埼玉)
日本独自のエネルギーを開発すべきである(メタンハイドレード等)。上記の開発に予算を使用するべき。(男性、41歳、兵庫)
原子力で働く人の事を少しは考えてほしい(職をなくす人が多くいる)。(男性、41歳、佐賀)
情報公開の徹底。(男性、41歳、福島)
明確にわかりやすいように公開してほしい。真実を話してほしい。(男性、41歳、秋田)
つくってしまったものは仕方がないが、今ではなく、もっと将来の事を考えて欲しい。本当に必要なのか。自然エネルギー(風、太陽)で、できる範囲で生活していけるように、一人一人が考えてほしい事を、もっとカリスマのある人が言って欲しい。そして強制的にやってもいいと思う。(男性、42歳、愛知)
東京電力の、東日本大震災による事故の対応で、原子力発電についての情報発信等で政府や電力会社の情報が信用できなくなりました。(男性、42歳、福岡)
テレビ、ラジオ、新聞、メディア全てに対し、デメリットの情報発信が少ないと思います。メリット面の発信が多かった為、安全神話なるものが生まれ、今回のような状況になっていると思います。(男性、43歳、福岡)
TVのキャスターも主観が入った発言をする為、見方によっては偏ってしまう。(男性、44歳、東京)
情報源がもっと増えたら良いと思う。(男性、46歳、東京)
自然エネルギーに変えていくべき。(男性、47歳、京都)
国民の安全の保障が第一であること。そして事故に対してはスピードに解決・対応することが大切である。(男性、47歳、埼玉)
1電力会社が原発を管理していることが不自然。東電は危機管理能力がない。(男性、48歳、神奈川)
福島原発事故前までの、原子力ムラの嘘で固められた情報発信に完全に騙されていたが、事故を契機に自分で情報を確かめ、沢山の情報(偏っていない情報)に触れ、自分で判断する大切さを知った。(男性、48歳、埼玉)
原子力に頼らない生活を希望するが、今の自国のエネルギー体制では無理なのか?多くの情報公開を望む。(男性、48歳、静岡)
様々な立場の人から、情報を発信してもらいたい。(男性、48歳、静岡)
日本人は原子力に対する知識がなさすぎる。(男性、49歳、神奈川)
・即レスポンス対応が必要です。
・整理力がなさ過ぎる。(男性、49歳、兵庫)
NHKによる偏らない情報の発信。(男性、49歳、兵庫)
一部の人間の利益の為だけの原子力は止めるべき。(男性、50歳、大阪)
これからも問題となる情報は、国民に提供されないだろう。(男性、50歳、長野)
情報公開を望む。(男性、51歳、神奈川)
正確な情報であれば、媒体は何でもかまわない。(男性、52歳、神奈川)
全てをわかりやすく(中学生が理解できる程度)、情報発信が必要。手段としては、いつでもどこでも見れることが大切。(男性、52歳、福井)
原子力は必要だと思うし、長い間かけてまじめに大変な思いをしながら研究してきた人たちのことを思うと、簡単にやめてしまうのは安易だと思う。正しい情報を開示して安全性を検証しながら進めていくのが良いと思います。(男性、53歳、神奈川)
マンガ化、アニメ化、映画化など。(男性、53歳、北海道)
不利なものほど情報公開をスピーディーに。(男性、53歳、新潟)
国民に対し、速やかに情報公開を望む。(男性、54歳、埼玉)
国民の安全を第一に考えて欲しい。(男性、55歳、群馬)
原発について国民投票を実施すべき。(男性、55歳、千葉)
原子力発電はできれば少しずつ減らしていけたらよいと思う。事故後のことが1ヶ月とか経てその時の状況や事実が出てくると大変信頼を失う!(男性、56歳、奈良)
・メディアの興味的な報道で市民を惑わしているのではないか。
・より確かな情報をしっかりと発信してほしい。(男性、56歳、大阪)
国、電力会社は情報公開を行い、マスメディアはその情報を国民にわかりやすく伝えて欲しい。(男性、56歳、福)
一般人にわかりやすく説明してほしい。(男性、57歳、大分)
正直に。(男性、57歳、愛媛)
電気については脱原発に向かうべきである。事故の場合のリスク・負担が大きすぎるため。(男性、58歳、大阪)
専門的な知識がないのでよくわかりませんが、嘘のない情報を伝えてほしいです。(男性、58歳、東京)
原子力に替わる物を至急探すべき。(男性、59歳、東京)

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
もっとしっかり情報を発信してほしい。(男性, 59歳, 東京)
人間が制御できない技術は使用すべきでない。(男性, 59歳, 福島)
2011年に東電の事故が発生し未だに住民が居住地へ戻れない日々が続いている。最近小泉元首相の発言に関心がある。最終処分地も決定していない中で、原子力政策を推進するのはいかかと思う。(男性, 59歳, 青森)
正直に情報発信して欲しい。(男性, 59歳, 岡山)
新聞、マスコミ等は今まで以上に情報を的確に発信することを望む。(男性, 61歳, 大阪)
原子力エネルギーに替わる新しいエネルギー策定のため、政府の研究機関、研究機構を従来の官庁、役員とは別に、日本の全大学の学者、研究者を集めて代替エネルギーシンクタンクを構築し、産学複合で研究、実践機構を立ち上げ、官僚や国会議員には絶対に関与させないオールジャパンが構築できないものか。(男性, 62歳, 埼玉)
偏った第三者機関ではなく、公正な第三者機関による情報発信を望む。現状ではかくされた情報が多い。特に原子力政策に関して隠されたりしている情報ばかりなので、利害関係のない第三者機関が必要。(男性, 62歳, 愛知)
地震、火山の多い小国(列島)では、原発は使用済み核燃料の処分技術もない今日、不要のものと思う。後世に処理の大きな課題(問題)を残すべきではないと思う。(男性, 62歳, 宮城)
原子力反対。(男性, 62歳, 宮城)
わかりやすい説明をして頂ける専門の人。(男性, 62歳, 三重)
自然エネルギーとの調和と共存する方法をもっとインターネット等にて公開する。(男性, 63歳, 東京)
NPOが正確な情報発信する。(男性, 63歳, 山口)
会社にTELLして問い合わせる。(男性, 63歳, 静岡)
原子力は事故が発生した場合に広範囲に被害が及ぶ。結果としてない方が良くと思うが！代替エネルギーは、電気料金の高騰、継続的に利用できるのかが明確に判り、納得できるものであれば良い。(男性, 64歳, 愛媛)
原子力や放射線が、安全がわかるまで使用すべきではない。(男性, 64歳, 東京)
原子力発電はなくした方が良く。(男性, 65歳, 大阪)
専門家と言われる人々の知識、判断力のなさに驚いた。(男性, 65歳, 京都)
具体的に説明が必要。例に、人体にどのくらい影響があるのか、ガンの可能性10%とか。(男性, 65歳, 広島)
IAEAのような組織の細部に渡る説明が欲しい。(男性, 65歳, 岡山)
もっと現状をわかりやすく話してほしい。(男性, 66歳, 兵庫)
原子力の最終処理のことが技術的に解決されていないのが、一番の不安。今のツケを長い将来にわたり負担させることになる。ひいては、地球の汚染。(男性, 66歳, 大分)
原発はゼロにすべきだ。自然エネルギーを増す。(男性, 66歳, 大阪)
現場作業員に直接聞くこと。(男性, 67歳, 愛知)
現在の原子炉は設計段階で問題がある。冷却水、電源等の予備が準備されていない。(男性, 68歳, 東京)
正しい情報を公開して欲しい。(男性, 68歳, 群馬)
原子力の最終処理と最終処分の確立を、科学的に早く進めてほしい。(男性, 68歳, 大阪)
原子力エネルギーは大切だ。しかし事故等の対応に十分配慮し、安全の構築が最も重要だ。(男性, 68歳, 埼玉)
使用済み廃棄物が残る以上、原子力を使用することは中止してほしい。(男性, 68歳, 愛知)
どこが情報発信・情報源としても人間の行う事であり、情報操作をされていると考えた方が良くと思う。(男性, 69歳, 東京)
太陽光発電は雲があっても太陽はあるので、技術追求して雲があっても発電できればよい。(男性, 69歳, 北海道)
だれを信じて、だれの言っている事が正しいかわからないし、裏で利害関係があるような気がしてならない。(男性, 70歳, 兵庫)
放射線医療必要です。(男性, 70歳, 神奈川)
情報についてはかくさず、公開すべきである。今の政治家は全くビジネス化しており、昔のような政治家が出現してくれることを望んでいる。言っていることが各人ばらばらで、信用できない人材ばかりである。(男性, 71歳, 埼玉)
原子力発電所等に関し、自分達に都合の良い意見、情報を採用しているので信用できない。(男性, 71歳, 千葉)
小泉元総理が言っている。(男性, 72歳, 石川)
原子力発電は事故の際、制御不能なのでゼロにすべきである。(男性, 72歳, 東京)
政治家、地方自治体の関係者、かつ最も直接の関係者等がすべて100%の事実を広報し、国民の安心と安全を保持して頂きたい。(男性, 72歳, 静岡)
情報管理の徹底。原子力のエネルギーが使用できなくなると電気の供給がなく、生活が成り立たなくなると思う。商売も成り立たない。(男性, 72歳, 福岡)
正確に情報を公開すべきである。(男性, 72歳, 茨城)
原子力使用について賛成の人など皆無です。しかし燃料費が高騰して、電気代が上って企業(倒産が沢山出る)とか国民が生活できないから。(男性, 75歳, 東京)



●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
原子力発電所を外国に輸出して日本で使用しない手はないと思います。日本の夜景は世界一明るいとされていますから、反対であればネオン等使用しなければ良いと考えます。(男性, 75歳, 兵庫)
原子力や放射線は、これからはやめた方がいい。被曝が怖い。(男性, 75歳, 秋田)
新聞、TV等で発信すれば良いと思います。(男性, 76歳, 三重)
原子力発電(福島原子力発電)東日本震災の被害で受けたものの解決がされず、生活の不安があり、廃炉も時間がかかり、処理も困難であり。他のエネルギー源に対処する必要と思うが?(男性, 76歳, 栃木)
原子力に頼らない社会にしてほしい。(男性, 78歳, 三重)
小泉元首相が言うようになってくれた方がよい。(男性, 78歳, 福島)
正しい言葉で誠実にわかりやすく報告ください。学者にも色々な意見があり、どれを信用して良いかわからないのが、国民であると思います。(男性, 79歳, 新潟)
自然の物を使ってやってはどうか。(女性, 15歳, 神奈川)
ちゃんとした情報を報道してほしい。(女性, 18歳, 福岡)
テレビで知りたい。(女性, 19歳, 大阪)
被ばくによる人体への影響など、私たちの世代はあらわれてこない可能性も、次世代では未知的な事です。問題を先送りしないでほしいです!!(女性, 19歳, 福井)
あまり興味がなく、全然わからないことだらけなので、ちょっとでも知識つけないとなと感じました。(女性, 20歳, 沖縄)
テレビで話す専門家は信用できない。(女性, 27歳, 静岡)
わからない人にもわかりやすくしてほしい。(女性, 27歳, 長野)
うそつきしかいないからわからない。(女性, 28歳, 新潟)
他国の専門家に評価してもらい、正確な情報を伝えてもらいたい。(女性, 29歳, 東京)
有名なタレントさんが広告塔となって情報公開などしてくれると聞き易い。(女性, 29歳, 愛知)
今の状態から、特に何も変わらないと思います。情報源もテレビやインターネットなどしかないと思います。(女性, 29歳, 兵庫)
今の子供達のために何とかしてあげたい。(女性, 29歳, 新潟)
事故はあってはいけませんが、ただ止めれば良いというだけではダメだと思う。反対派の意見ばかりクローズアップされすぎている。(女性, 29歳, 富山)
専門家、メディアによって様々な意見があり過ぎて、どれを信じてよいのかわからない。(女性, 32歳, 静岡)
利益とは関係のない、自分と同じ立場にある人の目線で情報が欲しい。(女性, 32歳, 福井)
原発事故で起きた惨事をもっと重く受け止め(国が)、情報を包み隠さず、公開し、あれだけ壊れた建屋をそのまま使い続けるのではなく、しっかりと放射性物質の漏れを防ぐ処置を取るべきだと思う。そう言った情報公開をすれば、間違った情報により苦しむ人達(風評被害者)がいなくなると思う。(女性, 33歳, 神奈川)
政治家などにまかせて、よくなるわけがないし、ウソばかりニュースなどで流される。(女性, 33歳, 埼玉)
情報はすべてが真実ではないので、自分自身の見極めと解釈が必要。手段はすでに豊富なため、いかに正しい情報、伝え方ができるかも問題かと思う。情報がありすぎて混乱するくらい。(女性, 33歳, 愛知)
小学生くらいにでもわかりやすく原子力などの情報を発信していただけたら、いいかなと思います。(女性, 35歳, 千)
福島の震災がれきを処理する際の放射線が心配(小さな子供がいるので)。(女性, 35歳, 大阪)
今後、これから大きくなる子供達への被曝が心配。(女性, 36歳, 東京)
原子力は危険で怖い。(女性, 36歳, 宮崎)
原子力に代わるエネルギーを開発し、安全な社会になれば良いと思う。それまでは、原子力に頼るしかない。(女性, 36歳, 岡山)
身近ではないので、皆無である。(女性, 37歳, 神奈川)
放射線は赤ちゃんや子供にとっては非常に危険だと思います。(女性, 37歳, 埼玉)
子供達が安心して暮らしていける環境であってほしい。(女性, 38歳, 群馬)
・原子力については、徹底した情報公開が必要。 ・政府はささいなことでも、隠さずに国民に発信するべき。(女性, 38歳, 埼玉)
メディアでもいろいろな分野の専門家がいろいろなことを言うので、どれが本当の事かわからなくなる。(女性, 38歳, 奈良)
正直に情報提供を国民にすること。(女性, 38歳, 神奈川)

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
原子力、放射能、エネルギーの被爆による不安や汚染は米、農作物、水産業、食品への影響に風評被害、甲状腺や人体に及ぶ病氣、ソビエトのチェルノブイリ原発事故の自然災害で知識や知見の頑健性の努力不足で欠陥が巨大大事故を未然に防ぐ調査のデータベース化を可視化にし、医療に関わる医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師等を持つ有資格者を研究チームとして欲しい。安全管理体制や監視、全て安全、安心の人命、人道を大切に厳しく生活習慣のチェック、被災地の人への理解や身心に不安を持っている人が話す場も重要視と言え、身心のケアの為に国の支援で学べて安く資格を持って働くチャンス、社会への歩みとなる土台の為に資格に対してのお金が出る制度。働きつつもできるようにして、教育訓練として行ってもらえるなら、カウンセラーの資格の養成にも訴えて欲しい。NPO等の知識としても、共通まかりの利用醸成として、情報アクセス混乱、困難し、どれが本当に正しいかよりバカなNPOが正しいととらえてしまうことになる。なので、NPOの廃止。政府は知識を持つ国体、行政として国民に話して払拭して欲しい。それに放射能、原子力をなくすより電力、水力、火力、風力や電子に使う。その後処分し、支援で革新的エネルギー環境として利用可能としての研究に活用を望むことです。行政団体、官庁にNPOが意見を言うことをやめて欲しい。専門、研究者として多く発言チャンスを与えて社会への参入として、発展の日本となることを期待しています。(女性, 38歳, 栃木)
詳細がわからない為、困った。(女性, 38歳, 岡山)
自分自身や身近な人に起こっていれば熱心に情報収集等するのであろうが、今はそうではない。どの情報に対しても、決定的な意志(意思)を持ってません。将来の日本、地球はどうなっていくんでしょうか。今の日本で生きていくだけで皆いっぱいなのでは?(女性, 38歳, 千葉)
正確な情報を発信して欲しい。(女性, 39歳, 福岡)
国民のことをちゃんと考えてほしい。(女性, 40歳, 群馬)
テレビやインターネットを見る限り情報が不足しているから、情報発信をもっと公開して欲しいと思います。(女性, 40歳, 東京)
もう少し興味を持たないといけないと思いました。(女性, 40歳, 埼玉)
全て正直に報告して。(女性, 42歳, 岡山)
主婦、子供にもわかりやすい形で説明してほしいです。(女性, 44歳, 山形)
わかりやすく教えてほしい。TVが一番見やすいのでTVで。(女性, 44歳, 大阪)
基本的に原子力は使用しない方が良い。安全に使用することは無理だと思うから。しかし、それに替わるエネルギーで今と同じことができるかと思うと必要なのかな?とも思う。しかし危険なら使用するエネルギーを減らす努力は必要だと思う。今エネルギーを作っている会社の上司や政治家はもっと広い視野で物事を考えてほしい。(女性, 46歳, 特定秘密保護法により公開される情報が制限されたり、追及できなくなったりしないのか不安です。(女性, 46歳, 東京)
原子力エネルギーが完全に安全という保障はどこにもありません。定期的に各施設が現状を公表する必要があると思います。(女性, 47歳, 埼玉)
原子力は生命の危険と人間が住む所まで奪ってしまう為、情報発信は常に正確に報道してほしい。(女性, 49歳, 宮崎)
身近にある放射線ですが、災害等で凶器にもなる。役に立つしこわいし。(女性, 51歳, 千葉)
正しい情報を速やかに国民に伝えてほしい。(女性, 51歳, 北海道)
福島原発事故を教訓に、原子力発電から風水、地熱、太陽発電に切り替えていくべきだと思います。時間はかかっても、国を挙げて取り組むべきだと思います。日本に世界の先駆けになって欲しいです。(女性, 51歳, 鹿児島)
本当のことが知りたいです。何が良くて、どんな点が悪いのか。原子力等使う利点と、使うことで起るリスク、正しい自分なりの判断は、よい面、悪い面も知ってからじゃないとできないと思います。(女性, 51歳, 富山)
新聞、テレビは必ず真実を報道してほしい!(女性, 52歳, 大阪)
専門家が詳しくわかりやすい情報を正確に伝えてくれれば、新聞やニュース…で定期的に知ることが。(女性, 52歳, 宮城)
信頼にあたいする物が無い。(女性, 54歳, 兵庫)
原子力がゼロで生活できる安全な日本にこれからなしてほしい。事故が再び起こりませんように。(女性, 55歳, 東)
情報を正しくが大事だと思うので、わかりやすく伝える為には、を考えながら。(女性, 55歳, 福島)
大手の電力会社から政治献金をもらっている政党では、どうしても原子力発電を止めることはできない。ましてや、外国に原子力発電を売り込むなんてとんでもないことです。(女性, 56歳, 静岡)
原子力発電所の事故の時の原子力委員会等の対応の、あまりのだらしなさに怒りさえ覚えた。今まだ子供達、避難されている方が大変な思いをされている中、原子力に再稼働など考えられない。(女性, 57歳, 長野)
原子力は“両刃の刃”です。事故があつて色々な重大なリスクもわかりました。発電に関してはいずれは廃止して欲しいと思う。海に囲まれた日本は、海を放射能汚染から守らなければならないと思うし、農業の為に“土”も汚染させてはならない。放射線は医療などで大変役に立っています。良い情報は日頃よく目にする市の広報誌や地方新聞などで知らせたら良いと思う。太陽光発電などはもっと助成金を出して推進してゆくべきと思う。今はまだ費用がかかりすぎている。(女性, 58歳, 兵庫)

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問19. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容
原子力安全委員会の見解など新聞に出ていて、各原子力発電所が稼働できない状態が続いている。活断層上で危険なので認められないと出ていたが、日本の技術を総結集して安全安心な原子力発電を稼働させ、日本の産業にそして生活にエネルギー供給できるようにして欲しい。(女性, 59歳, 東京)
NPOの方々と話し合いをする会合があると、参加したいです。(女性, 59歳, 山口)
・新聞の特集。 ・討論会 様々な立場にある有識者による。(女性, 61歳, 大分)
現在放射線治療を受ける側としては、複雑です。各自が生活を大切にすることが、すべてにつながっていくように思います。(女性, 61歳, 大阪)
すべての情報は自分自身でみきわめる。(女性, 62歳, 愛知)
専門的分野なので、常にわかりやすく市民に情報公開して欲しい。新聞、テレビからの情報源は大きいので、絶えず真実を追究していただきたい。(女性, 62歳, 京都)
・自然災害が多発している昨今、原子力発電について、もっと真剣に考えてほしいと思っております。 ・エネルギー自給率の低い我が国なので、国民一人一人が見直す機会になればと思っております。(女性, 64歳, 北海道)
原子力、放射線に関し、あまりにも敏感になっていると感じます。民主党時代の年間1ミリシーベルト等を廃し、国際原子力機関の助言をマスコミ(一部)等で、広く知らしめる最近の一部の国民の取り上げ方(過剰反応)も、マスコミが影響していると思います。新聞で特集を組み、正確な知識を知らせる。(女性, 65歳, 兵庫)
むずかしい専門用語を使わないで、わかりやすい説明を繰り返し発信してほしいです。(女性, 65歳, 大阪)
国や自治体が自らの利益の為に偏った情報発信や方針を展開することを、ちゃんと見極める「真に公正な立場で発信、提言、情報発信」ができる第三者的機関を設立して欲しい。(女性, 65歳, 広島)
ドイツが原発廃止できるのに、何故日本は廃止できないのか…。(女性, 65歳, 静岡)
被害を受けた人の声をもっと発信したら良い。(女性, 67歳, 東京)
福島原発事故の原因を徹底的に追及して情報を国は正確に発信して欲しいし、東電はまず事故対応に本気で取り組んで欲しい。それができなくて、柏崎等で再稼働など考えるべきではないと思う。国は原発以外のエネルギー政策に方針転換をして、その道筋を示してほしい。核廃棄物を未来に残すことはしたくない。(女性, 67歳, 群馬)
全てを公開するべき。いいことも、悪いことも。(女性, 69歳, 山梨)
新聞又は広報等にて内容の説明が必要である。(女性, 70歳, 千葉)
放射性廃棄物の処分に不安。(女性, 70歳, 宮城)
誰をどこまで、何を…信頼してよいのかまったくわかりません。私たちは知らされている中で判断していくしかない。(女性, 71歳, 徳島)
原子力に頼らない自然エネルギーの開発に期待すると共に、人があまりにも便利さや快適さばかりを求めてきたことを反省するべきだと考える。(女性, 71歳, 京都)
特定秘密保護法案が可決されたが、国民に対して危険{特に自然災害で起こった事(放射漏れ)}な事は国民に知らせ、国が変に隠し事をしないように望む。(女性, 72歳, 滋賀)
新聞、テレビの情報、本や雑誌等はそれぞれ自分の都合の良い事を発信しているので、信用はしていない。自分の知識では判断出来ない。(女性, 72歳, 神奈川)
小泉元総理の発言に注目している。(女性, 72歳, 神奈川)
ナニもわからないので、とにかく何となく不安です。(女性, 73歳, 神奈川)
核は反対です。(女性, 73歳, 東京)
原子力はなくす方向に行ってほしいから、危険な情報もかくさず発信して欲しい。(女性, 75歳, 東京)
危険のない安全な環境作りをお願いします。(女性, 75歳, 静岡)
地震と言う自然災害により、原子力エネルギーが注目された。津波被害がなければ、原子力発電所も注目されず、悪者にもならず穏やかな生活が送れたはず。政府側の対応も後になってから批判や非難されるのではなく、当事者のはっきりした発言が欲しかったと思います。人命第一と言いながら、そうできない現実にも目を向けてもらいたい。これからも原子力、放射線とはどういうものか、積極的な情報を国民全体に発信してもらいたいと思います。(女性, 77歳, 秋田)
原子力で便利になりすぎている。(女性, 79歳, 群馬)
豊かさの影には怖いこと(リスク)がある。豊かさだけを強調しない。科学(化学)など、難しい問題は小学生の頃より教えていくべきだと思います。(女性, 79歳, 東京)

## 4. 2 世論調査結果に関するインタビュー

ステークホルダーが原子力に関する知識の普及活動を行う際に活用できる情報発信方法について、調査結果を踏まえたインタビュー調査を行った。

具体的には、「原子力に関する世論調査」の結果を用いたインタビューを 8 名の対象者について実施した。実施状況は表1のとおりで、今後の広聴・広報・コミュニケーションの方向性を分析するために、インタビューの対象者がさまざまなセクターに分布するように配慮した。

インタビューでは、2013 年 11 月～12 月に実施した「原子力に関する世論調査」の結果を用いて、インタビュアーがその概要を紹介しながら、それぞれのトピックに関する意見や感想、また、広聴・広報・コミュニケーションに関する要望や方向性について聞く形式とし、その結果を「信頼」「広聴・広報のあり方」に着目して、整理・分析を行った。

信頼に関する意見については、大きく「信頼の構造に関する意見」「情報源の信頼に関する意見」に整理した。多くのインタビュイーは、不信の理由として挙げられている要因（「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」）について同意しており、これらを解決するために、組織風土そのものの改革の必要性を指摘している。

広聴・広報のあり方については、伝えるべき情報、伝え方について意識する点、教育等について整理した。多くのインタビュイーは、提供される情報は、「全体像が見えるように」「正しい情報を」「わかりやすく」出すことが大切であると指摘している。また、原子力発電について正当に議論するためには、そのメリットについて「自信をもって」「持続的に」伝えることが必要であり、その態度としては、「共感してもらえるように」「謙虚に」「熱意を持って」伝えることが必要と述べている。

表1 インタビューの実施状況

インタビュー対象者	実施日
立地地域住民	2014 年 1 月 20 日
立地自治体職員	2014 年 1 月 30 日
事業者広報担当	2014 年 1 月 31 日
事業者リスクコミュニケーション(RC)担当	2014 年 1 月 23 日
新聞記者	2014 年 1 月 30 日
広告代理店社員	2014 年 1 月 22 日
中学校教員	2014 年 1 月 31 日
リスクコミュニケーション(RC)専門家	2014 年 2 月 3 日

## 4. 2. 1 インタビュー結果の整理と分析

インタビュー結果を整理するにあたり、今後の広聴・広報・コミュニケーションの方向性を分析するという観点から、特に「信頼」「広聴・広報のあり方」に着目した。以下に分析結果を述べる。

### (1)信頼に関する事項

信頼に関する意見については、大きく「信頼の構造に関する意見」「情報源の信頼に関する意見」にわけることができる。それぞれについて整理してまとめた。

#### ①信頼の構造に関する意見

調査結果から、専門家や関係者、国、自治体に対する信頼は押しなべて低い。インタビューイの意見は、主にその理由について集中した。

多くのインタビューイは、不信の理由として挙げられている要因（「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」）について同意しており、これらを解決するために、組織風土そのものの改革の必要性を指摘する声もある。

信頼の理由として挙げられている要因のひとつである「信頼したいから」についても意見が多く、抛りどころが欲しいのではないかと、信頼せざるを得ないのではないかと、等の理由を考察している。

以下、主な意見の抜粋：

- （信頼・不信の理由について）まさに私たちが日頃非言語コミュニケーションで気をつけていることが要素として入っていると思う。相手も信頼したいと思っているだろうから、その期待に応えるべく、誠意を持って、情報を分かりやすく伝えたい、熱意を持って伝えたいと思っている。（事業者 RC 担当）
- 信頼の理由で、「信頼したいから」が高いのは興味深い。「信頼できない」の裏返しで、「信頼したい」という気持ちもあるようだ。（事業者広報担当）
- 「信頼したいから」が高いのは、自分でも考えたいが、抛りどころがほしい、という思いの表れだろう。（中学校教員）
- 「信頼したいから」が多いのは、理由があるわけではなく、信頼せざるを得ない、ということか。（RC 専門家）
- （信頼を失ったときに）専門家に求められるのは、問 11-2 で挙げられているような態度だ。「正直に話していない」「情報公開が不足している」などのポイントが高いということは、専門家のコミュニケーションの能力が問われているということではないか。科学者の中には、科学的なことだけ言っていれば分かってもらえると思っている人もいるようだが、そうではない。（新聞記者）
- どちらともいえない層は悩んでいるわけだから、そこに何らかのヒントがあるかもしれない。「よく分からないけど、どうせ悪いことをしているんだろう」という、イメージ先行で答えている場合もあるかもしれない。（事業者広報担当）
- 事故を受けて、専門家、国が信頼できないという思いに加え、科学技術に対する不信も生じてきたのではないかと考えている。（中学校教員）
- 信頼できる人に判断を任せるとするのが、今の日本人の意識なのかもしれない。（中学校教員）
- 情報公開は必要だと思う。いけなかったことはいけなかったと言う必要がある。その姿勢がなければ、ことなかれ主義に陥り、本質を見失ってしまう。学校もそうだが、事業者は説明責任をきちんと果たす必要がある。それを基に国民が判断する、という構図が望ましい。安全神話が生まれてくるには、生まれてくるだけの土壌があったのだろう。今までは、言いたくても言えなかったのだと思う。（中学校教員）

- 福島事故後、熱意のある人（自治体、専門家など）が自分の考えを表に出せないような構造ができてきた。「分かっているけど、能面でいなければいけない」というプレッシャーがかかっている。でも、そうすると、市民からは「あの人は何もやらないから信頼できない」としかカウントされない。やらなければ伝わらない、ということを知ってほしい。（立地地域住民）

## ②情報源（人・組織）の信頼に関する意見

調査結果によれば、情報源（人・組織）の信頼は、専門家がもっとも高く、次いで国際機関となる。一方、国や自治体の信頼は低い。インタビュー者の意見は、専門家、国・自治体、事業者の信頼について聞かれた。

専門家の信頼は、数値としては高く出ているが、専門家しか頼れないという現状や、多様な専門家の存在から、回答者が具体的な人物を思い浮かべて回答しているのではないかと、このような考察が見られる。また、専門知識の有無を見ている、という指摘もあった。

国・自治体の信頼については、基本的には国の信頼は落ちているはずだが、自治体の信頼は高いのではないかと、という意見が聞かれる。また、事業者の信頼については、その信頼に足るための基軸をきめる必要があるという指摘があった。

以下、主な意見の抜粋：

- 専門家は数値が高いが、ここにしか頼れないという点を間引いて評価してほしい。（立地地域住民）
- 専門家の中にも、推進している専門家もいれば、そうでない専門家もいる。この聞き方だと、「原子力を推進している専門家」というイメージで答えているのではないかと。中には、「原子力を反対しているあの専門家のことは信頼できるのだけど…」と思っている人もいない。（立地自治体職員）
- 「正直には話していないから」「情報公開が不足しているから」は、専門家にすぐわかない評価なのに、値が高い。福島の状態を見ての回答だと仮定すると、「誰も決断しない」という状況を見て、このような回答になったのかもしれない。専門家・関係者が、それぞれバラバラなことを言っていて、どれを信じていいのかわからない状況だ。それに対する不信の表れかもしれない。（広告代理店社員）
- 「どちらともいえない」は、一概には言えない、という意味ではないか。信頼できる専門家もいれば、できない専門家もいる。事業者にしても、「地元の電力会社は頑張っているな」と思っているかもしれないし、全然駄目だと思われる電力会社もあるかもしれない。（RC 専門家）
- 専門知識（能力）の有無を見ているのかもしれない。その結果、専門知識の高い専門家、中立であると思われる国際機関のポイントが高くなったのだろう。（RC 専門家）
- 事故後に専門家に対する信頼が低下するのは当然だ。例えば、医療ミスが多発していた頃は、医者に対する信頼は低下していた。だからといって、素人集団に任せられるかということ、そうではない。やはり専門家に頼らざるを得ない。（新聞記者）
- 「災害時にどの情報を一番信頼しますか」と聞くと、自治体、県、国の順になる。身近なところを信用するという流れがある。（立地自治体職員）
- 国と自治体では評価が違おうだろう。自治体は信頼されていると思う（ただ、都市部と地方では違うかもしれない）。（事業者広報担当）
- 国の信頼は相当低下しているが、自治体に対する信頼は、身近に感じる分、それなりに高いのではないかと。（RC 専門家）
- 当事者（事業者）は「隠していない」と言っている。そして、それはまんざら嘘でもなさそうだ。透明性の基軸がないために、当事者、国民のお互いが誤解をしているのではないかと。（立地地域住民）
- 信頼に関しては、誰の情報かという点が重要だ。「この人の話は信用できる」という話はよく聞かれる。事業者である我々1人1人が信頼されることが必要だ。（事業者広報担当）

### ③情報源(メディア)の信頼に関する意見

調査結果によれば、情報源(メディア)の信頼は、テレビがもっとも高く、新聞、インターネットと続く。また、どれも信頼できないという回答も多い。

インタビューでは、情報源としてのメディアについての意見が多く聞かれた。新聞やテレビは、必ずしも信頼していなくても、それしか情報源がない状態であるのが実情であること、また、メディアは基本的に両論併記であり、「答え」は示さないために、かえって対立構造を引き立たせている可能性などが指摘された。

以下、主な意見の抜粋:

- 新聞・テレビの情報は、100%は信じられないと思っているのに、聞いているとなんとなく「なるほど」と感じてしまうところがある。(立地地域住民)
- 積極的に情報を取りにいこうと思っても、新聞、テレビ以外の方法はなかなかない。(立地自治体職員)
- 事故直後に、テレビは様々な専門家を引っ張ってきて、意見を戦わせたりしていたが、結局結論は出していない。メディアは、右を紹介したら左も紹介しないと公平性に欠けるというスタンスから両論を紹介するが、それを収束はさせない。それが対立をいたずらに増幅させたのではないか。(広告代理店社員)

### (2)広聴・広報に関する事項

本項では、インタビューから出された意見のうち、広聴・広報に関するものを整理して、課題や提案をまとめた。

#### ①広聴・広報に関する全体論的な意見

広聴・広報を実施する上での前提ともなるべき意見を整理した。

まず、原子力に対して「危険」で「不必要」と思われているなら、そもそも広報のしようがないという指摘がなされている。

また、情報の受け取られ方に関する意見が多く見られた。特に、関心をもたれない、積極的に情報を獲得しようとしないうことについては、関心を持ってもらう必要性を述べる意見がある一方で、必ずしも関心を持っていないことは悪い状態ではないという意見も聞かれる。

今後の原子力に関する広聴・広報のあり方として、福島第一原子力発電所事故を受けた視点や国際的な視点を踏まえることが大切ではないか、と述べられている。

以下、主な意見の抜粋:

- 「危険」だけど「必要」と思っているならば広報のやりようもあるが、「危険」で「不必要」と思っているなら広報のしようがない。危機感を持つべきだ。(RC 専門家)
- 悪いことは取り上げられやすいので、人々の記憶に残りやすい。問題がないとニュースにならない。(事業者広報担当)
- 若者のほうが、多様な情報に触れているのかもしれない(テレビだけでなく、インターネットや SNS など)。情報量が多いと、情報の取捨選択が必要になってくる。情報の真偽を見極めなければいけない、という意識が高いのかもしれない(情報を鵜呑みにしない)。一方で、中高年層は旧来のメディア、特に新聞を信じ込んでしまう傾向があるのではないか。(事業者広報担当)
- 勉強会などでも、参加者は専門家を見比べている。(事業者 RC 担当)

- 情報公開を求めているが、自分で説明会に足を運ぶわけではなくて、テレビや新聞で十分、ということなのだろう。(立地自治体職員)
- 「あてはまるものはない」が高いということは、受動的でいいと思っているということだ。情報源は「テレビ」「新聞」がほとんどだったということと関連しているのだろう。(中学校教員)
- 興味がない人には、いくら情報を出しても届かない。だから、関心を持ってもらうことが大切だ。(事業者広報担当)
- 関心がないことは、本当はいいことだ。改めて聞かれれば「不安」と答えるが、日常では不安を感じていない(見学会に行こうとまでは思わない)ということの表れなのではないか。(新聞記者)
- 福島の方は、「福島の子供は放射線について勉強しているが、福島県以外の子供はあまり勉強していないので、福島の子供が県外に転校すると差別を受けるのではないかと心配している。全国での教育が求められる。単に「原子力は安全ですよ」と言うための広報ではなく、そういう目的のために放射線の広報をしていただければと思う。(RC 専門家)
- 今までは、原発の議論は国内でクローズしていた。今は、地球全体として原子力をどう利用していくか、という段階に来ていると思う。福島の実験を世界で活かせるようにしていくべきだ。(中学校教員)

## ②伝えるべき情報に関する意見

広報として伝えていくべき情報として、もっとも多く聞かれたのは、日本におけるエネルギーの現状についてである。単に「自給率 4%」を謳うのではなく、エネルギーの安定供給に関して日本のおかれてきた歴史的背景などを踏まえて、原子力発電の意味とは何であるのかを見出していくような議論をする必要があると述べる。また、そのようなバランスの良い情報提供が望まれている。

一方、福島原発事故以前によく用いられていたロジックである「地球温暖化に有効である」「コストが安い」については、そのような単純な話ではないという指摘がされている。原子力発電所のメリットと併せて、放射性廃棄物のようなデメリットを明確に示すべきであるとの意見が聞かれる。

以下、主な意見の抜粋:

- 「自給率 4%」の認知度が低い。せめて 3 割くらいには認知されてほしい。(事業者広報担当)
- 自給率 4%が悪い、ではなく、4%だと何が起こるのかということを考えるべきだ。それを考えると、原発導入時期のロジック、イメージ戦略はすごいと思う。(広告代理店社員)
- 原子力に飛びついたのが間違いだとするならば、日本が生き残るためには他にどんな手段があるのか、ということを考えるべきではないか。(広告代理店社員)
- やはりエネルギーの議論をきちんとすることが大切ではないか。原発のことを正しく理解してもらえば、エネルギーの議論をすべきではないか。その中では、歴史も踏まえて日本のエネルギーをどうすべきか、という議論があって、その後、その中に原発の立ち位置があるかどうかを考えるべきではないか。(広告代理店社員)
- 省エネに対する意識は、事故直後は高まっていた。しかし、今は後退気味。省エネを皆でやっという時期は終わってしまった。ただ、ハイブリッド車への関心はまだ残っている。(中学校教員)
- 日本は電気の品質が高い。これが日本の技術を支えている。しかし、一般市民は、供給されるのが当たり前で、停電が起きるとは思っていない。電気の品質が高いという認識はない。(中学校教員)
- 「原発は温暖化対策に有効である」はあまり武器にならないと思う(温暖化は本当に起こるのか懐疑的なので)。そうではなくて、エネルギー自給という点で訴求してはどうか。化石エネルギーを特定の国に依存することのマイナスを謳ったほうが、原子力にとってプラスになるのではないか。(新聞記者)
- 石油、石炭で国富が流出していることを皆は知らないのだろうか。メディアにはそういう情報があまり出てこない。市民は金に敏感なのに、情報が断片的なので、バランスよく考えるこ



とができないのかもしれない。(事業者 RC 担当)

- エネルギーの問題は、単純な経済性の問題だけではない。国は「原子力はコストが安い」と言っているけれども、そんなに単純な話ではないと思う。(広告代理店社員)
- 原子力発電の問題点も併せて考えるといいだろう。二酸化炭素は出さない(メリット)が、放射性物質のこと(デメリット)もある。事故によって、国民はデメリットを強く認識したと思う。(RC 専門家)
- 私が授業で教えなければならないと思ったのは、エネルギーセキュリティ、電気の品質、もうひとつは高レベル放射性廃棄物の最終処分のことだ。最終処分の全体像が見えてこない(伝わってこない)。その状況は今も変わっていないと思う。誰かが何とかしてくれると思っている人が多いのではないか。高レベル放射性廃棄物のことを考えなければ、復興や、きちんとした日本としての対応はできないだろうと思っている。(中学校教員)
- リスクコミュニケーションの立場としては、平常時のリスクと緊急時のリスクを分けて情報提供したいし、分かってほしいと思っている。(事業者 RC 担当)

### ③伝え方に関する意見

情報の伝え方については、大きく3つの視点の意見が見られる。

まず、提供する情報自体が持つべき特性である。提供される情報は、「全体像が見えるように」「正しい情報を」「わかりやすく」出すことが望まれている。「全体像が見えるように」というのは、結果だけを示す(例えば、エネルギー自給率 4%)のではなく、その内訳やプロセス、考え方も同時に伝える必要がある、ということである。また、「わかりやすく」については、実生活とつながりやすい話し方を工夫すべきだとの指摘がある。

次に、広報する主体が実際に取るべきアクションについてである。やはり原子力発電について正当に議論するためには、そのメリットについて「自信をもって」「持続的に」伝えることが必要だとの指摘がある。一方、メリットを伝えることの困難さを指摘し、それを打破するためには、「共感してもらえるように」「謙虚に」「熱意を持って」伝えることが必要と指摘している。

また、伝え方についてしっかりと訓練をすることで、不必要な混乱は避けることができるという意見や、男女差を認識した上で、しかし、男女別の広報戦略を立てることは無意味との指摘、間違った報道に対して明確に対処することが大切であるとの指摘も見ることができる。

最後に、伝える・伝わる仕組みについて、関心が高まっている時勢を逃さないようにする大切さの指摘や、単なる情報提供ではなく、考えさせる情報提供のあり方についても指摘がなされている。具体的な提案としては、(社会調査によれば信頼の高い)専門家がもっと前面に出て、ダイアログを実施してはどうか、という意見が多い。一方、フランスの CLI のような仕組みを単に導入しただけでは機能しないとの意見もある。さらには、原子力発電という領域を越えて、地域のコミュニケーション拠点となるような仕組みを構築すべきとの提案もなされている。

また、従来の広報手段について、パンフレット等の広報媒体を「本当に見てもらいたい」市民の視点からチェックする機能の提案や、展示館等の活用、誤報道へ

の対処法などについて意見が述べられた。

以下、主な意見の抜粋：

■提供する情報が持つべき特性

- エネ庁の説明は、切り分けた情報、知ってほしい情報が多く、私たちが知りたい情報が知れる構造になっていない。また、全体像が分からないまま、部分的な情報を提供されるから、そのときは分かったようなつもりになるが、あとで分からなくなってしまう。(立地地域住民)
- 小・中学生に対する説明のような説明が聞きたい。それをベースとして、私たちとしては、どうして4という数字が出たのか、ということも知りたい。国内に資源がないということは分かるのだが、福島事故後、地熱発電などが取り上げられている。だから、4%に説得性がない。(立地地域住民)
- 正しい情報をしっかりと出すということは、今の日本にとって、優先順位の高い仕事だと思う。(立地地域住民)
- エネルギーセキュリティの話をする際には、分かりやすい、実生活とつながりやすい、イメージしやすい話をしなければと思う。(事業者広報担当)
- 飛行機に乗るときの荷物のチェックは「非破壊検査」なのだが、そうだと思っていないのだろう。言葉の使い方次第だろう。例えば、「荷物検査で使われるレントゲン」と聞けば、9割以上の人が知っているかというのではないか。(新聞記者)
- 原子力の必要性を話すときには、3Eを持ち出すが、エネルギーセキュリティの話は国民には分かりにくいかもしれない。議論のテーマとして取り上げられることもあまり多くない(⇔経済性や環境問題は話題になりやすい)。(事業者広報担当)
- 環境関係の話は比較的イメージしやすい。CO<sub>2</sub>、地球温暖化などのキャッチフレーズも理解しやすい。また、経済性に関しても、電気料金が上がれば実感しやすい。伝わりにくいのはエネルギーセキュリティだ。(事業者広報担当)

■取るべきアクションの提案

- アカウンタビリティが大前提だろう。原子力や放射線に関する正当な理解を得るためには、それが何なのかを伝えるという当たり前のことをやらなければならない。市民の認知は、どれだけの情報が入ってくるかによる。事故が起これば、事故の情報が大量に入ってくる。その認識を変えるのであれば、放射線の利益などを、同じ量だけばらまくことが必要、ということになる。(広告代理店社員)
- 「化学物質やインフルエンザウイルスは見えないけど、放射線は測れば分かるから、対応ができるんですよ」という話をすることもある。なじんでからでないとできないが。いきなりこちらから言うと、「放射線は安心だって思わせたいんでしょう」と思われてしまうので。共感を求めているような話題でないと、伝わらないので。(事業者RC担当)
- 今は、原子力のメリットを謳い、社会的に受け入れてもらうコミュニケーションができなくなっている。住民の説得は非常に難しい。説得ができなければ、何事も先に進まない。その方法を模索すべきだ。自信がないと相手を説得できない。自信と謙虚さをバランスよく持つことが求められる。熱意を持って語ることも必要だ。(新聞記者)
- 記者はバランスよく知っているけど、何をニュースにするかとなると、世間に受ける話になってしまう。エネルギー自給率が低いということを言い続ける団体、人がいれば、気づく人も増えてくる。人のアクション次第で、ニュースの方向性を変えることもできる。例えば、小泉氏がアクションを起こしたことで、原発、放射性廃棄物のニュースが増えた。(新聞記者)
- 専門家は、上手な情報の出し方を知らないのだから、どの情報を出すか出さないか、試行錯誤しながら情報提供をしている。「世間の混乱を避けるためにこの部分は出さない」という対応をし、その後批判が高まったので結局出した、というようなケースもみられる(例：甲状腺の検査結果)。その結果、世間からは情報を隠していると見られてしまう。本当は、上手に説明ができれば、情報を出しても混乱は起きないはずだ。説明の練習も足りないのだろう。(新聞記者)
- 間違った記事があったら、それを書いた人にすぐに間違いだと伝えることが大切だ。第三者ではなく、電力会社(当事者)が直接言うのが一番いい。「間違ったことを書かれると、我々のエネルギー対策が間違っただけで伝わってしまうので困る」という言い方をすれば、響くのではないか。電事連や第三者が言うよりは、当事者が言うほうがいい。間違った記事を書かれた当事者が言うほうが効果が大きい。(新聞記者)
- 男女差も見べきではある。ただ、男性向け、女性向けの広報をするのはナンセンスだ。社会経済生産性本部の調査を見ると、若い層の男女差はほとんどなくなっている。例えば、原子力

の必要性に関しては、60代以上の男女差はほとんどない。若い層も違いがない。差があるのは中間層だ。(RC 専門家)

■伝える・伝わる仕組みに関する意見や提案

- 国民の放射線に対するリテラシーを上げていかないといけない。一度に全体を上げることはできない。何かが起こって(例: スーパーから放射性物質が出たとき)、関心が高まっているときに、その都度その都度リテラシーを上げていくことが重要だ。(広告代理店社員)
- (学校で)空間線量を測ると、「大丈夫なのか?」と聞かれる。そのときに、学校の先生は「自分で大丈夫かどうか考えてください」というアプローチをする。一方、専門家は聞かれると説明をしてしまう。上意下達でない情報提供のあり方も大切だと思っている。(中学校教員)
- もっと専門家が前に出てもいいのではないかと。政治家だけではなく、専門家がダイアログをしてもいいのかもしれない。専門家の議論はどうしても分かりにくくなってしまいが、それを分かりやすく翻訳して、情報を出せばいいのではないかと。(広告代理店社員)
- 信頼がある、ないの差は非常に大きい。それを考慮せず、外国のシステム(CLI)だけを持ってきても、どうしようもない。(立地地域住民)
- 若い人たちにきちんとエネルギー論を伝えることで、冷静な議論を作っていけるかもしれない。その次のステップとして、高齢者に対しても「もう一度冷静に考えましょう」と呼びかけていく、というような方法がいいのかもしれない。(広告代理店社員)
- ベラルーシやウクライナの地域情報センターのように、学校の教員は、地域に対する情報発信の役割を担っていく必要があるのではないかと考えている。この中学校は、地域の避難拠点になっている。有事に避難拠点を運営するために、月に1回、地域の方が集まって話し合いをしている。その場で、私は放射線の話をすることもある。そういう形で地域に情報発信をしていくことが求められるのではないかと。(中学校教員)
- 展示館に関しては、最近は閉鎖するところも多く、学校の先生から、「連れていきかけたのに」「なぜ閉まってしまったのか」という声が聞かれる。(事業者 RC 担当)
- 施設見学会、説明会は、開催案内に応じる形。自発的に知りたくなったときに行く場所は展示館ではないかと。自発的に情報を得る経路を確保しておくことは大切だ。(事業者 RC 担当)
- パンフレットは、専門家(原子力部)の目線で作られている。しかし、実際は、対象者が知りたいことを載せなければ高い評価は得られない。それをデータで示せば、と思っている。本当に読んでほしい人に近い目線の人にレビューしてもらった必要がある。(RC 専門家)
- メディアを診るメディア(メディアのメディア)も必要だと考えている。エネルギーや放射線の記事について、GoHoo に投稿するという手もあるのではないかと。(新聞記者)
- 報道に間違いがあったら、それを1人でも多くの人に伝えていく必要がある。医療、食品分野ではそのような取り組みがあるが、エネルギー、放射線に関してはない。第三の情報発信機関(メディアに代わる新しいメディア)を作ったほうがいいと思う。電事連がウェブサイトを立て上げてはどうか。反論も受け付けるようにして。ただ、電事連主体でやっている、「メディアの検閲だ」という批判も来るだろう。ウェブサイト自体は電事連で作ってもいいが、運営は第三者組織のほうがいいかもしれない。(新聞記者)

■参考事例の提供

- GoHoo という団体は、弁護士が新聞の間違いを正す活動をしている。GoHoo は、政治、経済、国際関係の記事を扱うことが多い(科学的なことは分からないから)。(新聞記者)
- 年金問題に関して、サンデル氏をお招きし、市民が討論する場を設けたことがある。サンデル氏は、自身がファシリテーターになり、高齢者には若者に対し、若者には高齢者に対し、提言を出すことを繰り返させた。そうすると、最終的には相手のことも慮って、一歩引くというような行動が見られた。異なるステークホルダー同士の対話(国と住民ではなくて、住民同士)によって、お互いのジレンマをお互いに認識することが大切だと思ふ。それによってジレンマが少しでも減らせれば、と思っている。(広告代理店社員)
- ベラルーシ・ウクライナの地域情報センターは、設立当初はチェルノブイリ事故への対応が主だった(放射線の情報など)。25年が経過し、趣味のクラブなどもでき、生活に密着したコミュニティに変貌している。(中学校教員)

④教育

社会調査では、教育への期待が大きい。そこで、教育については別項目として整理した。多くのインタビューも、原子力やエネルギーに関する教育について

必要性を認めながらも、「誰が教えるのか」「何を教えるのか」ということについて、若干の懸念が見られる。

そのような中、中学校教員のインタビューは、遠い将来までも見据えて、ニュートラルな情報を正しく伝え、各自が能動的に情報を獲得し、判断できるようになることを導く教育を実施していくことが大切であり、学校の役目であると述べている。

以下、主な意見の抜粋：

- 教育課程に入れるという動きはあるが、何を教えるのかによる。ある、悪い、とだけ教えるのか。何をどのように教えたらいいのか、という分析が求められる。(立地自治体職員)
- (教育では)「誰が教えるか」が問題だ。(新聞記者)
- 私たちは、正しい情報を知識として伝えなければいけないと思う。1、2年のスパンではなく、100年を見据えて、子供たち、保護者に伝えていく必要がある。(中学校教員)
- 子供に教えると、保護者にも伝わる。教員の役割は大きいと思っている。(中学校教員)
- 自由記述の中に、「自分で判断することの大切さを感じた」とあった。一方で、「自分では判断できません」という意見もあったので、判断することの大切さ、また、判断ができるだけの情報提供、教育が大事になってくると感じた。(中学校教員)
- 学校の教員にできるアプローチは2つあると思う。1つは、自然科学的アプローチ。理科で、放射線の性質を正しく教える。もう1つは社会科学的アプローチ。社会科の公民分野で、例えば、持続可能性を踏まえてエネルギーセキュリティのことを伝えていく。あおるのではなく、ニュートラルな情報を伝えていくことが重要だと思う。(中学校教員)
- 放射線学習の最後の段階に高レベル放射性廃棄物の処分の問題を入れ込んで、ディベートをさせて、自分なりの意思決定をさせる、という構想を練っている。それが、ゆくゆくは国民の合意につながっていくと思っている。(中学校教員)
- プッシュ型の情報源のポイントが高く、プル型の情報源のポイントは低い。受動的に情報を得ている人が多いのだろう。それを能動的に変えていく必要がある。そのためには意識を高める必要があり、それは学校の役割だろう。(中学校教員)

### (3)調査票の改善に関する事柄

本調査におけるインタビューでは、調査についての意見も多く聞かれた。それについて、項目別に整理しておく。

#### ①イメージ

- マルチアンサーではなく、2つから選ぶ方式(安心-不安でどちらかを選ぶ方式)に変えるべきではないか。「皆怖いと思っている」くらいしか分からないのであれば、抜本的に設計を変えても構わないはずだ。
- 立地地域に関しては何も言及しないほうがいいのではないかと(全国の世論の議論をすべき)

#### ②関心・知識

- マルチアンサーでは、本当の意味で知っているのかどうかは測れない。1つずつ聞かないと、知識を測ったことにはならない。本当に必要な項目だけを残し、それを1つずつ聞くようにすべきだ。科学技術政策研究所の調査などを参照してみようか。
- 知識を問う場合は、間違った文章も入れるべきだが、そうっていない。日本人は正解を探すことに慣れているので、知っている、知らないとは関係なく、もっともらしいもの(正解)に丸をつけがちだ。そのバイアスをどう考えるか。知識を聞くのではなく、意見を聞くならば、問題は無い。例えば、「もっと自然エネルギーを使えるはずだ」などの選択肢を組み込むことができるので、自由度が増える。
- その年だけのトピックと、経年で聞きたい質問を分類すべきだ。経年の質問は、今後変更することができないので、十分な検討が必要だ。また、他の調査と比較ができるような設計にすれば、過去のデータと比較ができる。

- 「これらの項目に関して広報をしていて、ポイントが上がっている」というなら、調べる意味がある。特に広報をしていないなら、変化しないのは当たり前だ。

### ③ベネフィット認知

- 「必要」「有益」「利用は役に立つ」がベネフィット認知の構成要素ならば聞く必要があるが、そうでないならば、(調査のコスト削減を考えると)「必要」だけでもいいかもしれない。
- 原子力と放射線はあまり区別されていないのかもしれない。ただ、それを確認する手段がない。「原子力の利用」と曖昧に聞くのではなく、「放射線の利用」「原子力発電」で分けたほうがいいのではないか。
- 関東、関西の差について分析してもいいかもしれない。
- 医療、工業、農業でまったく違う。医療のメリットはよく知られている。工業利用はあまり知られていない。農業利用は、食品照射などのイメージから、否定的意見が多いのではないか。一緒に聞いては意味がない。

### ④リスク認知

- 現象をどう思っているか、影響をどう思っているか、原因の中で何が重要だと思っているかは、別々に聞くべきだ。現象の中でも、事故の何が気になっているのか、何が問題だと思っているのか(情報が遅かったこと、汚染が広がっていること、賠償が進まないこと、など)を聞いてみると、信頼の構成要素が分かるかもしれないし、今後の対策にも役立つことができる。
- マルチアンサーのときは、選択肢に区別がつくことが大切だ。同じような項目ばかり並んでいると感じたのではないか。結局、一般市民が関心があるのは、最後の「人体影響」だと思う。
- 食の安全のほうが気になる方が多いのではないか。「環境中の放射線」は外部被ばくだ。内部被ばくについても聞いてみてはどうか。

### ⑤信頼

- 国と自治体は分けて聞くべきだ。
- 「自分たちの利益優先」という書き方よりも、安全性と経済性のバランスを聞いてみてはどうか。「安全性よりも経済性を優先した」という報道が多いので。
- 調査をするより、「どういう情報を出したら信頼されるか」という事例のほうが、広報戦略としては役に立つのではないか。電力会社のパンフレットは、電力会社に行かなければ手に入らない。実物を見せて、これが役に立つかどうかをインタビューするほうがいい。

### ⑥原子力に対する態度

- 利用一廃止に関しては、積極的利用、慎重に利用、現状維持、徐々に廃止、即時廃止、と区切って聞く調査が多い。それと比較できないのが残念だ。

### ⑦広聴・広報

- 「被災者への支援」という項目はないのか。消費地の方にはそういう意識はないのかもしれないが、立地地域の方は、万が一自分の地域で事故が起きたときにどのくらいの補償があるのかを非常に気にしているのではないかと思う。
- 「原子力やエネルギー」と書いてあるので、原子力だけではなく、新エネルギーや電気自動車などをイメージしている人もいるかもしれない。もう少し具体的な選択肢にしてもいいかもしれない。「放射線測定の勉強会」、「防災訓練に参加してみたい」、「理科の勉強になる実験教室」など。
- 電事連は、全国の電力会社のベストプラクティスの事例を集めている。それを調査票に盛り込んで、効果測定してはどうか。